Panasonic®

取扱説明書

デジタルビデオカメラ

品番 NV-GS400K

かんたん操作編

よくある質問

応用操作編

より詳しく

その他

上手に使って上手に節電

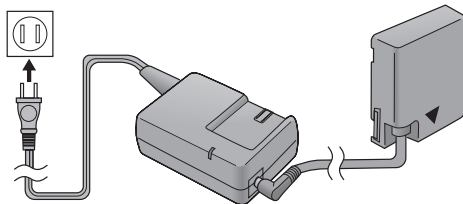
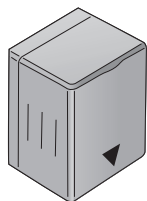
保証書別添付

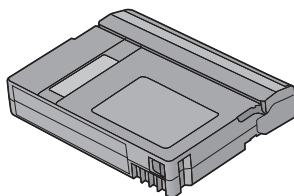
このたびはデジタルビデオカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に「安全上のご注意」（128 ～ 133 ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。**
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

MultiMediaCard™ LEICA DICOMAR

VQT0J78

こんなことができます

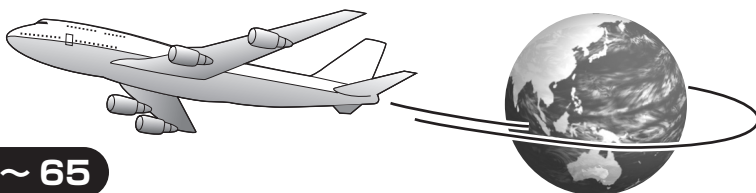
電源としてバッテリー・AC アダプターを使う

P18 ～ 19

デジタルビデオカセット（テープ）に撮影する

P26 ～ 27

コンパクトな SD メモリーカードに静止画を記録する

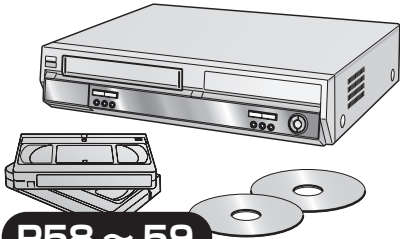
P27 ～ 29

※ SD メモリーカードは別売です。

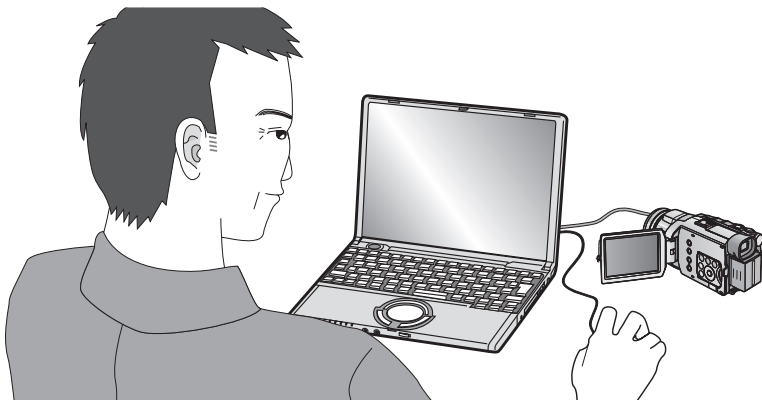
海外でも使うことができる

P64 ～ 65

撮影した映像をテレビで見る

P56 ～ 57

撮影した映像を DVD や VHS カセットなどにダビングする

P58 ～ 59

パソコンにつないで使う

P94 ～ 95

バッテリーの充電時間・カードへの記録枚数などの詳しい情報は

P66 ～ 67

もくじ

かんたん操作編

よくある質問

応用操作編

応用操作編（つづき）

撮影機能

再生機能

カード設定

より詳しく

その他

まずお読みください！

■ 事前に必ずためし撮りをしてください。

大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影（録画など）や録音されていることを確かめてください。
特に「特殊効果」や「逆光補正」をご使用の際は、設定をご確認ください。

■ 撮影内容の補償はできません。

本機およびカセット（テープ）、カードの不具合で撮影（録画など）や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気を付けください。

あなたが撮影（録画など）や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

- 本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権により保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り、家庭用およびその他の一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

■ 本書内の写真、イラストについて

本書内の写真は、説明のためスチル写真から合成しています。また、本書内の製品姿図・イラスト・メニュー画面などは実物と多少異なりますが、ご了承ください。画面のイラストでは、表示される文字や記号を実物より大きくして説明しています。

■ 参照ページについて

参照いただくページを（P00）で示しています。

■ 本機で使用できるカセットは

Mini DV マークの付いたデジタルビデオカセットテープです。

■ 本機で使用できるカードは

SD メモリーカード、マルチメディアカードです。

- 本書では、バッテリーパックのことをバッテリー、SD メモリーカード / マルチメディアカード /miniSD ™カードのことをカードと記載しています。
（miniSD ™カードをお使いになるには、miniSD ™アダプターが必要です）

- SD ロゴは商標です。
- Microsoft Windows は米国 Microsoft Corporation の商標です。
- Macintosh、MacOS は Apple Computer Inc. の登録商標または商標です。
- LEICA/ ライカはライカマイクロシステム IRGmbH の登録商標です。
- DICOMAR/ ディコマーはライカカメラ AG の登録商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

ホームページではビデオの撮りかたやコツ、新製品の情報などを紹介しています。参考にご覧ください。

http://panasonic.jp

また製品のサポート情報については

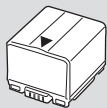
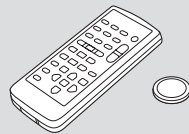
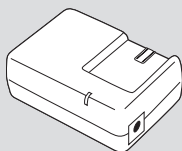
http://panasonic.jp/support

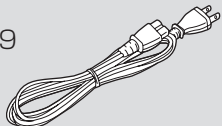
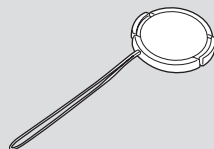
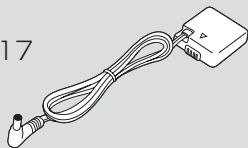
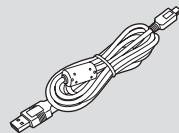
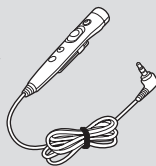
をご覧ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

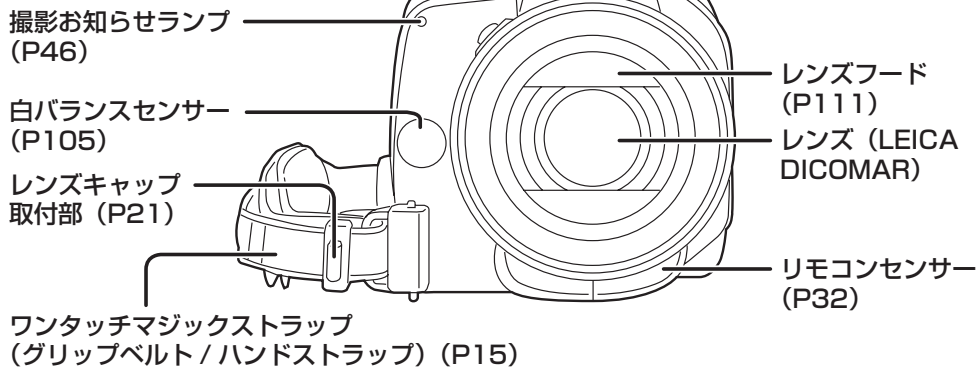
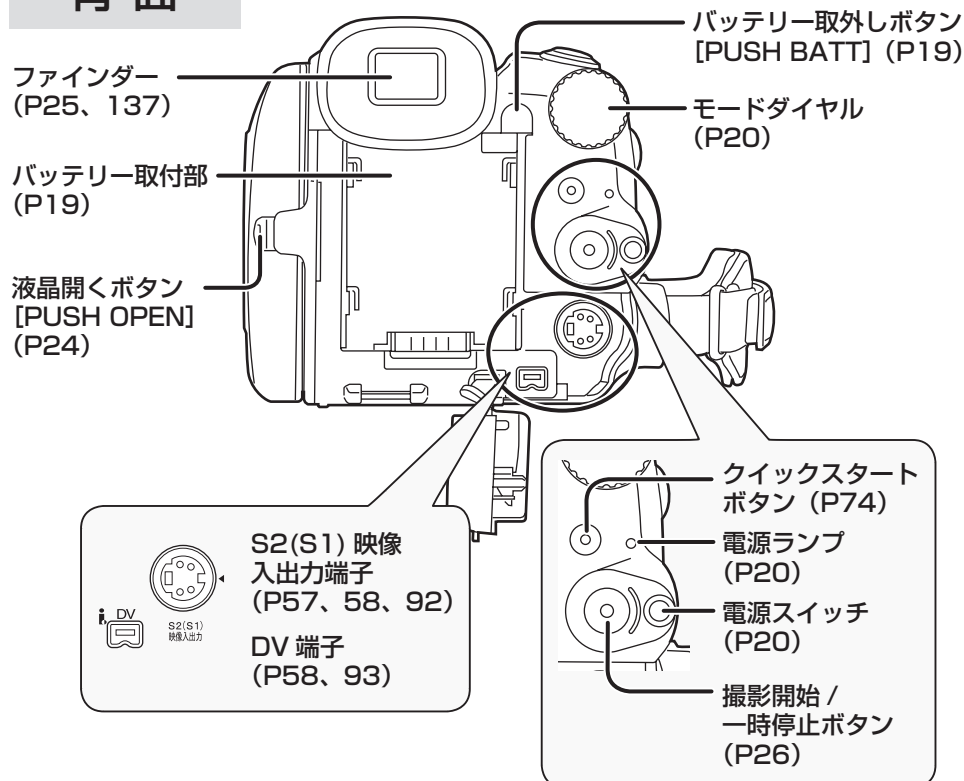
付属品

以下の付属品がすべて入っているかお確かめください。
記載の品番は、2004 年 6 月現在のものです。

バッテリーパック
VW-VBD140

ワイヤレスリモコン
N2QAGC000017
コイン電池
CR2025

AC アダプター
VSK0650

映像 / 音声コード
（ミニジャック対応）
K2KC4CB00009

電源コード
K2CA2DA00009

レンズキャップ
VYF2992

DC コード
K2GJ2DZ00017

USB 接続ケーブル
VFA0425A

マイク付き
フリースタイルリモコン
N2QCBD000030

CD-ROM

各部の名前

前 面

背 面

ファインダー
（P25、137）

バッテリー取付部
（P19）

液晶開くボタン
[PUSH OPEN]
（P24）

バッテリー取外しボタン
[PUSH BATT]（P19）

モードダイヤル
（P20）

DV
S2（S1）
映像入出力

S2(S1) 映像
入出力端子
（P57、58、92）

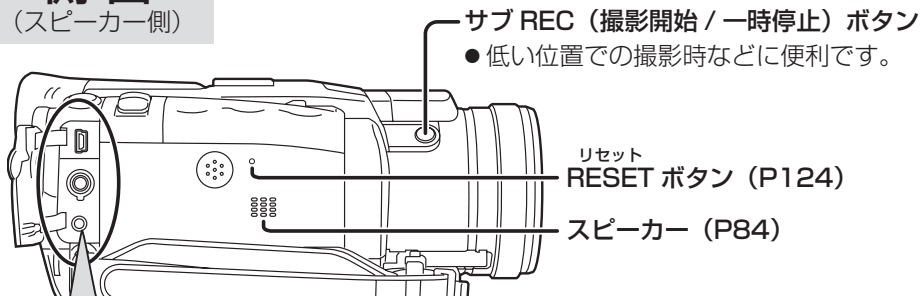
DV 端子
（P58、93）

クイックスタート
ボタン（P74）

電源ランプ
（P20）

電源スイッチ
（P20）

撮影開始 /
一時停止ボタン
（P26）

側 面
（スピーカー側）

■ リモコン / マイク（プラグインパワー）端子について

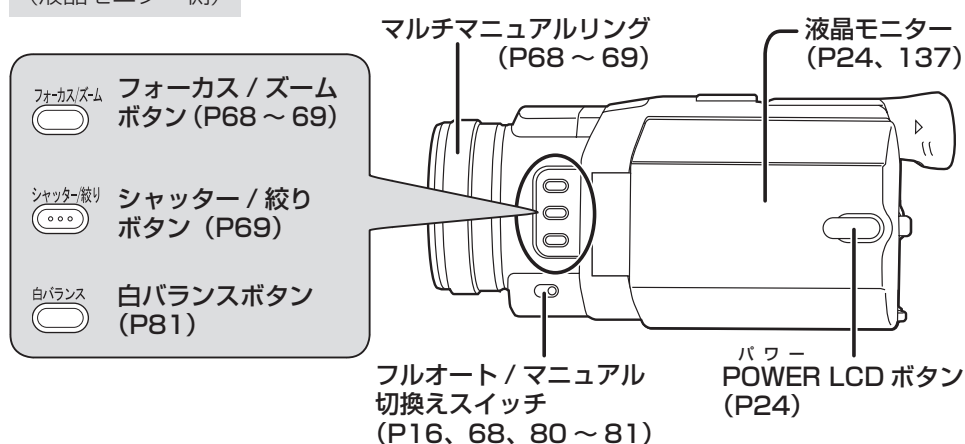
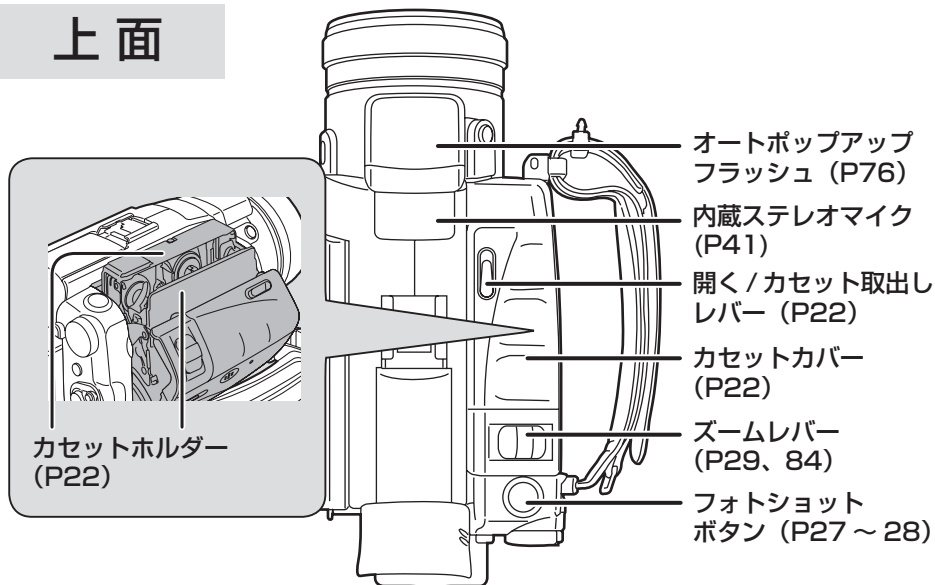
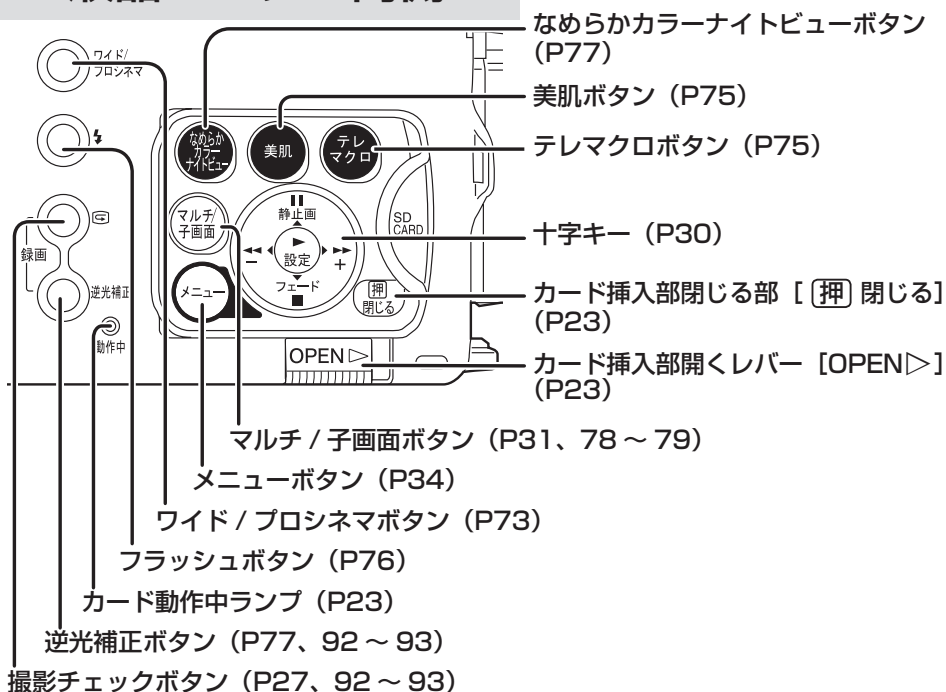
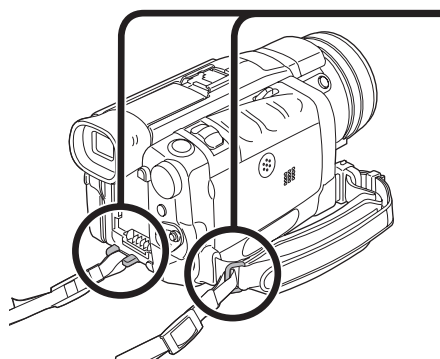
● プラグインパワー対応のマイクが外部マイクとして使えます。
● マイクによっては、「ブー」という音が出ることがあります。この場合はバッテリーでのご使用をおすすめします。

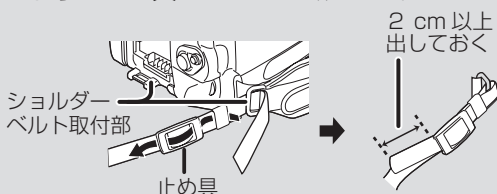
側 面
（液晶モニター側）

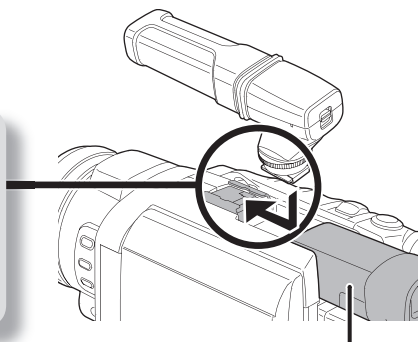
上面

オートポップアップフラッシュ（P76）
内蔵ステレオマイク（P41）
開く / カセット取出しレバー（P22）
カセットカバー（P22）
ズームレバー（P29、84）
フォトショットボタン（P27 ～ 28）
カセットホルダー（P22）

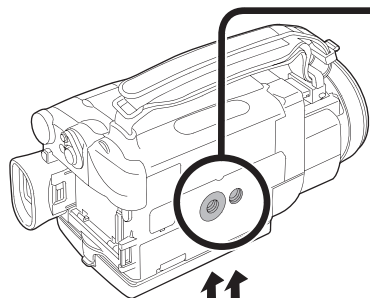
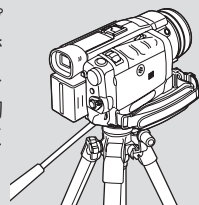
液晶モニター内側

なめらかカラーナイトビューボタン（P77）
美肌ボタン（P75）
テレマクロボタン（P75）
十字キー（P30）
カード挿入部閉じる部［押 閉じる］（P23）
カード挿入部開くレバー［OPEN▷］（P23）
マルチ / 子画面ボタン（P31、78 ～ 79）
メニューボタン（P34）
ワイド / プロシネマボタン（P73）
フラッシュボタン（P76）
カード動作中ランプ（P23）
逆光補正ボタン（P77、92 ～ 93）
撮影チェックボタン（P27、92 ～ 93）

ショルダーベルト取付部

- ショルダーベルト /VW-CMD2（別売）を取り付けるところです。
- 取付部にベルトをとおしてから、外れないように止め具にとおしてください。

ホットシュー

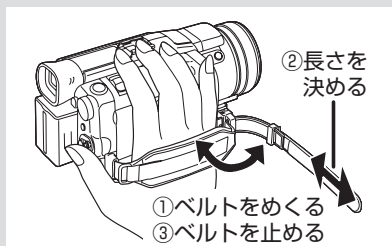
- ステレオズームマイクロホン /VW-VMH3（別売）やビデオDCライト/VW-LDH3（別売）などを取り付けるところです。
- ホットシュー対応のアクセサリー使用時は本機から電源などを供給します。

（取り付け / 取り外し時は、ファインダーを引き伸ばしておく）

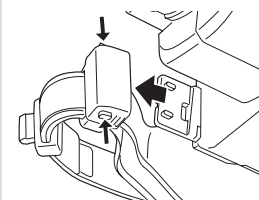
三脚取付穴

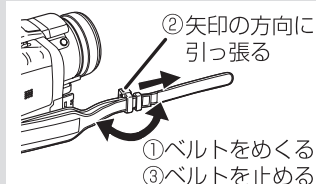
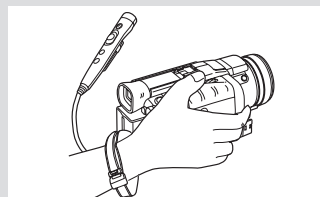
- 三脚 /VW-CT45（別売）を取り付けるための穴です。（取り付けかたは三脚の説明書をよくお読みください）
- 三脚使用時は、フリースタイルリモコンで操作すると便利です。
  （使わないときは、クリップをグリップベルトに挟んでおくと便利です。ポケットなどに取り付けたまま移動するときは、三脚の転倒にお気を付けください）

ワンタッチマジックストラップを使う

■ グリップベルトとして使う

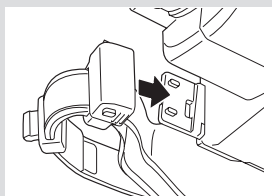
手の大きさに合わせて調整してください。

ベルトの長さ、パットの位置を調整する

■ ハンドストラップとして使う

1 本機から外す

- 本機を両手でしっかりと押さえながら外してください。

2 ベルトの長さを調整する

3 ストラップに手をとおす

- フリースタイルリモコンで操作すると便利です。

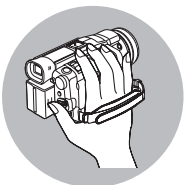
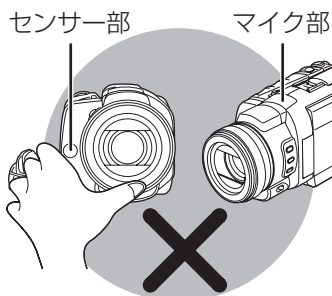
■ グリップベルトに戻すには

- 「カチッ」と音がするまで押し込む

撮影前の確認

以下の項目を確認して、大切な撮影（結婚式など）は必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影（録画など）、録音されていることを確かめてください。

● 基本的な構えかた

両手でしっかりと持つ

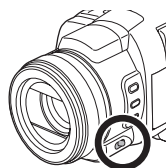
グリップベルトに手をとおす

● チェックポイント

- グリップベルトの調整（P15）
- 電源の準備（P18 ～ 19）
- レンズキャップを外す（P21）
  （レンズキャップを付けたまま電源を入れると、オートホワイトバランスが正しく合わないことがあります。必ず外してから電源を入れてください）
- カセット / カードを入れる（P22 ～ 23）
- 液晶モニター / ファインダーの調整（P24 ～ 25）
- リモコンを用意する（P32）
- SP/LP モードの設定（P40）
  （大切な撮影には SP モードをお使いいただくことをおすすめします）
- 年月日 / 時刻の設定（P96）

● フルオートモードについて

フルオート / マニュアル切換えスイッチを「フルオート」にすると、自動でピントや色合い（白バランス）が合います。
（画面に「フルオート」表示が出ます）
- オートホワイトバランス ：P126
- オートフォーカス ：P127

フルオート　マニュアル
AEロック

光源や撮る場面によっては、ピントや色合いが自動では合いません。この場合は、手動（マニュアル）で調整してください。

ピントの設定	P69	AE 設定	P80
シャッター速度の設定	P69	白バランスの設定	P81
絞り・ゲイン値の設定	P69		

● 照明について

- 屋外ではなるべく太陽を背にして撮影してください。逆光では被写体が暗く撮影されます。
- 海辺やスキー場など、周囲が明るすぎて人物が暗いときは、AE 設定を「（サーフ&スノー）」にしてください。
- 全体が明るすぎるときは、フィルターキット /VW-LF43W（別売）の ND フィルターを使うと効果的です。
- 屋内では照明に合った白バランスモードを選んでください。

● 撮影場面に合わせた設定例

以下の設定はあくまでめやすです。光源や照明、天候、被写体の色や動きによっては、うまく撮れないことがあります。
大切な撮影の前には、どの設定でどのように撮れるかためしておきましょう。

披露宴、舞台、発表会

白バランス：場面ごとに設定

- スポットライトが当たっている場所では、AE 設定を「（スポットライト）」にすることをおすすめします。

運動会

白バランス：オート
フォーカス：マニュアル

- 近距離でお子様の動きが速い場合は、オートフォーカスではピントが合わなくなる場合があります。

夜景、花火

白バランス：☀（屋外モード）
フォーカス：マニュアル

動きの速いシーン（ゴルフのフォームなど）

ＡＥ設定：（スポーツ）
白バランス：オート
フォーカス：マニュアル

● 動きの速いシーンを撮影する場合

シャッター速度のめやす

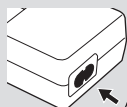
ゴルフやテニスのスイング撮影	1/500 ～ 1/2000
ジェットコースター撮影	1/500 ～ 1/1000

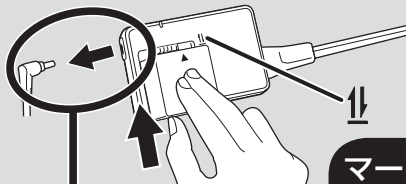
電源の準備

※お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。

バッテリーを充電する

1 電源コードをつなぐ

AC 入力端子［AC IN ～］

2 バッテリーを付ける

バッテリー装着部
DC コードが AC アダプターにつながっていると、充電できません。

● バッテリーの充電時間について（P66）

充電ランプ［CHARGE］

点灯：充電中
消灯：充電完了
点滅：下記参照

■ 充電ランプが点滅したときは

● バッテリーが過放電（極端に放電した状態）しています。しばらくすると点灯し、通常の充電になります。
● バッテリーの温度が高過ぎる、あるいは低過ぎます。充電時間が通常よりも長くなります。

電源コンセントにつないで使う

1 電源コードをつなぐ

2 DC コードをつなぐ

DC 出力端子［DC OUT 7.9V］

バッテリーを付ける

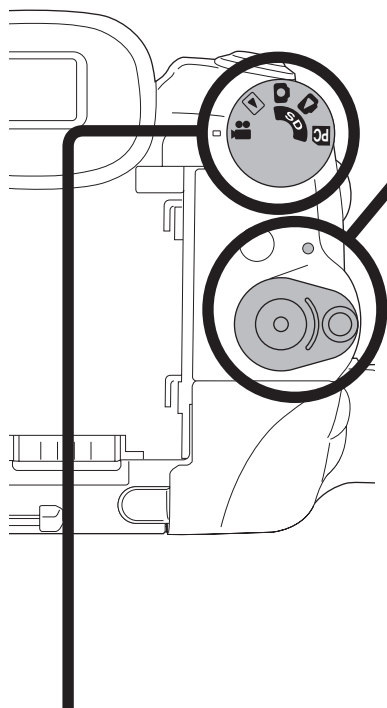
バッテリー取付部

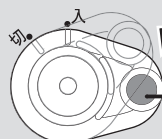
バッテリーを外す

バッテリー取外しボタン

● バッテリーを落下させないように、手で支えてください。

電源を入れてモードを選ぶ

電源を入れる前にレンズキャップを取り外してください。付けたまま電源を入れると、オートホワイトバランス(P126)が正しく合いません。

電源を入れる / 切る

電源スイッチ / 電源ランプ

切
入
青いボタンを押しながら回します。

● 電源を入れる

電源
電源ランプが点灯します。

● 電源を切る

電源
電源ランプが消灯します。

モードを選ぶ

モードダイヤル

回してこの位置に希望のモードを合わせる

テープ撮影モード(P26)

動画をテープに、静止画をカードに記録します。また、テープに撮影中にカードに同時記録することもできます。(P27)

テープ再生モード(P30)

テープの映像を再生します。

カード記録モード(P28)

カードに静止画を記録します。

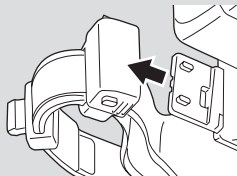
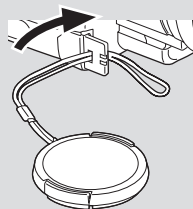
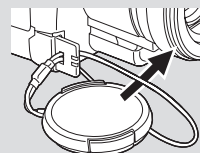
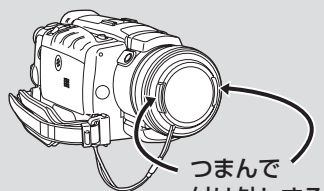
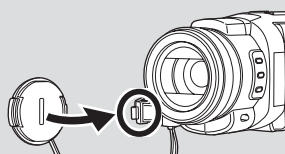
カード静止画再生モード(P31)

カードに記録された静止画を再生します。

PC 接続モード(P94 ~ 95)

カードの画像をパソコンで編集したりするときに使います。

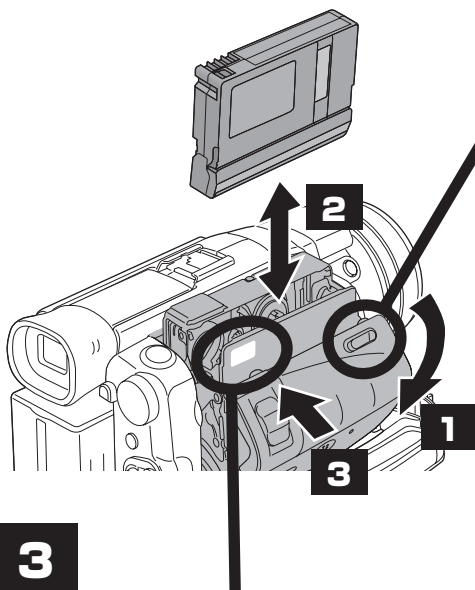
■ レンズキャップの使いかた

ひもを付ける

レンズフードに付ける /
レンズフードから外す

レンズキャップ取付部に付ける

■ 年月日 / 時刻について

- 年月日 / 時刻は、内蔵日付用電池を使って記憶させています。
- 内蔵時計は誤差が生じますので、撮影前に時間が合っているか確認してください。
- 電源を入れたときに、「　」あるいは「ーー」表示が出るときは、内蔵日付用電池が消耗しています。下記の方法で充電したあと、日時を設定してください。

■ 内蔵日付用電池を充電する

- 本機に AC アダプターをつなぐかバッテリーを取り付けると、内蔵電池が充電されます。約 24 時間そのままにしておくと、約 6 カ月間記憶することができます。（電源スイッチが「切」になっていても充電はされています）

カセットを入れる / 出す　より詳しく P97

1

カセットカバーを開く

開く / カセット取出しレバー

レバーをずらしたまま開きます。

- 最後まで開くと、カセットホルダーが出てきます。

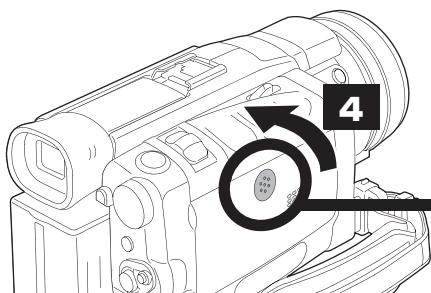
2

カセットホルダーが開いてから、カセットを入れる / 出す

入れるときはカセットを図の向きにして、奥まで確実に入れてください。
取り出すときは、まっすぐ抜き取ってください。

3

カセットホルダーを閉じる

「PUSH」部分を「カチッ」と音がするまで押すと、カセットホルダーが収納されます。

4

カセットカバーを閉じる

カセットホルダーが完全に収納されてから閉じてください。

- 使用後は、必ず始端まで巻き戻してからカセットを取り出し、ケースに入れて立てて保管してください。(P136)
- つゆつき表示が出ていない状態で、レンズやビデオカメラ本体につゆが付いているときは、ヘッドやテープにもつゆが付く可能性がありますので、カセットカバーを開けないでください。(P62)

カードを入れる / 出す より詳しく P97 ～ 98

カードの出し入れは、必ず電源を「切」にしてから行ってください。

カード挿入部を開く

カード挿入部開くレバー

レバーを右へずらして開きます。

カード動作中ランプ

2 カードを入れる / 出す

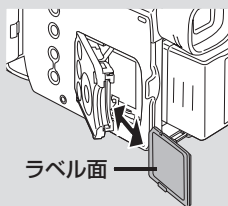
カード挿入部

- 入れるときは、ラベル面を手前に向けて、「グッ」と最後までまっすぐ押し込む。
- 出すときは、カードの中央部をつまんで、まっすぐ引き抜く。

「グッ」と押し込む

3 カード挿入部を閉じる

[押閉じる] 部

「カチッ」と音がするまで押して閉じます。

■ カード動作中ランプについて

- カードアクセス（認識、記録、再生、消去など）中に点灯します。
- 点灯中に下記の動作を行わないでください。カードやカードの内容が破壊されたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。
  - カード挿入部を開けてカードを抜き差しする
  - 電源スイッチやモードダイヤルを操作する

■ カセットホルダーが出てこないときは

- カセットカバーを一度完全に閉じてから、再度最後まで開く。
- バッテリーが消耗していないか確認する。

■ カセットホルダーが納まらないときは

- 電源スイッチを入れ直す。
- バッテリーが消耗していないか確認する。

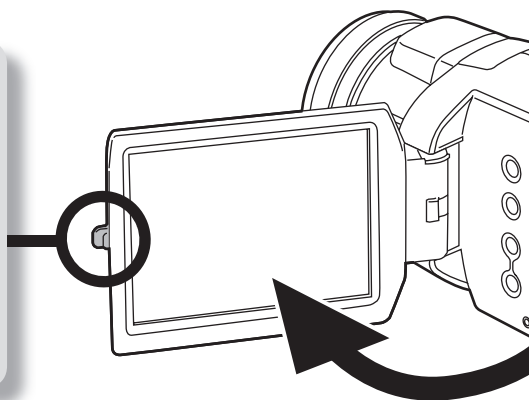
液晶モニターを使う

1

液晶モニターを開く

液晶開くボタン

ボタンを押しながら開きます。

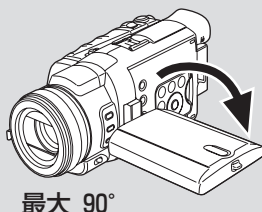
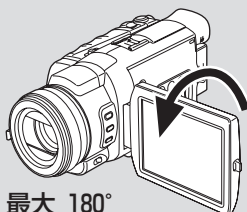
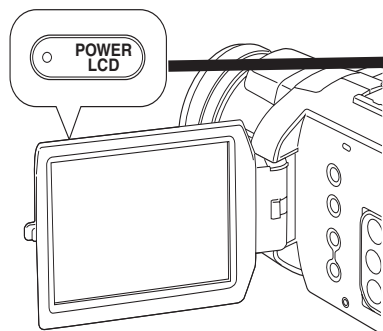
- 撮影時は90°、再生時やメニュー操作時は120°まで開くと便利です。

最大 120° まで開きます。

2

角度を調整する

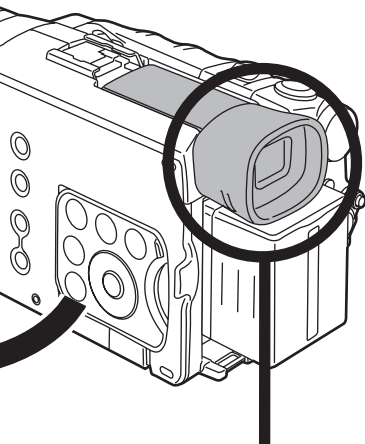
回転範囲は下図のとおりです。

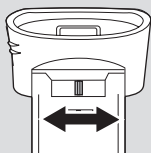
最大 180°

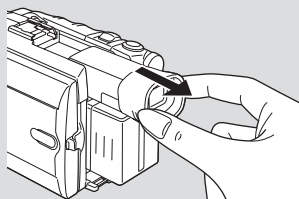
最大 90°

■ 液晶モニター全体を明るくする

POWER LCD ボタンを押す

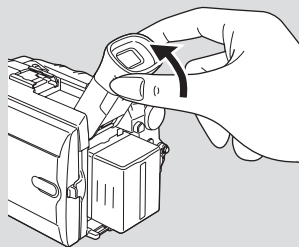
ランプが点灯します。
液晶モニターが通常より約２倍明るくなり、見やすくなります。

- 再度押すとランプが消灯し、元に戻ります。
- 実際に記録される映像には影響しません。
- AC アダプター使用時は、電源を入れると自動的にランプが点灯し、画面が明るくなります。
- レンズ方向へ 180° 回転させた状態で、液晶モニターを閉じると、通常の明るさに戻ります。

ファインダーを使う

画面の見えかたを調整する

視度調整レバー

ファインダーを引き伸ばす

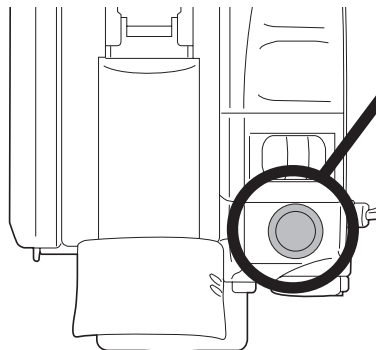
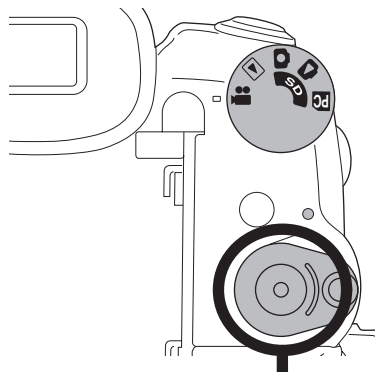
ファインダー引き出しノブをつまんで、引き伸ばします。2段階に調節できます。

ファインダーを上げる

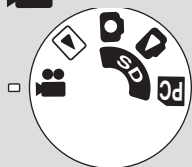
ファインダー引き出しノブをつまんで、上げます。

- メニューで液晶モニターの明るさ、色の濃さ、ファインダーの明るさを調整できます。(P96)

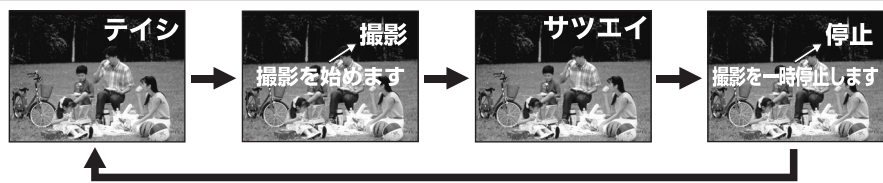
■ 液晶モニターについて

- 液晶モニターを開くとファインダーは消灯します。(液晶モニターをレンズ方向へ180°回転させたとき(対面撮影時)、またはメニューで設定したとき(P44)は、ファインダーと液晶モニターが同時に点灯します)
- 120°開いた状態では回転できません。(無理に回転させないでください)
- 無理に開いたり回したりすると、本機に傷が付いたり故障する場合があります。
- カード挿入部が閉じていることを確認してから、確実に閉じてください。

撮影する

※テープへの撮影可能時間については P66 を
カードへの記録枚数については P67 をご参照
ください。

テープに撮影する

テープ撮影モードにする

1 撮影開始 / 一時停止ボタンを押して
撮影する

2 もう一度押して撮影を終わる

- 撮影チェックをして、正しく撮影されているかを確認してください。（右ページ）
- テープの未記録部分を探すには、ブランクサーチ（P46 ～ 47）をしてください。

■ 約 5 分間記録操作しなかったときは

テープ保護やバッテリーの消耗を防ぐため、以下のように自動的に電源が切れます。
再び撮るときは、電源スイッチを「切」にしてから、再度「入」にしてください。

	モード	AC アダプター使用時	バッテリー使用時
カセット入り	テープ撮影	テープへの記録操作をしない場合５分で切れる	テープへの記録操作をしない場合５分で切れる
	カード記録	切れない	５分で切れる
カセットなし	テープ撮影	切れない	５分で切れる
	カード記録	切れない	５分で切れる

- テープ再生 / カード静止画再生 /PC 接続モードでは、自動的に電源が切れることはありません。

テープに撮影中、カードに静止画を記録する

テープへの撮影中でも、カードに静止画を記録できます。メガピクセル静止画で記録することもできます。

テープ撮影モードにする

テープに撮影中に、

フォトショットボタンを全押し（下まで押す）して記録する

- 記録する静止画のサイズ・画質を選べます。（P39）
- テープ撮影中は、プログレッシブ機能（P29）は働きません。より高画質な静止画を撮るには、カード記録モードにすることをおすすめします。
- カード記録モードで記録した画像と明るさが異なる場合があります。
- 画像サイズを 1280 × 960 に設定していると、静止画にフェード（P75）の効果は記録されません。

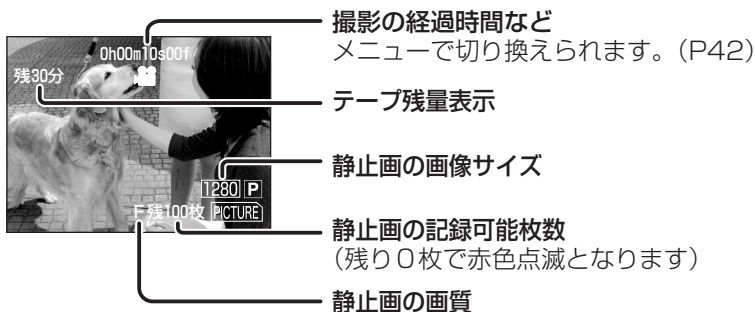
■ テープ撮影モード時の画面表示

撮影の経過時間など
メニューで切り換えられます。（P42）

テープ残量表示

静止画の画像サイズ

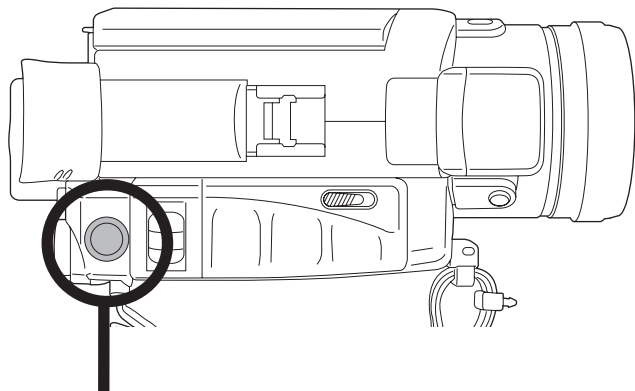
静止画の記録可能枚数
（残り 0 枚で赤色点滅となります）

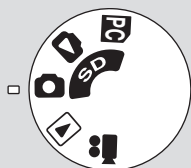
静止画の画質

最後に撮った部分を 2 ～ 3 秒間再生する（撮影チェック）

テープ撮影モードにする

撮影の一時停止中に、

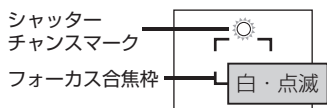
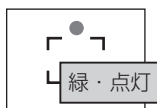
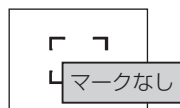
撮影チェックボタンを押す

※カードへの記録枚数については P67 をご参照ください。

カードに静止画（JPEG）を記録する

カード記録モードにする

1 フォトショットボタンを半押し（浅く押す）してピントを合わせる

（オートフォーカス時のみ）

- 手ぶれ補正（P36）を「入」に設定していると、手ぶれ補正の効果が高くなります。（MEGA（MEGA OIS）表示が出ます）

- 絞り・ゲイン値が固定され、自動でピントを合わせます。

ピント合わせ中

ピントが合ったとき **（ピピッ）**

ピントが合わなかったとき **（ピッピッピッピッ）**

2 全押し（下まで押す）して記録する

■ **フォトショットボタンを半押ししていないときのシャッターチャンスマーク**

以下のように表示されます。撮影のめやすにしてください。

● （緑点灯）・・・ピントが合ったとき
（フォーカスが安定して、よりきれいに撮れる状態）

○ （白点灯）・・・ほぼピントが合ったとき
（通常の写真印刷（6つ切り）では問題ない状態）

- フォーカス合焦枠、シャッターチャンスマークについて（P99）

■ カード記録モード時の画面表示

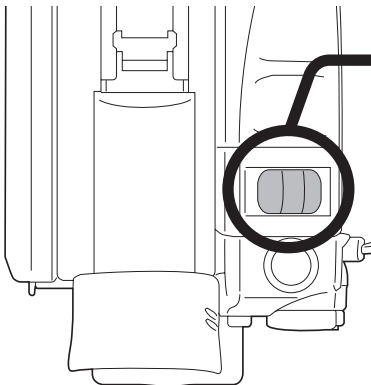
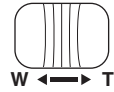
静止画の画像サイズ
静止画の記録可能枚数
（残り 0 枚で赤色点滅となります）
静止画の画質

- 記録する静止画のサイズ（P52）・画質（P39）を選べます。

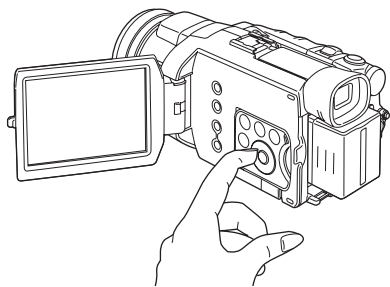
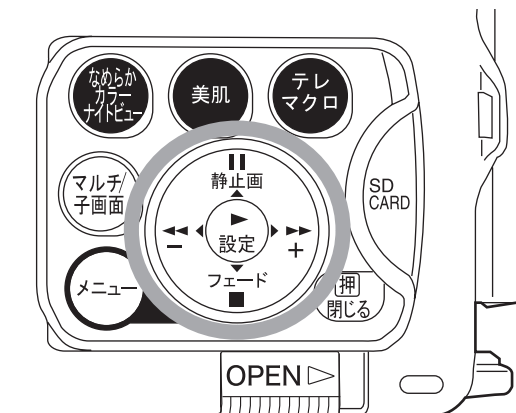
■ プログレッシブ機能について

静止画をより高画質なフレーム静止画で撮ることができます。
（プログレッシブ機能は手動で切 / 入できません）

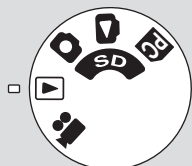
- テープ撮影モードでは、お使いの機能によっては使えない場合があります。
- より詳しくは P98、127

プログレッシブ表示

ズームレバーを動かして倍率を調整する

T 側 ：大きく撮る（ズームイン）
W 側：広く（広角に）撮る（ズームアウト）

- ズーム倍率が 12 倍より大きくなると、デジタルズームになります。（P37）
- レバーを動かす幅によって、ズーム速度が変わります。
- マルチマニュアルリングを使って倍率を調整することもできます。（P68）

再生する

液晶モニターを 120°まで開くと、画面を確認しながら操作しやすくなります。

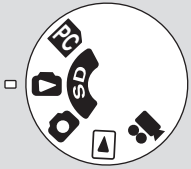
テープを再生する

▶ テープ再生モードにし、十字キーで操作する

停止中	テープを再生する	▶ を押す
	テープを巻き戻しする	◀◀ を押す
	テープを早送りする	▶▶ を押す
再生中	再生を一時停止する	❚❚ を押す
	再生を停止する	■ を押す
	映像を見ながら巻き戻しする	◀◀ をポンと押す（▶ を押すと通常の再生に戻る）
		◀◀ を押し続ける（指を離すと通常の再生に戻る）
	映像を見ながら早送りする	▶▶ をポンと押す（▶ を押すと通常の再生に戻る）
		▶▶ を押し続ける（指を離すと通常の再生に戻る）

● 再生時の音量の調整について（P84）

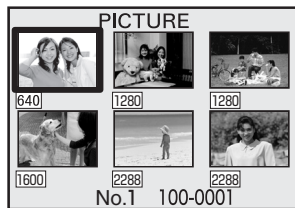
カードの静止画（JPEG）を再生する

ジェイペグ

▶ カード静止画再生モードにし、十字キーで操作する

操作	ボタン
前のファイルを選ぶ	◀◀ を押す
次のファイルを選ぶ	▶▶ を押す
スライドショー（カードの静止画を順番に再生）を開始する	▶ を押す
スライドショーを一時停止する	❚❚ を押す
スライドショーを停止する	■ を押す

■ マルチ画面からファイルを選ぶ

カード静止画再生モードでマルチ / 子画面ボタンを押すと、カード内のファイルがマルチ画面（1 画面に 6 ファイル）で表示されます。

- 十字キーの上下左右を押してファイルを選択（赤い枠で囲まれます）し、設定ボタンを押して決定してください。
- 7 ファイル以上記録されている場合は、十字キーを押していくと、次の（前の）マルチ画面が表示されます。

ワイヤレスリモコン

年月日 / 時刻ボタン（P42 ～ 43）
表示出力ボタン（P57）
表示切換ボタン（P42～43）
リセットボタン（P42～43）
マルチ / 子画面ボタン（P78 ～ 79）

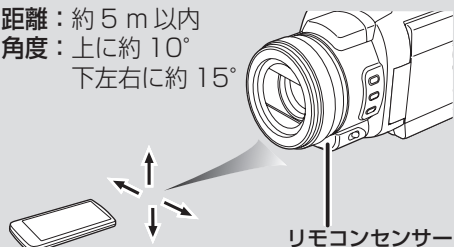
《撮影操作 / 音量調整部》
フォトショットボタン※
撮影開始 / 停止ボタン※
ズーム / 音量ボタン※
※本体のボタンと同じ働きをします。

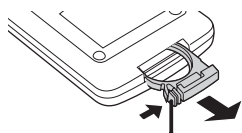
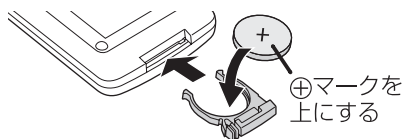
タイトルインボタン（P83）
アフレコボタン（P91）
録画ボタン（P92 ～ 93）
可変速サーチボタン（P86）
再生ズームボタン（P86）

《再生操作部》
- ▶ 再生ボタン※
- ■ 停止ボタン※
- Ⅱ 一時停止ボタン※
- ◀◀ ▶▶ 巻戻し / 早送りボタン※
- ◀Ⅰ Ⅰ▶ スロー / コマ送りボタン（P85）
- ⏮ ⏭ 頭出しボタン（P84）

※再生時、本体のボタンと同じ働きをします。

- メニュー メニューボタン（P35）
- ▲▼◀▶ 方向ボタン（P35、86）
- 設定 設定ボタン（P35）

《映像効果部》
- 選択 選択ボタン（P87）
- メモリー メモリーボタン（P87）
- 切/入 切 / 入ボタン（P87）

■ コイン電池（付属）を入れる

ホルダーを引き抜き、

電池を入れて、ホルダーを戻す

■ リモコンモードの設定（同時に 2 台のビデオカメラをお使いになる場合）

1 台のビデオカメラとワイヤレスリモコンの設定を「VTR1」に、もう 1 台のビデオカメラとワイヤレスリモコンを「VTR2」に設定すると、2 台の間でのリモコン誤作動を防ぐことができます。（お買い上げ時の設定は「VTR1」です。またコイン電池を交換すると、設定は「VTR1」になります）

ビデオカメラ

「ショキ設定」メニューの「リモコン」を「VTR1」または「VTR2」に設定する。

ワイヤレスリモコン

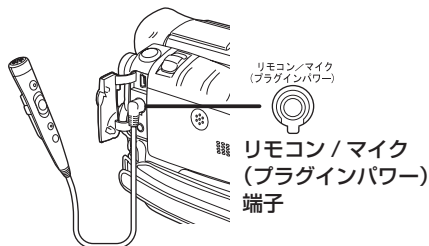
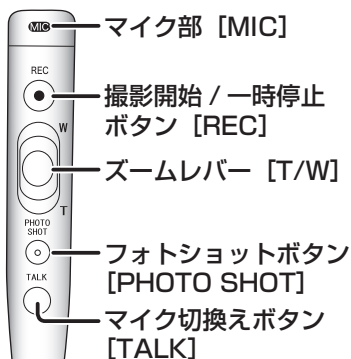
同時に押す（VTR2）　同時に押す（VTR1）

ビデオカメラとワイヤレスリモコンのリモコンモードが違うときは、画面に「リモコン」（電源を入れたあとの最初の操作時のみ「リモコンのセッテイをカクニンしてください」（P115））と表示が出て操作ができません。同じリモコンモードに設定してください。

フリースタイルリモコン

ハイアングルからローアングルまで様々な角度から撮影でき、また三脚使用時にも便利です。右手で操作が苦手な左利きの方もより使いやすくなります。（フリースタイルリモコンのコードの長さ：約 93 cm）

クリップ（裏側にあります）

クリップをポケットなどに取り付けた状態で移動されるときは、三脚の転倒、本体の机などからの落下にお気を付けください。

■ マイクを切り換えて使う

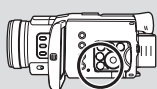
フリースタイルリモコンのマイク切換えボタン［TALK］を押すと、本体の内蔵マイクとリモコンのマイクを切り換えられます。

- ボタンを押している間「🎤」が表示され、マイクとして使えます。
- マイク部を口元から 10 cm 程度離して使うことをおすすめします。

メニューを設定する

1

メニューボタンを押す

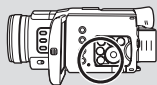
メニュー設定画面が表示されます。
（モードダイヤルの位置によって表示される
メニューは変わります）

● メニュー表示中は操作モードを切り換えないでください。

2

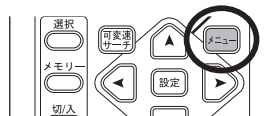
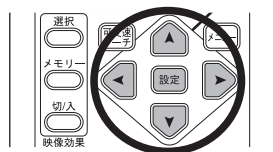
「メインメニュー」→「サブメニュー」→「項目」の順番で選ぶ

3

項目を選んだら、メニューボタンを押す

メニュー設定画面が消え、
設定した項目が実行されます。

■ ワイヤレスリモコンでメニューを設定する

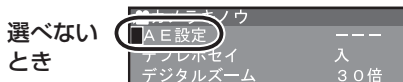
メニュー画面の変化は本体のボタンを使ったときと同じです。

1 メニューボタンを押す

2 メニュー項目を選択する
本体の十字キーのかわりに方向ボタン（▲▼◀▶）、設定ボタンを使います。

3 メニューボタンを押す

■ 選べないメニュー項目がある

- 機能の組み合わせによって選べなくなる項目があります。設定を確認してください。
- 選べない項目は下図のように表示されます。

選べるとき

選べないとき

- 各メニューについては「メニュー機能」をご覧ください。（P36 ～ 55）
- テープ撮影 / カード記録モードにある「カメラキノウ」の「AE 設定」は、フルオート / マニュアル切換えスイッチを「マニュアル」にしないと設定できません。

■ メニューの設定について

- 撮影中、録画中にメニューは表示されません。また、メニュー表示中に撮影、録画はできません。

テープ撮影メニュー

カメラキノウ

テープサツエイメニュー

カメラキノウ	▷ＡＥ設定
プロキノウ	テブレホセイ
デジタル設定	デジタルズーム
カード設定	セルフタイマー
キロク設定	ＵＳＢキノウ
ヒョウジ設定	ドウガモード
ＬＣＤ／ＥＶＦ	赤目ケイゲン
ショキ設定	フラッシュアカルサ

※初期設定（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
AE 設定 （P80）	撮りたい場面に合わせて、自動でシャッター速度や絞りが調整されます。 ● 切※　：元に戻す。 ● （スポーツ）：スポーツシーンなど、動きの速い場面で。 ● （ポートレート）：背景をぼかして、手前の人物を引き立たせる。 ● （ローライト）：夕暮れなど、暗い場面で明るく。 ● （スポットライト）：スポットライトが当たる人物をきれいに。 ● （サーフ＆スノー）：海辺やスキー場など、まぶしい場面で。
テブレホセイ （手ぶれ補正）	撮影時に起こる手ぶれによる映像の揺れを軽減します。 ●切　●入※
デジタルズーム	デジタルズームの最大倍率を切り換えます。 ● 切　：光学ズームのみ（最大 12 倍まで） ● 30 倍※　：最大 30 倍まで ● 120 倍　：最大 120 倍まで
セルフタイマー （P81）	セルフタイマーをセットします。設定後、フォトショットボタンを押して 10 秒後に記録されます。 ●切※　●入
USB キノウ （USB 機能） （P94 ～ 95）	パソコン接続時の機能を選びます。 ●モーション DV※：CD-ROM（付属）内のソフトウェア（MotionDV STUDIO 5.1J LE for DV）使用時 ●WEB カメラ　：WEB カメラ機能使用時

ドウガモード （動画モード）	「フレーム」にすると、1 秒間に 30 枚の静止画を撮影します（フレーム動画）。スポーツなどの動きのある場面を撮影しても、静止画再生すると、よりぶれの少ない静止画になります。 （音声も記録できます） ● ノーマル※　● フレーム
赤目ケイゲン （赤目軽減）	人物の目が赤くなるのを軽減します。 ● 切※　● 入
フラッシュアカルサ （フラッシュ明るさ） （P76）	フラッシュの明るさを調整します。 ● －　：明るさが強すぎるとき（「⚡－」または「⚡A －」表示） ● ノーマル※　：通常の撮影時　（「⚡」または「⚡A」表示） ● ＋　：明るさが不十分なとき（「⚡+」または「⚡A+」表示）

AE ＝ 自動露出（Auto Exposure）のことです。

■「AE 設定」について
- フルオート / マニュアル切換えスイッチを「マニュアル」にしないと設定できません。

■「テブレホセイ」（手ぶれ補正）について
- カード記録モード時に静止画を記録するときは、フォトショットボタンを半押しすると、手ぶれ補正の効果が高くなります。（MEGA OIS）
- 三脚使用時は、手ぶれ補正を使わないことをおすすめします。
- ぶれが大きいときや、動きのある被写体を追いながら撮影した場合、補正できないことがあります。
- 以下の場合は、手ぶれ補正が効きにくくなることがあります。
  - デジタルズーム使用時　- コンバージョンレンズ（別売）使用時

■「デジタルズーム」について
- ズーム倍率が 12 倍より大きくなると、デジタルズームになります。
- 拡大するほど画質が悪くなります。
- 白バランスの選択はできません。

■「USB キノウ」（USB 機能）について
- CD-ROM（付属）内のソフトについては、別冊のパソコン接続編取扱説明書をお読みください。

■ フレーム動画について
- カード設定の画像サイズを「1280 × 960」に設定していると、選択できません。
- 通常再生時は「コマ落とし」のような映像になります。
- 通常時は「ノーマル」にしてお使いください。
- 「フレーム」にすると、デジタル機能は使えません。

■「赤目ケイゲン」（赤目軽減）について
- 撮影状況によっては、目が赤く映る場合があります。

プロキノウ

P70 ～ 72 を参照してください。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

デジタル設定

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
デジタルキノウ （デジタル機能） （P78 ～ 79）	**いろいろな特殊効果を入れて撮影できます。** ● **切**※ ：元に戻す。 ● **マルチ** ：９つの画面を取り込みます。 ● **コガメン** ：静止画を子画面にして取り込みます。 ● **ワイプ** ：場面がカーテンを引くように変わります。 ● **ミックス** ：場面が重なりながら変わります。 ● **ストロボ** ：コマ送りのような映像になります。 ● **キセキ** ：映像の軌跡が残ります。 ● **モザイク** ：映像にモザイクがかかります。 ● **ミラー** ：画面中央に鏡を置いたようになります。 ● **ストレッチ** ：水平方向に引き伸ばされた映像になります。 ● **スリム** ：垂直方向に引き伸ばされた映像になります。
デジタルコウカ （デジタル効果） （P78）	● **切**※ ：元に戻す。 ● **ネガポジ** ：ネガフィルムのような映像になります。 ● **セピア** ：セピアカラーの映像になります。 ● **モノトーン** ：白黒映像になります。 ● **アート** ：絵画のような映像になります。
マルチモード （P78）	**マルチモードでの画面の取り込み方法を切り換えます。** ● **ストロボ**※ ：９つの画面を自動で連続して取り込みます。 ● **マニュアル** ：マルチ / 子画面ボタンを押すごとに１つずつ、９つの画面を手動で選んで取り込みます。
タイトルイン （P83）	**自分で作ったオリジナルタイトルを画面に表示します。** ● **切**※　● **入**

■「デジタルキノウ」（デジタル機能）について

- 画像サイズを「1280 × 960」に設定していると、静止画を記録できません。
- カラーナイトビュー、タイトルイン、プロシネマとデジタル機能は同時に使えません。
- シネマモード設定時、「マルチ」、「コガメン」は使えません。
- 画面を静止画にしているときは、マルチ画面になりません。
- 画面を静止画にしているときは、デジタル機能の選択はできません。

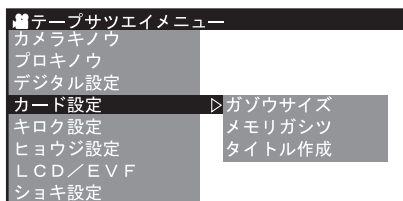
■「デジタルコウカ」（デジタル効果）について

- 画像サイズを「1280 × 960」に設定していると、静止画を記録できません。
- 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作すると解除されます。
- タイトルインとデジタル効果は同時に使えません。
- 「セピア」、「モノトーン」を選ぶと、白バランスは設定できません。
- 画面を静止画にしているときは、デジタル効果の選択はできません。

■「タイトルイン」について

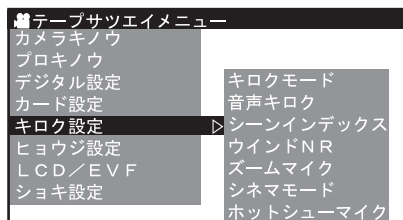
- 画像サイズを「640 × 480」以外に設定していると、タイトルインできません。
- タイトルインは以下の機能と同時に使えません。
  - デジタル機能 / 効果　- シネマモード　- 連写カードショット

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

カード設定

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ガゾウサイズ（画像サイズ）	カードに記録する静止画のサイズを切り換えます。 ● 1280 × 960※　● 640 × 480
メモリガシツ（メモリ画質）	カードに記録する静止画の画質を切り換えます。 ● ファイン※　● ノーマル　● エコノミー
タイトル作成（P82 〜 83）	オリジナルタイトルを作成します。 ● しない※　● する

かんたん操作編

キロク設定

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
キロクモード （記録モード）	**テープへの記録モードを切り換えます。** ● SP※　：標準の記録モードです。 ● LP　：「SP」の 1.5 倍長くテープに記録できますが、制限される機能があります。
音声キロク （音声記録）	**音声（PCM（ピーシーエム） 音声）の記録方法を切り換えます。** ● 12bit※　：12 bit 32 kHz 4 トラックで記録します。（あとでアフレコしたときに元の音声を残せます） ● 16bit　：16 bit 48 kHz 2 トラックで記録します。より高音質で記録できます。（アフレコすると元の音声は消去されます）
シーン インデックス	**シーンインデックスを記録する撮影条件を切り換えます。** ● 2 ジカン　：撮影終了後、2 時間経過したあとの最初の撮影時 ● 日付※　：撮影終了後、日付が変わったあとの最初の撮影時
ウインド NR	**内蔵マイクに当たる風の音を低減します。** ● 切※　● 入
ズームマイク	**ズーム操作に連動して、望遠では遠くの音、広角では周りの音をよりクリアに収録します。** ● 切※　● 入
シネマモード	**画面の上下に黒い帯を表示させ、映画のような映像にします。** ● 切※　● 入
ホットシュー マイク	● ノーマル※　：通常の状態 ● ローカット　：ホットシューに取り付けたステレオズームマイクロホン /VW-VMH3（別売）に当たる風雑音や低域ノイズなどを抑えます。

■「キロクモード」（記録モード）について

- 大切な撮影には SP モードをお使いになることをおすすめします。
- LP モード記録で本機の性能を十分に生かすには、パッケージに「LP モード」表示のある当社製のデジタルビデオカセットをおすすめします。
- LP モードで記録した映像にアフレコ（P91）はできません。（アフレコする場合は SP モードで記録してください）
- LPモードで撮っても画質は劣化しませんが、以下の場合にモザイク状のノイズなどが出たり、機能が制限されることがあります。
  - 他のデジタルビデオ機器、または LP モードがないデジタルビデオ機器で再生
  - 他のデジタルビデオ機器で LP 録画したテープを本機で再生
  - スロー / コマ送り再生時（P85）

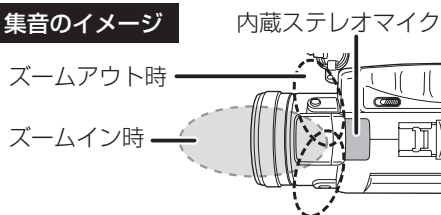
■ インデックスについて

- 本機では、頭出しをするための目印（INDEX: インデックス）となる信号を自動的に記録します。
- シーンインデックスは次の場合、自動的に記録されます。（記録中は、「INDEX」の表示が数秒間点滅します）
  - カセットを入れたあとの最初の撮影時
  - 「キロク設定」メニューの「シーンインデックス」で設定した撮影時
- ただし、モードダイヤルを操作したときや日付を設定した場合は、その後の最初のインデックス信号は記録されません。

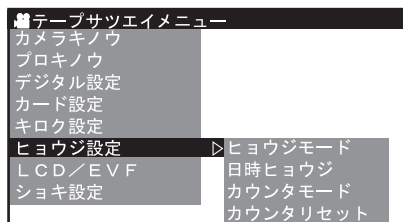
■「ウインド NR」（ウインドノイズリダクション）について

- 風の強さに応じてマイクの風音ノイズを低減します。（強風下でご使用の場合は、ステレオ感がなくなることがありますが、風が弱くなると自動的に元のステレオ感のある音質に戻ります）
- フリースタイルリモコンのマイクや外部マイクを使用しているときは働きません。

■「ズームマイク」について

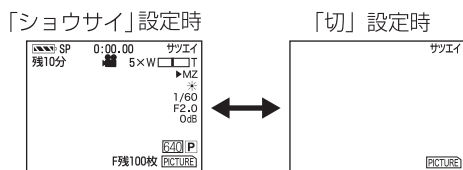
- ズーム操作に連動して内蔵ステレオマイクの指向角、感度を可変して集音します。
- フリースタイルリモコンのマイクや外部マイクを使用しているときは働きません。

■「シネマモード」について

- 撮れる範囲が広がるわけではありません。
- 以下の機能と同時に使えません。
  - デジタル機能の「マルチ」、「コガメン」
  - タイトルイン
  - タイトル作成
- テレビに映像を映すと、日付表示が欠けることがあります。
- テレビによっては画質が悪くなる場合があります。
- パソコンにシネマ映像を取り込むとき、ソフトウェアによっては取り込み映像が正しく表示されない場合があります。

ヒョウジ設定

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ヒョウジモード （表示モード）	画面の表示を切り換えます。 ●切　●ショウサイ※
日時ヒョウジ （日時表示）	年月日、時刻の表示を切り換えます。 ●切　●日時※　●日付
カウンタモード	撮影や再生の経過時間の表示を切り換えます。 ●カウンタ（０：００.００） ●カウンタメモリ（Ｍ０：００.００） 撮影や再生の操作のあと、カウンターをリセットした位置付近で巻き戻しや早送りを自動的に停止します。 （カウンターメモリー機能） ●タイムコード※（０ｈ００ｍ００ｓ００ｆ）
カウンタリセット	カウンターの表示を０：００.００に戻します。 ●しない※　●する

■「ヒョウジモード」(表示モード)について

● 画面の表示を図のように切り換えられます。

■「日時ヒョウジ」(日時表示)について

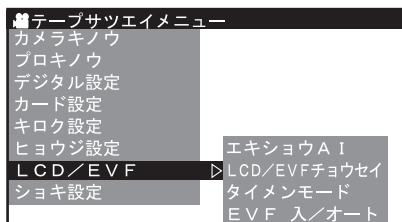
● 本機は撮影した年月日、時刻をテープに自動的に記録しています。
● 画面の表示を図のように切り換えられます。
● ワイヤレスリモコンの年月日 / 時刻ボタンを押しても表示を切り換えられます。

■「カウンタモード」について

● ワイヤレスリモコンの表示切換ボタンを押しても表示を切り換えられます。

■「カウンタリセット」について

● ワイヤレスリモコンのリセットボタンを押してもリセットできます。(カウンターモードを「タイムコード」にしているときはリセットできません)

LCD/EVF

※初期設定（工場出荷時の設定）

LCD＝液晶モニター（Liquid Crystal Display）のことです。

EVF＝ファインダー（Electric View Finder）のことです。

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
エキショウ AI（液晶 AI）	●ノーマル※　：標準の液晶画質になります。 ●ダイナミック　：明暗がはっきりした、メリハリのある液晶画質になります。
LCD/EVF チョウセイ（LCD/EVF 調整）（P96）	液晶モニター / ファインダーの明るさや色の濃さを調整します。 ●しない※　●する
タイメンモード（対面モード）	対面撮影時に液晶モニターに映る映像を切り換えます。 ●ノーマル：撮影しているのと同じ映像になります。 ●ミラー※：鏡を見ているような左右反転した映像になります。（記録される内容は「ノーマル」と同じです）
EVF　入 / オート	●オート※：液晶モニターを開くとファインダーは消灯します。（対面撮影時は点灯します） ●入：液晶モニターを開いているときも、ファインダーが点灯します。（ファインダーの調整、ファインダーを使いながらのボタン操作時にこちらを選んでください）

■「エキショウＡＩ」（液晶ＡＩ）について

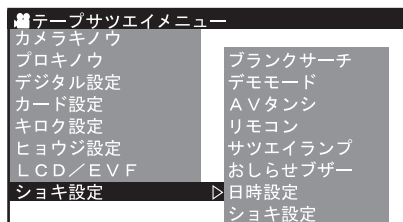
● 「ダイナミック」に設定すると、液晶モニターが撮影シーンに応じて最適なコントラスト・明るさに設定されます。輝き感のある、引き締まった映像を表示します。
● 効果は撮影シーンに応じて異なります。
● ファインダーの画質は変わりません。
● 液晶モニターが明るくなっているとき（POWER LCD ボタンのランプが点灯しているとき）は、自動的に「ダイナミック」の効果になり、設定は変更できません。
● 撮影時、記録される映像には影響ありません。

■ 対面撮影について

● 液晶モニターを手前（レンズ側）に回転させると、液晶モニターを見ながら自分自身を撮ることができます。また撮影する相手にも内容を見せながら撮れるため便利です。
● 「タイメンモード」を「ミラー」に設定すると、タイトルインしたイラストは左右反転表示しますが、記録は通常どおりです。

■「EVF 入 / オート」について

● 電源を切ると、設定は「オート」になります。

ショキ設定

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ブランクサーチ	撮影した場面の最後の部分（テープの未使用部分）を探します。 ● しない※　● する
デモモード	本機の紹介（デモ）を始めます。 ● 切※　● 入
AV タンシ （AV 端子）	AV 入出力 / ヘッドホン端子の出力設定を切り換えます。 ● AV 出力 / ヘッドホン※ ：AV 出力とヘッドホン出力を自動で切り換えます。 ● AV 出力 ：「AV 出力 / ヘッドホン」にしてテレビなどに映像・音声が正常に出力されないときは、こちらを選んでください。
リモコン	同時に 2 台のビデオカメラを使う場合などにリモコンモード（P33）を切り換えます。 ● 切　● VTR1 ※　● VTR2
サツエイランプ （撮影ランプ）	撮影お知らせランプは、撮影中に点灯、リモコン受信時に点滅します。「切」にすると、撮影中にランプは点灯しません。 ● 切　● 入※
おしらせブザー （お知らせブザー）	「切」にすると、撮影の開始 / 終了時などにブザーが鳴りません。 ● 切　● 入※
日時設定 （P96）	年月日、時刻を合わせます。 ● しない※　● する
ショキ設定 （初期設定）	機能の組み合わせにより、選択できないメニューがあるときなどに、メニューをお買い上げ時の設定に戻します。 ● しない※　● する

■「ブランクサーチ」について

- テープに未記録部分がない場合は、テープ終端で止まります。
- 未記録部分を見つけたあと、そこから撮影を始めると、最後の部分からつなぎ撮りが始められます。
- 途中でやめるには停止ボタンを押してください。

■「デモモード」について

- カセットおよびカードが入っていない状態で「デモモード」を「入」に設定すると、デモが始まります。何か操作をするとデモは中断しますが、約 10 分以上操作がない場合にも自動的に始まります。カセットまたはカードを入れるか、「デモモード」を「切」にすると停止します。通常は「切」にしてお使いください。

■「AV タンシ」（AV 端子）について

- 「AV 出力」にしてヘッドホンを使うと、右音声に「ブー」という音が聞こえます。ヘッドホンを使うときは「AV 出力 / ヘッドホン」に設定してください。

■「おしらせブザー」（お知らせブザー）について

- 記録の開始や終了などを音で確認できます。

「ピッ」　：撮影開始時や電源を「入」にすると鳴ります。
「ピピッ」：撮影の一時停止時に鳴ります。
「ピピッ、ピピッ…（連続 4 回）」
：誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れたとき、つゆつき（P62 ～ 63）が起こったときなどに鳴ります。
画面に出る文章表示（P115 ～ 117）の内容を確認してください。

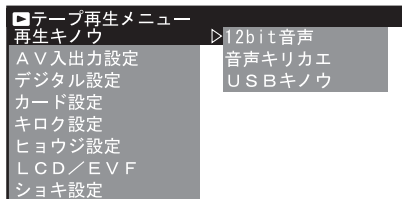
■「ショキ設定」（初期設定）について

- 初期設定が完了すると、「設定カンリョウ」と表示されます。

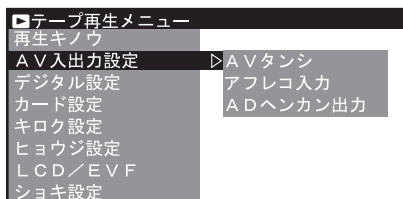
▶ テープ再生メニュー

＊下記に記載のないメニューは、テープ撮影メニューの同名の項目を参照してください。

再生キノウ

▶テープ再生メニュー
再生キノウ　▷12bit音声
ＡＶ入出力設定　音声キリカエ
デジタル設定　ＵＳＢキノウ
カード設定
キロク設定
ヒョウジ設定
ＬＣＤ／ＥＶＦ
ショキ設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
12bit 音声 （P91）	**アフレコした音声と元の音声を切り換えます。** ●**ステレオ 1**※：元の音声を再生します。 ●**ステレオ 2**：アフレコした音声を再生します。 ●**ミックス**：元の音声とアフレコした音声を同時に再生します。
音声キリカエ （音声切換え）	**再生する音声を切り換えます。** ●**ステレオ**※：ステレオ音声（主音声と副音声） ●**L**：左チャンネルの音声（主音声） ●**R**：右チャンネルの音声（副音声）

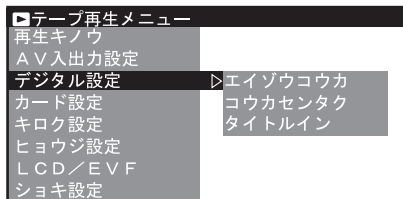
AV入出力設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
AVタンシ （AV端子） （P57、59、92）	**AV入出力/ヘッドホン端子の入出力設定を切り換えます。** ● **AV入出力**：外部機器から映像/音声コードやS映像コードを使って入力する場合に設定します。 ● **AV出力/ヘッドホン**※ ：AV出力とヘッドホン出力を自動で切り換えます。 ● **AV出力**：「AV出力/ヘッドホン」にしてテレビなどに映像・音声が正常に出力されないときは、こちらを選んでください。
アフレコ入力 （P91）	**アフレコする音声の入力方法を切り換えます。** ● **マイク**※：マイクから音声を入力します。 ● **ライン**：映像/音声コードで接続している外部機器から音声を入力します。
ADヘンカン出力 （AD変換出力） （P93）	**外部機器からアナログ入力した映像を、DV端子をとおして、接続されている他のデジタルビデオ機器にデジタル出力します。** ● **切**※　● **入**

■「AVタンシ」（AV端子）について

- 「AV出力」にしてヘッドホンを使うと、右音声に「ブー」という音が聞こえます。ヘッドホンを使うときは「AV出力/ヘッドホン」に設定してください。

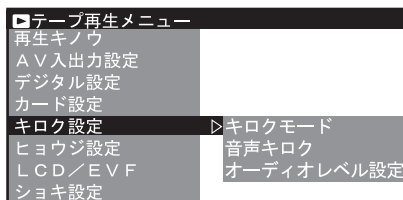
メニュー機能（つづき）テープ再生モード

デジタル設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
エイゾウコウカ （映像効果）（P87）	再生時の特殊効果を切 / 入します。 ●切　●入※
コウカセンタク （効果選択）（P87）	再生時の特殊効果を選びます。 ●切※　●ワイプ　●ミックス　●ストロボ ●ネガポジ　●セピア　●モノトーン　●キセキ ●アート　●モザイク　●ミラー　●ストレッチ ●スリム ワイプ / ミックスはメニューを設定後、ワイヤレスリモコンで操作してください。 （効果についてはテープ撮影メニューの「デジタルキノウ」（P38）の項目をご覧ください）

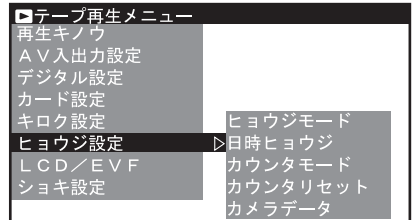
〜〜

キロク設定

テープ再生メニュー
再生キノウ
ＡＶ入出力設定
デジタル設定
カード設定
キロク設定
キロクモード
音声キロク
オーディオレベル設定
ヒョウジ設定
ＬＣＤ／ＥＶＦ
ショキ設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
オーディオレベル 設定 （P71）	オーディオレベルの設定モードを変更できます。 ●しない※　●する

ヒョウジ設定

▶テープ再生メニュー
再生キノウ
ＡＶ入出力設定
デジタル設定
カード設定
キロク設定
ヒョウジ設定 ▷ヒョウジモード
ＬＣＤ／ＥＶＦ 日時ヒョウジ
ショキ設定 カウンタモード
カウンタリセット
カメラデータ

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
カメラデータ	撮影時の設定情報（シャッター速度、絞り / ゲイン値、白バランス設定など）を表示します。 ●切※　●入

■「カメラデータ」について

- 「フルオート」設定時、カメラデータは「フルオート」と表示されます。
- 設定情報がない場合、ーーーと表示されます。
- 本機のカメラデータが入ったテープを他機で再生すると、正常に設定情報が表示されないことがあります。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

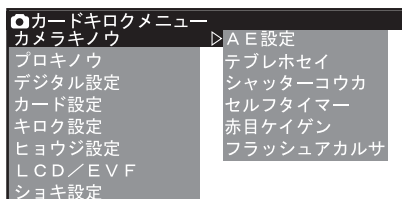
カード設定、LCD/EVF、ショキ設定

テープ撮影メニューのカード設定（P39）、LCD/EVF（P44）、ショキ設定（P46）を参照してください。

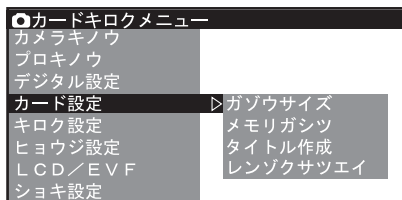
カード記録メニュー

＊下記に記載のないメニューは、テープ撮影またはテープ再生メニューの同名の項目を参照してください。

カメラキノウ

カードキロクメニュー
カメラキノウ ▷ＡＥ設定
プロキノウ　テブレホセイ
デジタル設定　シャッターコウカ
カード設定　セルフタイマー
キロク設定　赤目ケイゲン
ヒョウジ設定　フラッシュアカルサ
ＬＣＤ／ＥＶＦ
ショキ設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
シャッターコウカ（シャッター効果）	フォトショット時に、シャッター音が出ます。 ●切　●入※

カード設定

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ガゾウサイズ（画像サイズ）	カードに記録する静止画のサイズを切り換えます。 ●2288 × 1728※　●1600 × 1200 ●1280 × 960　●640 × 480
レンゾクサツエイ（連続撮影）（P82）	静止画を一定間隔で連続して記録します。 ●切※：連続記録できません。 ●入：最大 10 枚まで、一度に連続して記録できます。

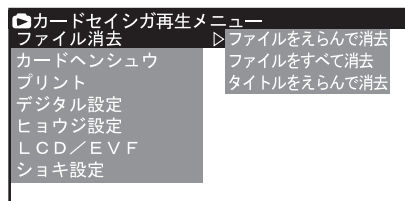
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

プロキノウ、デジタル設定、キロク設定、ヒョウジ設定、LCD/EVF、ショキ設定

テープ撮影メニューのデジタル設定（P38）、キロク設定（P40）、ヒョウジ設定（P42）、LCD/EVF（P44）、ショキ設定（P46）を参照してください。
プロ機能は P70 〜 72 を参照してください。

カード静止画再生メニュー

＊下記に記載のないメニューは、テープ撮影メニューの同名の項目を参照してください。

ファイル消去

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ファイルを えらんで消去 (P88)	カードに記録されているファイルを選んで消去します。 ● しない※　● する
ファイルを すべて消去 (P88)	カードに記録されている静止画ファイルをすべて消去します。 ● しない※　● する
タイトルを えらんで消去 (P88)	カードに記録されているタイトルを選んで消去します。 ● しない※　● する

■ ファイルの消去について

● SD メモリーカードの場合、書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると「ファイル消去」メニューは選べません。

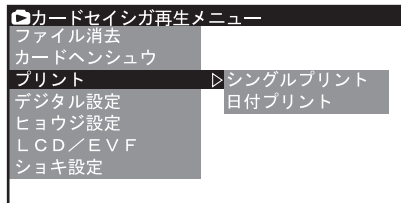
カードヘンシュウ

※ 初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
ロック設定（P88）	ファイルを誤消去防止します。 ● しない※　● する
DPOF 設定（P89）	ファイルごとにプリント枚数などの情報をカードに書き込みます。 ● しない※　● する
フォーマット	カードをフォーマット（初期化）します。 ● しない※　● する

■ カードのフォーマット（初期化）について

- 通常、フォーマットする必要はありません。
- 何度カードを抜き差ししても､「ビデオカメラでフォーマットしてください」とメッセージが出る場合にフォーマットしてください。
- フォーマットすると、カードに記録されているすべてのデータ（静止画、オリジナルタイトルなど）は消去されますのでお気を付けください。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。（P94）
- フォーマットは本機で行ってください。他機 (パソコンなど) でフォーマットすると、記録に時間がかかったり、使用できなくなる場合があります。
- SD メモリーカードの場合、書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると「フォーマット」メニューは選べません。

プリント

※初期設定
（工場出荷時の設定）

メニュー項目	使用する目的（機能の説明）
シングルプリント（P90）	画面に表示されている画像をプリントします。
日付プリント（P90）	日付を入れてプリントします。 ●切※　●入

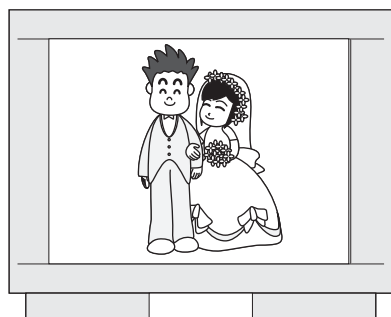
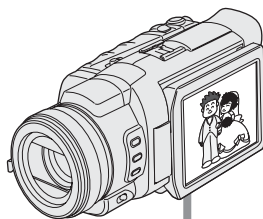
■ シングルプリント、日付プリントについて

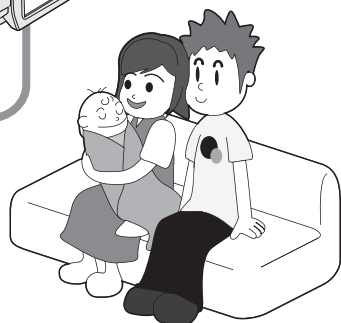
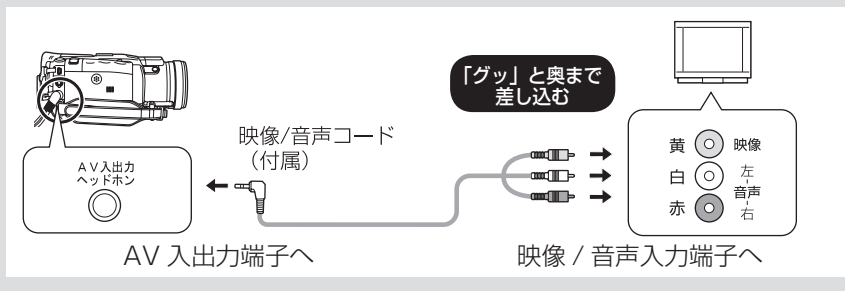
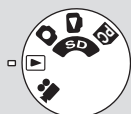
● メニュー項目を選択する前に、プリンターと接続してください。（P90）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

デジタル設定、ヒョウジ設定、LCD/EVF、ショキ設定

テープ撮影メニューのデジタル設定（P38）、ヒョウジ設定（P42）、LCD/EVF（P44）、ショキ設定（P46）を参照してください。

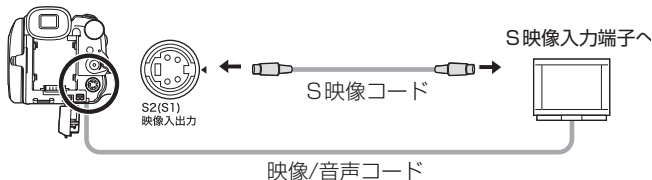
テレビにつないで見る

本機で撮った映像をテレビ画面に再生

●本機に撮影済みのカセットを入れておいてください。

映像 / 音声コード（付属）で接続してください。

1 本機とテレビをつなぐ

2 本機の電源を入れ、▶ テープ再生モードにする

3 テレビの入力チャンネルを選ぶ

■ テレビに本機の映像・音声が出ないときは

- コードがグッと奥まで差し込んであるか確認してください。
- 接続している端子を確認してください。
- メニューで「AV タンシ」を「AV 出力 / ヘッドホン」に設定していてもテレビに映像が出ない場合は、「AV 出力」に設定してください。（P49）
- **テレビの入力の設定（入力切換）を確認してください。**
  （詳しくはテレビの説明書をお読みください）
  ・テレビの設定 → 例：チャンネルを「ビデオ 2」などにする
  （接続する端子によって変わります）

■ よりきれいな映像で見るには

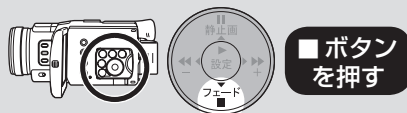
- テレビにS映像入力端子があるときは、映像 / 音声コード（付属）と一緒にS映像コード（別売）も接続してください。

■ テレビ画面に機能表示などを表示する

- 液晶モニターやファインダーに表示されている情報（カウンター、モード表示）や年月日 / 時刻表示（P42）をテレビ画面に表示することができます。

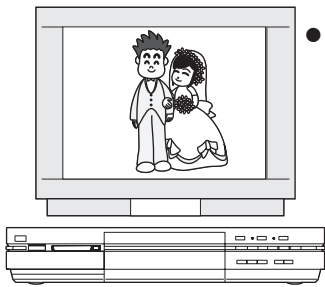
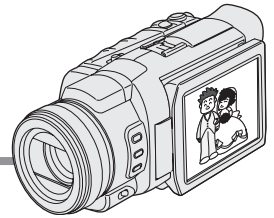
※ 再度、表示出力ボタンを押すと、表示が消えます。

4 （本機を操作）再生を始める

映像・音声が出ます

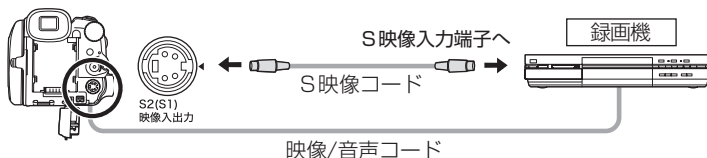
5 （本機を操作）再生を終わる

ダビングする（DVD レコーダーやビデオなどにコピーする）

本機で撮った映像を DVD-RAM などに保存

- 本機に撮影済みのカセット、DVD レコーダーやビデオに録画用の DVD-RAM やカセットなどを入れておいてください。
- 機能表示や年月日 / 時刻表示が不要な場合は、表示を消しておいてください。（P42、57）
（DV ケーブルで接続する場合は表示が出ないことがあります）
- 録画機の説明書もよくお読みください。

映像 / 音声コード（付属）または DV ケーブル（別売）で接続してください。
1 本機と録画機をつなぐ

映像 / 音声コードで接続する場合

DV ケーブル（別売）で接続する場合（DV 端子が付いている機器のみ）

■ 映像 / 音声コード接続時に、よりきれいに映像をコピーするには

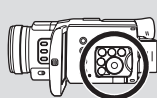
- 録画機にS映像入力端子があるときは、映像 / 音声コード（付属）と一緒にS映像コード（別売）も接続してください。

2 本機の電源を入れ、▶ テープ再生モードにする

3 テレビ・録画機の入力チャンネルを選ぶ

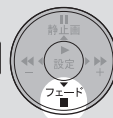
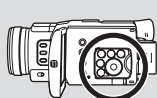
（詳しくはテレビ・録画機の説明書をお読みください）

・テレビの設定
例：チャンネルを「ビデオ 1」などにする（通常 DVD やビデオを見るチャンネル）

・録画機の設定
例：チャンネルを「L 1」などにする（接続する端子によって変わります）

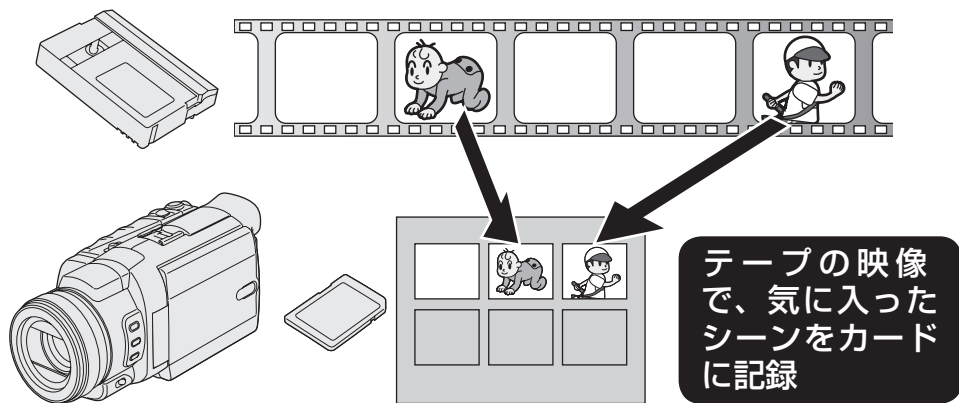
4 （本機を操作）再生を始める

映像・音声が出ます

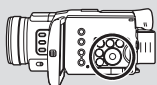
5 （録画機側を操作）録画を始める

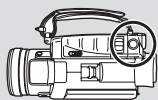
6 （本機を操作）再生を終わる

7 （録画機側を操作）録画を終わる

■ テレビに本機の映像・音声が出ないときは

- コードがグッと奥まで差し込んであるか確認してください。
- 接続している端子を確認してください。
- メニューで「AV タンシ」を「AV 出力 / ヘッドホン」に設定していてもテレビに映像が出ない場合は、「AV 出力」に設定してください。（P49）

テープの映像をカードに記録する

● 本機に撮影済みのカセット、記録用のカードを入れておいてください。

1 ▶ テープ再生モードにして再生を始める

2 カードに静止画を記録する

フォトショットボタンを押す

● 静止画に音声は記録されません。

■ テープからカードへの画像の記録について

● カードに記録される静止画のサイズは、「640 × 480」になります。
（メガピクセル静止画記録ではありません）

● テープ映像を静止画再生（P85）しないでフォトショットすると、ぶれのある画像を記録することがあります。

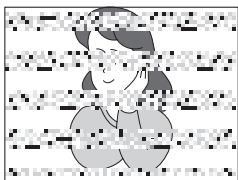
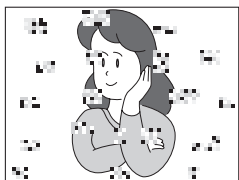
● S1 信号（16:9）の映像は、「ワイド画像は記録できません」と表示され、静止画は記録できません。

ヘッド汚れについて

● 撮影や再生時にビデオヘッド（テープが密着する部分）が汚れると、正常な記録や再生ができなくなりますので、デジタルビデオ用ヘッドクリーナーでヘッドをクリーニングしてください。

- デジタルビデオ用ヘッドクリーナーは、AY-DVMCL（別売）または VFK1449S（別売・サービスルート扱い）をお求めいただくことをおすすめします。
- ヘッドクリーナーをビデオカメラに入れ、テープ再生モードにして、約 10 ～ 20 秒をめやすに再生してください。（再生を停止しなかった場合は、約 30 秒後に自動的に停止します）
- 定期的にヘッドをクリーニングされることをおすすめします。

● ヘッドが汚れると、撮影時に「クリーニングテープをかけてください」と表示されます。また、再生時には以下のような症状が出ます。

- 部分的にモザイク状のノイズが出たり、音声が途切れる
- 黒または青のモザイク状の横しまが出る
- 画面全体が青一色になり、映像や音声が出ない

■ ヘッドをクリーニングしても正常に再生できないときは

撮影時にヘッドが汚れていたために正常に記録できなかったと考えられます。
ヘッドをクリーニングしてからもう一度撮影して、正常に再生できれば、ヘッドはきれいになっています。
大切な撮影時は、必ず事前にためし撮りをし、正常に記録・録音されていることを確かめてください。

- ヘッドをクリーニングしても再びヘッド汚れが発生した場合は、お使いのテープに起因している可能性がありますので、別のカセットをおためしください。
- 再生時に一瞬映像や音声が途切れる場合がありますが、ビデオカメラの故障ではありません。（撮影や再生中、ヘッドに一瞬付いた小さなごみやほこりなどによるものと考えられます）

つゆつきについて

夏に冷蔵庫から出したビンなどに、しばらくすると水滴が付きます。この現象が「つゆつき」です。つゆつきが本機のヘッド（テープが密着する部分）やカセット（テープ）に起こると、テープがはり付いてヘッドやテープを傷めたり、正常に記録できないことがあります。

つゆつきが起こる原因は

下記のように温度差、湿度差があると起こります。

- 寒い屋外（スキー場のゲレンデなど）から暖かい屋内に持ち込んだとき
- 冷房の効いた車などから車外へ出したとき
- 寒い部屋を急に暖房したとき
- エアコンなどの冷風が本機に直接当たっていたとき
- 夏の夕立のあと
- 湯気がたち込めるなど湿度の高いところ
  （温水プールなど）

つゆつきのトラブルを防ぐには

環境条件によっては、つゆつき表示が出ない場合があります。レンズや本体につゆが付いているときは、ヘッドやテープにもつゆが付く場合がありますので、カセットカバーを開けないでください。

◆ 寒いところから暖かいところなどの温度差の激しい場所へ持ち込むときは

例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、カセットカバーを閉じた状態でビニール袋などに本機を入れ、空気を抜き、密封してください。約 1 時間その状態で、移動先の室温になじませてからご使用ください。

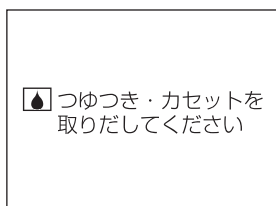
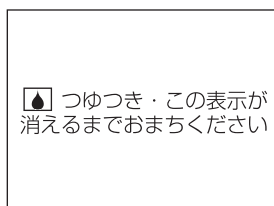
レンズがくもっているときの処置のしかた

電源スイッチを「切」にし、約 1 時間ほどそのままにしておいてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

つゆつき表示が出た場合の処置

ヘッドやテープにつゆつきが起こっているときに電源を入れると、黄色または赤色で警告が表示されます。（下図）

ファインダーや液晶モニターに下図の
警告文章が黄色または赤色で表示されます。

カセットが入っている場合	カセットが入っていない場合
つゆつき・カセットを取りだしてください	つゆつき・この表示が消えるまでおまちください

- 黄色表示：ヘッドやテープにうっすらつゆがついている状態
- 赤色表示：ヘッドやテープに完全につゆつきが起こっている状態

■ 以下の処置を行ってください。

① カセットが入っている場合は、カセットを取り出す

カセットカバーを開けてから、カセットホルダーが開くまで約 20 秒かかりますが、故障ではありません。

② カセットカバーを閉じた状態で放置し、その場所の環境になじませる

Ⓐ 文章が黄色表示の場合

テープ撮影 / 再生モードは使えなくなります。ただし、カセットが入っていないときは、カード記録およびカード静止画再生モードは使えます。つゆつき表示が消えるまでのめやすは約 30 分です。

Ⓑ 文章が赤色表示の場合

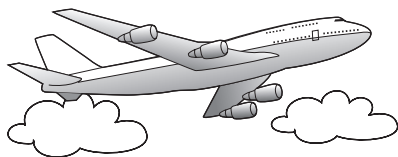
電源ランプが約 1 分間点滅し、自動的に電源が切れます。つゆつき表示が消えるまでのめやすは約 2 ～ 3 時間です。

③ テープ撮影またはテープ再生モードにして電源スイッチを入れ直し、つゆつき表示が消えていれば、テープへの撮影や再生が可能になります

- 特に温度が低い寒冷地では、つゆが凍結し、霜になることがあります。
  このような場合、表示が消えるまでにさらに時間がかかることがあります。

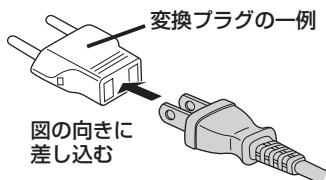
海外で使う

■ 撮ったものを海外で見るには

テレビに接続して見る場合、日本と同じテレビ方式(NTSC)の映像 / 音声入力端子付テレビと接続コードなどが必要です。

日本と同じ NTSC 方式を採用している国、地域

●アメリカ合衆国
●アンチグア･バーブーダ
●イエメン（一部地域）
●英領バーミューダ諸島
●エクアドル
●エルサルバドル
●ガイアナ
●カナダ
●キューバ
●グァテマラ
●グァム島
●グレナダ
●コスタリカ
●コロンビア
●ジャマイカ
●スリナム
●セントクリストファー･ネイビス
●セントビンセント･グレナディーン諸島
●セントルシア
●大韓民国
●台湾
●チリ
●ドミニカ共和国
●ドミニカ国
●トリニダード･トバゴ
●ニカラグア
●ハイチ
●パナマ
●バハマ
●バルバドス
●フィジー
●フィリピン
●プエルトリコ
●米領サモア
●ベトナム（一部地域）
●ベネズエラ
●ベリーズ
●ペルー
●ボリビア
●ホンジュラス
●マーシャル諸島
●マリアナ諸島
●ミクロネシア連邦
●ミャンマー
●メキシコ

■ AC アダプターを海外で使用するには

AC アダプターは、自動で全世界の電源電圧（100 V、120 V、220 V、240 V)、電源周波数（50 Hz、60 Hz）に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、右ページの表を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは､お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。充電のしかたは、国内と同じです。

ご使用にならないときは変換プラグをＡＣコンセントから外してください。

本機の保証書は、日本国内のみ有効です。万一、海外で故障した場合の現地でのアフターサービスについてはご容赦ください。

AC アダプターは､全世界の電源電圧（100 V､120 V､220 V､240 V)､電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけるように設計しております。
市販の変圧器などを使用すると、故障する恐れがあります。

■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米							
アメリカ合衆国	A	カナダ	A				
ヨーロッパ・旧ソ連地域							
アイスランド	C	アイルランド	C	イギリス	B.BF	イタリア	C
ウクライナ	C	オーストリア	C	オランダ	C	カザフスタン	C
ギリシャ	C	スイス	B.C	スウェーデン	C	スペイン	A.C
デンマーク	C	ドイツ	C	ノルウェー	C	ハンガリー	C
フィンランド	C	フランス	C	ベラルーシ	C	ベルギー	C
ポーランド	B.C	ポルトガル	B.C	ルーマニア	C	ロシア	C
アジア							
インド	B.C	インドネシア	B.C	シンガポール	B.BF	スリランカ	B
タイ	A.BF.C	大韓民国	A.B.C	台湾	A	中華人民共和国	A.B.BF.C.S
ネパール	C	パキスタン	B.C	バングラデシュ	C	フィリピン	A.C.S
ベトナム	A.C	香港特別行政区	B.BF	マカオ特別行政区	B.C	マレーシア	B.BF.C
モルジブ	B	モンゴル	C				
オセアニア							
オーストラリア	S	グァム島	A	タヒチ	C	トンガ	S
ニュージーランド	S	フィジー	S				
中南米							
アルゼンチン	BF.C.S	コロンビア	A	ジャマイカ	A	チリ	B.C
ハイチ	A	パナマ	A	バハマ	A	プエルトリコ	A
ブラジル	A.C	ベネズエラ	A	ペルー	A.C	メキシコ	A
中東							
イスラエル	C	イラン	C	クウェート	B.C	ヨルダン	B.BF
アフリカ							
アルジェリア	A.B.BF	エジプト	B.BF.C	カナリア諸島	C	ギニア	C
ケニア	B.C	ザンビア	B.BF	タンザニア	B.BF	南アフリカ共和国	B.C
モザンビーク	C	モロッコ	C				

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

よくある質問

充電時間と撮影可能時間

充電時間と撮影可能時間について

(2004年6月現在)

下表は常温（温度25℃ / 湿度60%）での時間です。高温、低温時は充電時間が長くなりますので、めやすにしてください。
間欠撮影可能時間とは、撮影、停止などを繰り返したときにテープに記録できる時間です。実際にはこれより短くなることがあります。

バッテリー品番	電圧 / 容量	充電時間	連続撮影可能時間	間欠撮影可能時間
付属のバッテリー / VW-VBD140(別売)	7.2 V/ 1360 mAh	約2時間45分	約2時間 (約1時間30分)	約1時間 (約45分)
VW-VBD210 (別売)	7.2 V/ 2040 mAh	約3時間55分	約3時間 (約2時間15分)	約1時間30分 (約1時間10分)
VW-VBD7 (別売)	7.2 V/ 5500 mAh	約11時間20分	約8時間15分 (約6時間35分)	約4時間10分 (約3時間20分)

ファインダー使用時［(　) 内は液晶モニター使用時］

- 以下のような場合は、撮影可能時間が短くなります。
  - 0Lux カラーナイトビュー (P77) や対面撮影 (P45) 時、または「EVF 入 / オート」(P44) を「入」に設定してファインダーと液晶モニターを同時に使用しているとき
  - POWER LCD ボタンを押して、液晶モニターの画面を明るくして使用しているとき
  - ホットシュー対応のアクセサリー(ステレオズームマイクロホン、ビデオDCライトなど) を使用しているとき
- 使用後や充電後はバッテリーが温かくなります。また使用中はビデオカメラ本体も温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリーの残量が少なくなるにつれ、▭→▭→▭→▭→▭と表示が変わります。容量がなくなると、▭ (▭) が点滅します。

カードへの記録枚数

記録枚数

■ 静止画の画質と記録枚数［SD メモリーカード使用時］

画像サイズ	2288 × 1728		
画質	ファイン	ノーマル	エコノミー
8 MB	約 1 枚	約 3 枚	約 5 枚
16 MB	約 5 枚	約 9 枚	約 14 枚
32 MB	約 14 枚	約 23 枚	約 33 枚
64 MB	約 30 枚	約 49 枚	約 70 枚
128 MB	約 64 枚	約 102 枚	約 144 枚
256 MB	約 130 枚	約 206 枚	約 290 枚
512 MB	約 265 枚	約 418 枚	約 587 枚
1 GB	約 512 枚	約 807 枚	約 1132 枚

画像サイズ	1600 × 1200		
画質	ファイン	ノーマル	エコノミー
8 MB	約 5 枚	約 9 枚	約 14 枚
16 MB	約 13 枚	約 22 枚	約 32 枚
32 MB	約 31 枚	約 49 枚	約 70 枚
64 MB	約 66 枚	約 104 枚	約 146 枚
128 MB	約 136 枚	約 214 枚	約 298 枚
256 MB	約 273 枚	約 428 枚	約 597 枚
512 MB	約 553 枚	約 866 枚	約 1207 枚
1 GB	約1066 枚	約1668 枚	約 2323 枚

画像サイズ	1280 × 960		
画質	ファイン	ノーマル	エコノミー
8 MB	約 9 枚	約 16 枚	約 23 枚
16 MB	約 22 枚	約 36 枚	約 51 枚
32 MB	約 49 枚	約 79 枚	約 112 枚
64 MB	約 104 枚	約 165 枚	約 232 枚
128 MB	約 214 枚	約 337 枚	約 473 枚
256 MB	約 428 枚	約 674 枚	約 945 枚
512 MB	約 866 枚	約 1362 枚	約 1908 枚
1 GB	約1668 枚	約 2622 枚	約 3672 枚

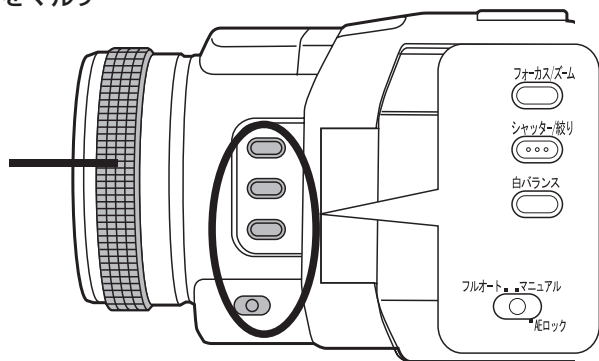
画像サイズ	640 × 480		
画質	ファイン	ノーマル	エコノミー
8 MB	約 45 枚	約 95 枚	約 190 枚
16 MB	約 100 枚	約 200 枚	約 400 枚
32 MB	約 220 枚	約 440 枚	約 880 枚
64 MB	約 440 枚	約 880 枚	約 1760 枚
128 MB	約 880 枚	約 1760 枚	約 3520 枚
256 MB	約 1760 枚	約 3520 枚	約 7040 枚
512 MB	約 3520 枚	約 7040 枚	約 14080 枚
1 GB	約 7040 枚	約14080 枚	約 28160 枚

● 「ファイン」、「ノーマル」、「エコノミー」が混在している場合や撮影される被写体によっては、静止画の記録枚数は変動します。

マルチマニュアルリングを使う

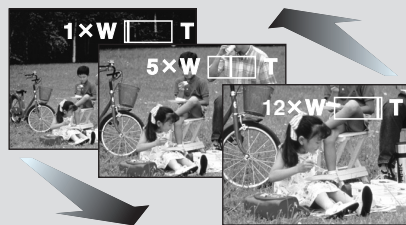
ズーム操作やピント / シャッター速度 / 明るさ（絞り・ゲイン）の調整をマルチマニュアルリングで行えます。

マルチ
マニュアルリング

フォーカス/ズーム
シャッター/絞り
白バランス
フルオート　マニュアル
AEロック

※テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく
※フルオート / マニュアル切換えスイッチを「マニュアル」にしておく

映像を大きくまたは広く（広角に）する

1 フォーカス / ズームボタンを押して、「MZ」を表示する

MZ ⟷ MF

- フルオート / マニュアル切換えスイッチを「マニュアル」にすると自動的に表示されます。

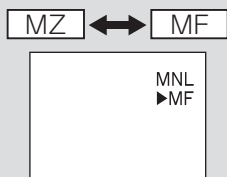
2 リングを回して倍率を調整する

- ズームレバーを動かして倍率を調整することもできます。（P29）
- リングを回す速さによって、ズーム速度が変わります。
- ズーム倍率が 12 倍より大きくなると、デジタルズームになります。（P36）
- カラーナイトビュー時や、シャッター速度が 1/15 以下の場合は、マルチマニュアルリングでのズーム操作ができなくなります。
- 「MZ」が表示されているときはオートフォーカスになります。

より詳しく P99、101 ～ 102

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス設定）

手動でピントが合いにくいときに調整してください。

1 フォーカス / ズームボタンを押して、「MF」を表示する

2 リングを回してピントを合わせる

ピント合わせのコツ

広角でピントを合わせると、拡大したときにピントが合っていないことがあります。

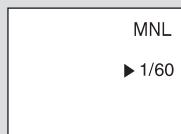
拡大して
合わせると・・・

広角にしても
ピントはピッタリ！

シャッター速度を調整する

動きの速いものを撮るときなどに調整してください。夜景を背景にして人物を撮るときなどは、スローシャッターモードにしてフラッシュを使うと、人物も背景も明るく撮ることができます。

1 シャッター / 絞りボタンを押して、シャッター速度を表示する

シャッター速度 ⟷ 絞り・ゲイン

2 リングを回して速度を調整する

■ **シャッター速度の調整範囲**

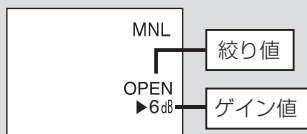
テープ撮影モード：
1/60 ～ 1/8000

カード記録モード：
1/2 ～ 1/2000

明るさ（絞り・ゲイン）を調整する

暗すぎる（明るすぎる）場面で撮るときなどに調整してください。

1 シャッター / 絞りボタンを押して、絞り値・ゲイン値を表示する

シャッター速度 ⟷ 絞り・ゲイン

2 リングを回して明るさを調整する

■ **絞り値・ゲイン値と明るさの関係**

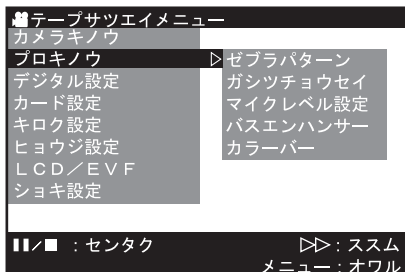
絞り値	ゲイン値
CLOSE－F16 ～ F1.7－OPEN（開放）	0dB ～18dB

暗くする ⟷ 明るくする

※シャッター速度、明るさの設定はシャッター / 絞りボタンを長押しすると解除されます。

応用操作編

プロ機能を使う

テープサツエイメニュー
カメラキノウ
プロキノウ ▷ゼブラパターン
デジタル設定　ガシツチョウセイ
カード設定　マイクレベル設定
キロク設定　バスエンハンサー
ヒョウジ設定　カラーバー
ＬＣＤ／ＥＶＦ
ショキ設定
II／■ ：センタク　▷▷：ススム
メニュー：オワル

テープ撮影/カード記録メニューの「プロキノウ」を使って、撮影時の映像や音声を詳細に設定することができます。

※ 画面はテープ撮影メニューの例です。

明るすぎる部分を表示する（ゼブラパターン）

映像で白とび（色とび）の起こりそうな部分（極端に明るい場所、光っている場所など）に縞模様（ゼブラパターン）を表示します。

1 メニュー操作する（P34）

「プロキノウ」→
「ゼブラパターン」→「入」

ゼブラパターン

● 撮りたい部分のゼブラパターンがなくなるように、手動でシャッター速度や明るさ（絞り / ゲイン）（P69）を調整すると、白とび（色とび）の少ない映像が得られます。

画質を調整する（ガシツチョウセイ）

撮影時、映像のディテール（輪郭のメリハリ）やイロレベル（色の濃さ）、ロシュツホセイ（明るさ）、コントラストを調整することができます。

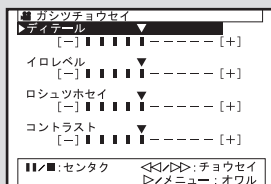
1「マニュアル」にする

2 メニュー操作する（P34）

「ガシツチョウセイ」→「する」

3 調整する項目を選ぶ

ガシツチョウセイ
▶ディテール
[−] ▮▮▮▮▮ − − − − − [+]
イロレベル
[−] ▮▮▮▮▮ − − − − − [+]
ロシュツホセイ
[−] ▮▮▮▮▮ − − − − − [+]
コントラスト
[−] ▮▮▮▮▮ − − − − − [+]
II／■：センタク　◁◁／▷▷：チョウセイ
▷／メニュー：オワル

4 調整する

● バー表示を ▼ 以外の位置にすると、設定後に「P-ADJ」表示が出ます。
● デジタル効果設定時は調整できません。
● フルオート / マニュアル切換えスイッチを「フルオート」にしていると、調整できません。

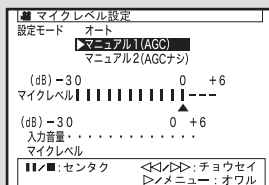
マイクレベルを設定する（マイクレベル設定）

撮影時、内蔵ステレオマイクおよび外部マイク端子の入力レベル（録音時の音量）を調整することができます。

1 メニュー操作する（P34）

「マイクレベル設定」→「する」

2 設定モードを選ぶ

3 調整する

● マニュアル 1、2 に設定すると、レベル表示が出ます。入力音量表示のバーが 3 本赤く点灯すると、音が歪みます。マイクレベルの設定を変えるか、「オート」または「マニュアル 1」に設定してお使いください。

■ ゼブラパターンについて

● 明るさを調整するときのめやすとしてお使いください。
● AE 設定の「(サーフ＆スノー)」や逆光補正を使用しているときは、ゼブラパターンは明るさを調整するときのめやすとはなりません。
● 人物の顔と白いシャツにゼブラパターンが表示されている場合に、白いシャツのゼブラパターンが消えるまで調整すると、人物の顔が暗くなりすぎることがあります。

■ マイクレベルの設定について

オート	AGC が働き、自動的に録音レベルを調整します。
マニュアル 1（AGC）	好みの録音レベルに設定できます。AGC も働きますので、音の歪みを軽減できます。
マニュアル 2（AGC ナシ）	AGC が働きませんので、自然な録音ができます。最大音で音が歪まないように調整してください。またズームマイク機能設定時は、ズームを T 側にしてから調整してください。

AGC：Auto（オート） Gain（ゲイン） Control（コントロール）の略です。

● 「マイクレベル設定」（テープ撮影モード）と「オーディオレベル設定」（テープ再生モード）の設定モードは同じになります。（マイクレベルの調整はそれぞれで設定できます）
● 撮影前にヘッドホンで音が歪んでいないか確認してください。

臨場感のある音声にする（バスエンハンサー）

音声の低域を上げて、より臨場感のある音声を記録します。

1 メニュー操作する（P34）

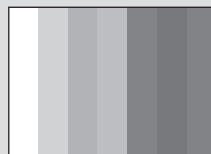
「バスエンハンサー」→「3dB」または「6dB」

■ 元に戻すには
「バスエンハンサー」を「0dB」に設定する

カラーバーを表示する（カラーバー）

テレビや外部モニターの画質調整に便利な７色のバーを表示します。

1 メニュー操作する（P34）

「カラーバー」→「入」

■ バスエンハンサーについて

- 内蔵マイク使用時のみ切り換えられます。
- テープ再生モードでは、内蔵マイクでのアフレコ時のみ切り換えられます。
- プロシネマモード（右ページ）では、「6dB」に固定されます。

ワイドテレビに対応した映像を撮る より詳しく P102

S1（ワイド）、S2（シネマ）映像端子の付いたワイドテレビに対応した映像を撮ることができます。

● 接続するテレビによって、テープの再生映像は異なります。

■ ワイド / プロシネマモード

準備： テープ撮影モードにしておく。

1「ワイド」または「プロシネマ」に切り換える

ボタンを押すごとにモードが切り換わります。
「切」→「ワイド」→「プロシネマ」→「切」
（本機で見る画面は縦長になります）

「ワイド」
16：9 の比率で映像を記録します。

「プロシネマ」
「ワイド」の効果に加えて、映画フィルムのようなしっとりとした映像で、1 秒 30 コマの動画を記録します。

■ 元に戻すには
ワイド / プロシネマボタンを押して、「ワイド」または「プロシネマ」表示を消す

■ シネマモード（※詳しくは、P41 を参照してください）

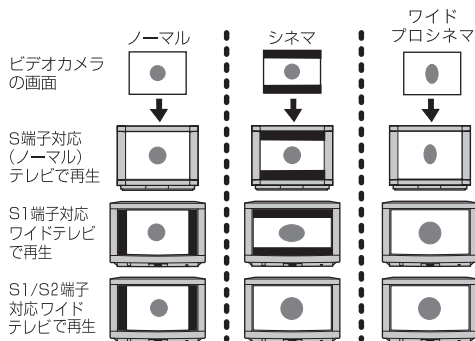
準備： テープ撮影モードにしておく。

1 メニュー操作する（P34）

「キロク設定」→「シネマモード」→「入」

■ 接続するテレビと再生される映像について

● S 映像コード（別売）を使う場合、接続する端子の種類によって再生映像が図のようになります。
● 接続するテレビの設定によって変わりますので、詳しくはテレビの説明書をお読みください。

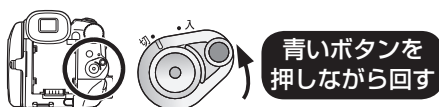
応用操作編

素早く撮影を始める（1.7 秒クイックスタート）

電源を入れてから約 1.7 秒で、撮影の一時停止状態になります。

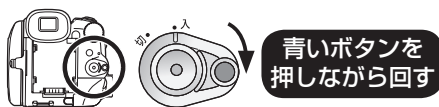
準備： カセットを入れてテープ撮影モード、またはカードを入れてカード記録モードにしておく

1 クイックスタートモードにする

- クイックスタートボタンが点灯します。（もう一度押すと消灯し、解除されます）

2 電源を「切」にする

- クイックスタートの待機状態になります。

3 電源を「入」にする

青いボタンを
押しながら回す

- 約 1.7 秒で撮影の一時停止状態になります。

■ 待機状態でクイックスタートを解除するには

クイックスタートボタンを 2 秒以上押す（ボタンが消灯して解除されます）

- 待機状態が約 30 分以上続くと、ボタンが消灯して完全に電源が切れます。

画面に映る映像を静止させる

静止させた映像を、テープに記録するときなどに便利です。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 映像を静止させる

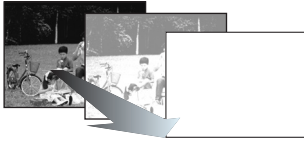
- 一度静止画にして画面を確認してから、フォトショットボタンを押してカードに記録することもできます。
- カード記録モード時はシャッターチャンスマークが緑点灯してから（P28）、静止画ボタンを押してください。

■ 元に戻すには

もう一度、静止画ボタンを押す

映像と音声を徐々に現す / 消す（フェード）

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

■ 徐々に消しながら撮る（フェードアウト撮影）

押し続ける

- ボタンを押し続けると、映像 / 音声が少しずつ消えていきます。

■ 徐々に現しながら撮る（フェードイン撮影）

押し続けたあと指を離す

- ボタンから指を離すと、映像 / 音声が少しずつ現れます。

肌の色をソフトに見せ、よりきれいに映す（美肌モード）

人物の胸から上を大きく撮ると、より効果的です。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 美肌モードにする

■ 元に戻すには

もう一度、美肌ボタンを押す

撮りたいものにだけピントを合わせて、クローズアップする（テレマクロ機能）

約 50 cm まで近づいて記録できます。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 テレマクロモードにする

- ズーム倍率が 12 倍以下のときは自動的に 12 倍になります。

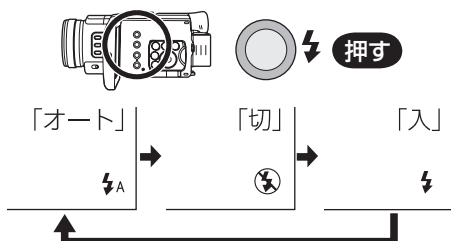
■ テレマクロモードを解除するには

もう一度、テレマクロボタンを押す（倍率は戻りません）、またはズーム操作（P29）をする

オートポップアップフラッシュを使う

暗い場所での静止画記録時にお使いください。

準備： テープ撮影モードまたは
カード記録モードにしておく

1 「オート」、「切」、「入」を切り換える

「オート」：
映像の明るさによって、自動でポップアップして発光します。（明るいところでは表示が消え、発光しません）

「切」：
フラッシュはポップアップも発光もしません。

「入」：
常にポップアップし、発光します。

2 半押し（浅く押す）してフラッシュをポップアップさせる

- フラッシュの設定、映像の明るさによっては発光しません。

3 半押しの状態から、全押し（下まで押す）して記録する

- フラッシュが発光し、静止画が記録されます。

■ フラッシュの明るさを調整するには

「カメラキノウ」メニューの「フラッシュアカルサ」で希望の明るさを選ぶ
（P37 参照）

■ フラッシュを使わないときは

フラッシュを「カチッ」と音がするまで閉じる

■ 静止画ボタンを使ってフラッシュを発光させる

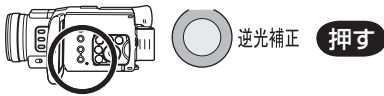
手順 2 で静止画ボタンを押すと、フラッシュが発光し、画面が静止します。（もう一度押すと静止画は解除されます）

お気に入りの場面になったら、フォトショットボタンを押して記録してください。

逆光で人物などが暗くなるのを防ぐ（逆光補正）

被写体に後ろ側から光が当たり、暗く映るときにお使いください。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 逆光を補正する

- 補正が終わると、緑色（点滅）から白色（点灯）に変わり、画面の映像が明るくなります。

■ 元に戻すには

もう一度、逆光補正ボタンを押す

暗い場所で撮る（なめらかカラーナイトビュー）

暗い場所でも、カラーで明るく浮かび上がらせて、動きもなめらかに撮影できます。三脚に取り付けて使うと、よりぶれの少ない映像が撮れます。

- フォーカスはマニュアルになります。
- 撮影した映像はコマ落としのようになります。

準備： テープ撮影モードにしておく

■ 暗い場所をカラーで明るくなめらかに撮る（なめらかカラーナイトビュー）

1 なめらかカラーナイトビューモードにする

■ 真っ暗な場所をライトパネルの明かりで撮る（0Lux（ゼロルクス）カラーナイトビュー）

1 0Lux カラーナイトビューモードにする

- 押すごとにモードが切り換わります。
「切」→「なめらかナイトビュー」→「0LUX ナイトビュー」→「切」

2 ライトパネルを点灯させる

液晶モニターを反転させる

- 液晶モニターを反転させると、POWER LCD ランプが点灯し、ライトパネルが白く光ります。
- ファインダーで映像を見ながら撮影してください。
- 真っ暗な場所でも約 1.2 m まで撮影できます。

応用操作編

特殊効果を使う
（デジタル機能 / 効果）

いろいろな効果を入れて撮影できます。

準備：テープ撮影モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「デジタルキノウ」または
「デジタルコウカ」→
希望の機能 / 効果（P38 参照）

■ **元に戻すには**

「デジタルキノウ」または
「デジタルコウカ」を「切」にする

複数の画像を組み合わせる
（マルチモード撮影）

1画面に9枚の静止画を取り込みます。

準備：テープ撮影モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「デジタルキノウ」→「マルチ」

2 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「マルチモード」→
「ストロボ」または「マニュアル」

3 マルチ画面にする

押す

■ **マルチモードについて**

ストロボマルチモード
9つの画面を自動で連続して取り込みます。

マニュアルマルチモード
マルチ / 子画面ボタンを押すごとに1つずつ、9つの画面を手動で選んで取り込みます。

■ **マルチ画面を消去するには**

取り込み終了後、マルチ / 子画面ボタンをポンと押す

■ **一度消去したマルチ画面を再表示するには**

マルチ / 子画面ボタンを1秒以上押す

子画面を入れる
（子画面機能）

画面の中に子画面（小さな静止画）を表示することができます。

準備：テープ撮影モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「デジタルキノウ」→「コガメン」

2 子画面を入れる

■ **子画面を消去するには**

マルチ / 子画面ボタンを押す

効果を入れて場面をつなぐ
（ワイプ / ミックス）

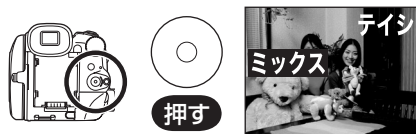
前の場面から次の画面に移り変わるときに使用する効果です。

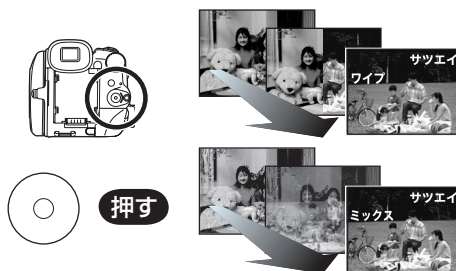
準備：テープ撮影モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「デジタルキノウ」→
「ワイプ」または「ミックス」

2 撮影する

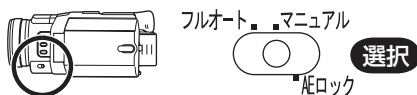
3 撮影を一時停止する

● 最後の場面がメモリーされ、「ワイプ」や「ミックス」の表示が白黒反転します。

4 もう一度撮影する

● 最後の場面から新しい場面へ「ワイプ」または「ミックス」の効果で変わります。

いろいろな場面で撮る（AE 設定）

撮りたい場面に合わせて、自動でシャッター速度や絞りが調整されます。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 「マニュアル」にする

2 メニュー操作する（P34）

「カメラキノウ」→「AE 設定」→希望の設定（P36 参照）

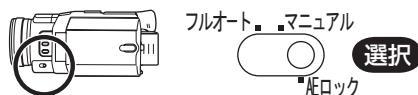
■ **元に戻すには**

「カメラキノウ」メニューで「AE 設定」を「切」にする、または切換えスイッチを「フルオート」にする

明るさを固定する（AE ロック）

逆光での撮影、暗い背景の中に立つ人物など、被写体と背景との間に極端な明るさの差がある場合、人物に合わせて明るさを固定すると、人物が適切な明るさで撮れます。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 撮りたい部分を拡大し、明るさを固定する

- 「AEロック」表示が緑色（点滅）から白色（点灯）に変わり、画面の映像が明るくなります。

■ **お好みの明るさに固定するには**

切換えスイッチを「マニュアル」にして絞り・ゲインを設定 (P69) したあと、「AE ロック」にする

■ **AE ロックを解除するには**

切換えスイッチを「フルオート」または「マニュアル」にする

自然な色合いにする（白バランス設定）

光源などによって色合いが自然でないときに、手動で設定してください。

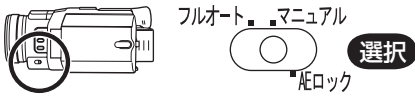
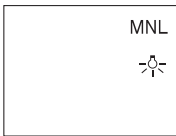
準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 「マニュアル」にする

選択

2 白バランスのモードを選ぶ

白バランス

押す

- ボタンを押すごとに白バランスのモードが切り換わります。

表示	モード	撮影条件
なし	オート	
（白熱電球アイコン）	屋内（白熱電球）	白熱電球、ハロゲンランプ
（太陽アイコン）	屋外	屋外の晴天下
（蛍光灯アイコン）	蛍光灯	蛍光灯（当社のパルック蛍光灯など）
（セットアイコン）	セット	● 水銀灯、ナトリウムランプ、一部の蛍光灯 ● ホテルの結婚式場のライトや劇場のスポットライト ● 日没・日の出など

（「マニュアル」または「AE ロック」時にボタンを長押しすると、セットモード（セットアイコン）になります）

■ 手動で白バランスの設定をする場合

手順2でセットモード（セットアイコン）を選び、画面いっぱいに白い被写体を映しながら、「セットアイコン」表示が点滅から点灯に変わるまで白バランスボタンを押し続ける

■ 元に戻すには

切換えスイッチを「フルオート」にする

自分も入って撮る（セルフタイマー）

タイマーを使ってカードに静止画を記録できます。

準備： テープ撮影モードまたはカード記録モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「カメラキノウ」→
「セルフタイマー」→「入」

2 タイマーをスタートさせる

フォトショット

- 「（セルフタイマーアイコン）」表示と撮影お知らせランプが 10 秒間点滅したあと記録されます。記録後、セルフタイマーは解除されます。
- フォトショットボタンの半押しは働きません。カード記録モード時はフォーカス合焦枠内にピントが合います（P28）。

■ タイマーを途中で止めるには

メニューボタンを押す

応用操作編

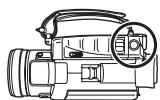
静止画を連続記録する（連写カードショット）

静止画を一定間隔で連続して記録します。

準備：カード記録モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「カード設定」→
「ガゾウサイズ」→「640 × 480」

「カード設定」→
「レンゾクサツエイ」→「入」

2 連続記録する

- 「PICTURE」が赤く点灯して、静止画がカードに記録されます。
- 半押ししてから連続記録することもできます。（ピントが固定され、手ぶれ補正を「入」にしているとMEGA OIS が働きます）

■ 連続記録を途中でやめるには

フォトショットボタンから指を離す

■「レンゾクサツエイ」の速度について

約 0.7 秒間隔で、最大 10 枚連続して記録します。

（マニュアルでシャッター速度を 1/15 以下に設定しているときは、連続記録はできません）

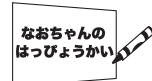
タイトルを作る

タイトルを作り、カードに記録できます。

準備：テープ撮影、テープ再生、カード記録のいずれかのモードにしておく

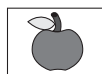
1 タイトルにするものを用意する

手書きのタイトル

なおちゃんの
はっぴょうかい

白い紙に黒い太い字で書きます。

原色のタイトル

タイトルにするもの

タイトルと背景の組み合わせ

タイトルにすると･･･

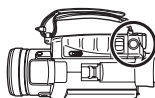
黒っぽい部分が抜けます。

- タイトルにするものが白っぽい場合は黒い背景を用意し、黒っぽい場合は白い背景を用意する。
- テープ再生モードでは、タイトルにしたい場面で静止画再生する。

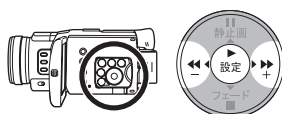
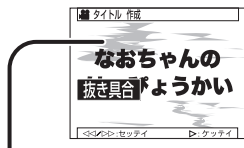
2 メニュー操作する（P34）

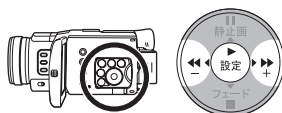
「カード設定」→
「ガゾウサイズ」→「640 × 480」

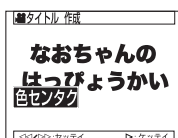
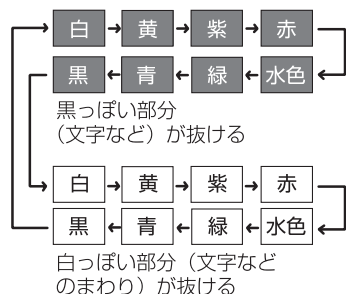
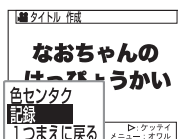
「カード設定」→
「タイトル作成」→「する」

3 用意したものを画面に映す

なおちゃんの
はっぴょうかい

画像が静止します。
（再生モードのときは、静止画再生している画像になります）

4「抜き具合」を選び、調整する

十字キーの左右で調整し、設定ボタンを押す

この部分がきれいになるように調整します。

5「色センタク」を選び、色を決める

十字キーの左右で選択し、設定ボタンを押す

タイトル 作成
なおちゃんの
はっぴょうかい
色センタク

右（▶▶）を押すごとに、図の順番で色が変わります。

6「記録」を選んで保存する

タイトルを入れる（タイトルイン）

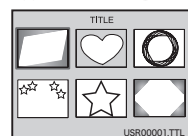
自分で作ったオリジナルタイトルを画面に表示することができます。

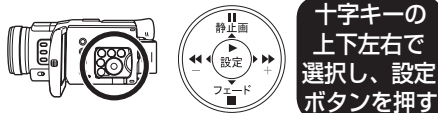
準備： テープ撮影、テープ再生、カード記録、カード静止画再生のいずれかのモードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「デジタル設定」→
「タイトルイン」→「入」

リモコンのタイトルインボタンを押しても表示できます。

2 マルチ画面にする

リモコンのマルチ / 子画面ボタンを押しても表示できます。

3 タイトルを選ぶ

テープ撮影 / カード記録モードでは、タイトルインした映像を記録できます。テープ再生 / カード静止画再生モード時は、テープ映像やカードの静止画にタイトルを入れて楽しめます。

■ タイトルの表示をやめるには

「タイトルイン」を「切」にする、またはリモコンのタイトルインボタンを押す

応用操作編

※再生機能については、ワイヤレスリモコンでの操作を中心とした説明をしています。

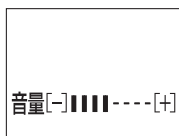
音量を調整する

再生時のスピーカー音量（ヘッドホン使用時はヘッドホン音量）を調整します。

準備：テープ再生モードにしておく

1 音量を変える

T 側 ：音量を上げる
W 側 ：音量を下げる

音量[−]▮▮▮▮----[+]

（「▮」表示が増えるほど音量は大きくなります）

リモコンの T/W ボタンを押しても表示できます。

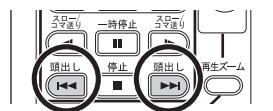
- 調整が終わると、音量表示は消えます。
- テープ再生時に聞きたい音声が聞こえないときは、「12bit 音声」（P48）の設定を確認してください。

撮った作品を頭出しする（シーンサーチ）

撮影時に記録されたインデックス信号を元にテープを頭出しします。

準備：テープ再生モードにしておく

（ワイヤレスリモコンでのみ操作できます）

1 頭出しをする

■シーンサーチについて

- 1 回頭出しボタンを押すと、「S1」と表示され、前後にあるシーンインデックス（P40）が入った場面を頭出しし、再生を始めます。
- 動作開始後、ボタンを押すごとに「S2」、「S3」と表示され、2 場面目以降（前後 9 場面目まで）の頭出しをすることができます。

■イントロサーチについて

- 頭出しボタンを 2 秒以上押し続けると、インデックスを次々と頭出しし、数秒間ずつ再生します（イントロサーチ機能）。解除するには、再生ボタンまたは停止ボタンを押してください。

■ 頭出しを途中でやめるには

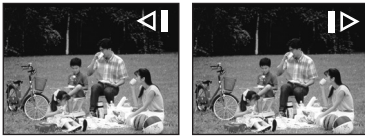
停止ボタンを押す

スローモーションで再生する（スロー再生）

SP モード記録時、約 1/5 の速度で再生
LP モード記録時、約 1/3 の速度で再生

準備： テープ再生モードにしてテープを再生しておく

（ワイヤレスリモコンでのみ操作できます）

1 スロー / 逆スロー再生する

■ スロー再生時間について

● 約 10 分以上スロー再生を使用し続けると、自動的に停止します。（１０分間でテープ上の再生時間は、ＳＰモード記録時で約２分、ＬＰモード記録時で約３分すすみます）

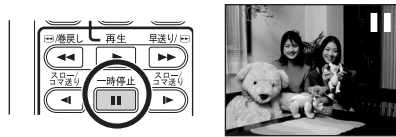
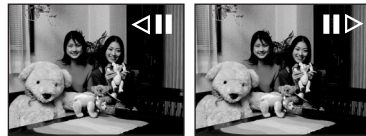
■ 通常の再生に戻すには

再生ボタンを押す

静止画再生 /1 コマずつ再生する（コマ送り再生）

静止画状態の再生ができます。また、静止画を 1 コマずつ再生できます。

準備： テープ再生モードにしてテープを再生しておく

1 静止画再生する

2 コマ送り再生する

● 静止画再生中に本体のズームレバーをＴ側（正方向）またはＷ側（逆方向）にポンと押しても、コマ送り再生できます。また、レバーを押し続けると連続コマ送り再生できます。

■ 通常の再生に戻すには

再生ボタンを押す

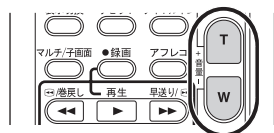
再生の速度を変える（可変速サーチ）

速度を変えて、再生 / 逆再生します。

準備： テープ再生モードにしてテープを再生しておく

1 可変速にする

● 再生中に本体の再生ボタンを押しても可変速になります。

2 再生の速度を変える

速度は再生 / 逆再生ともに 1/5(SP)、1/3（LP)、2、5、10、20 倍速があります。

● 本体のズームレバーでも速度を変えられます。

■ 通常の再生に戻すには

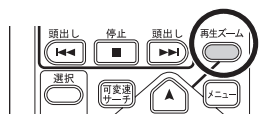
ワイヤレスリモコンの可変速サーチボタンまたは本体の再生ボタンを押す

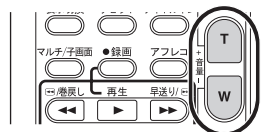
再生画面を大きくする（再生ズーム）

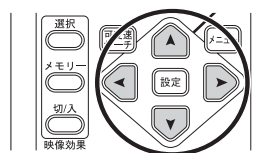
テープ再生中に、再生画面を拡大して表示することができます。

準備： テープ再生モードにしてテープを再生しておく

（ワイヤレスリモコンでのみ操作できます）

1 画面を拡大する

映像の中央が約 2 倍に拡大されます。

2 拡大の倍率を調整する

押している間、最大 10 倍まで拡大されます。

3 拡大した画像を移動させる

押している間、上下左右に移動できます。

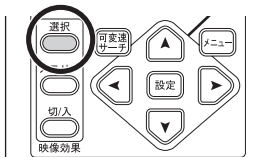
■ 元に戻すには

再生ズーム中に再生ズームボタンを押す

映像効果を入れて再生する（映像効果）

撮影した映像に特殊効果を入れて再生します。

準備：テープ再生モードにしておく

1 希望の効果を選ぶ

押すごとに効果が変わります。

<効果の種類>
ワイプ、ミックス、ストロボ、ネガポジ、セピア、モノトーン、キセキ、アート、モザイク、ミラー、ストレッチ、スリム
（実際の効果はP38をご参照ください）

■ 効果を一時解除するには

切 / 入ボタンを押す

画面の映像効果表示が点滅します。（ワイプ、ミックス設定時は除く）

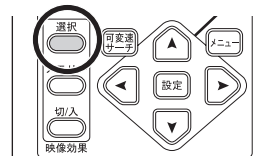
■ 効果を解除するには

選択ボタンを繰り返し押して、画面上の映像効果表示を消す

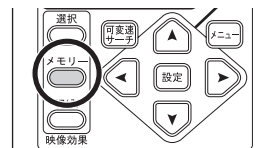
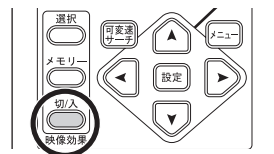
再生映像の変わり目に効果を入れる（ワイプ / ミックス）

メモリーした映像から、効果を入れながら場面を切り換えます。

準備：テープ再生モードにしておく
（ワイヤレスリモコンでのみ操作できます）

1 「ワイプ」または「ミックス」を選ぶ

2 再生映像からメモリーしたい場面を決める

3 メモリー画像に場面をつなげる

応用操作編

カード設定

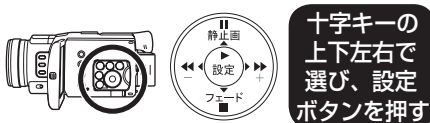
ファイルを誤消去防止する（ロック設定）

準備： カード静止画再生モードにしておく（タイトルはロック設定できません）

1 メニュー操作する（P34）

「カードヘンシュウ」→
「ロック設定」→「する」

2 ファイルを選ぶ

十字キーの上下左右で選び、設定ボタンを押す

「🔑」表示が出てファイルがロックされます。もう一度設定ボタンを押すと、ロックは解除されます。

■ **設定を終了するには**

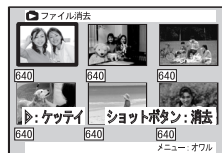
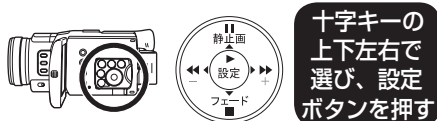
メニューボタンを押す

ファイルを消去する

準備： カード静止画再生モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「ファイル消去」→
「ファイルをえらんで消去」または
「タイトルをえらんで消去」→「する」

2 消去するファイルを選ぶ

- 消去したいファイルを選択すると、枠が黄色に変わります。
- 同じ画面の複数のファイルを選択して消去することもできます。

3 消去する

確認のメッセージが出たら、「ハイ」を選んで設定ボタンを押す。
（やめるときは「イイエ」を選ぶ）

■ **ファイルをすべて消去する場合**

手順 1 で「ファイルをすべて消去」を「する」にし、確認のメッセージで「ハイ」を選び、設定ボタンを押す

- カード内にファイルが多数ある場合、消去に数分かかることがあります。

- **ロックされているファイルは消去できません。ロック設定を解除してください。**
- **一度消去したファイルは元に戻りません。**

プリント情報をカードに書き込む（DPOF 設定）

（ディーポフ）

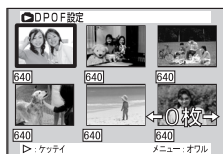
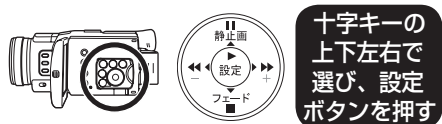
プリントしたい画像、プリント枚数などの情報（DPOF データ）をカードに書き込むことができます。

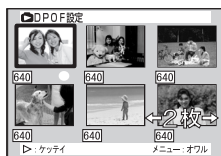
準備：カード静止画再生モードにしておく

1 メニュー操作する（P34）

「カードヘンシュウ」→
「DPOF 設定」→「する」

2「えらんで設定」を選ぶ

3 プリントする画像を選ぶ

枚数表示が出ます。

4 プリントする枚数を選ぶ

1 枚以上に設定した画像に「○」表示が出ます。

- 0 から 99 枚まで選べます。（PictBridge（P90）でプリントする枚数ではありません）

■ 設定を終了するには

手順 3、4 を繰り返したあと、メニューボタンを押す

■ すべての画像をプリントしないように設定するには

手順 2 で「すべて 0 枚に設定」にする

■ DPOF 設定の内容を確認するには

手順 2 で「設定のカクニン」にする

- 1 枚以上に設定している画像が枚数表示とともに順番に再生され、そのあと通常の再生に戻ります。

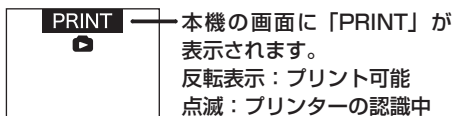
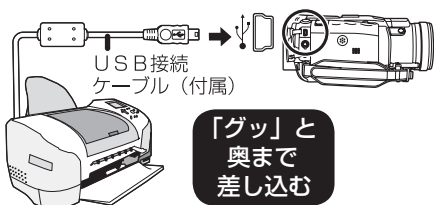
■ DPOF 設定の確認を途中でやめるには

停止ボタンを押す

プリンターに直接つないでプリントする（PictBridge）

PictBridgeに対応したプリンターが必要です。（プリンターの説明書もお読みください）

準備： カードを入れて、カード静止画再生モードにしておく

1 USB 接続ケーブル（付属）でプリンターと接続する

PRINT

本機の画面に「PRINT」が表示されます。
反転表示：プリント可能
点滅：プリンターの認識中

- 本機にカードが入っていないときは、「PRINT」は表示されません。（プリントできません）
- 「PRINT」が点滅し続ける（約 1 分以上）場合は、本機とプリンターの接続が正しくありません。ケーブルを接続し直すか、プリンターを確認してください。
- 電源は AC アダプターを使うことをおすすめします。

2 プリントする画像を再生する

- 画像をマルチ画面で表示しているときはプリントできません。

（日付を入れてプリントする場合）

3 メニュー操作する（P34）

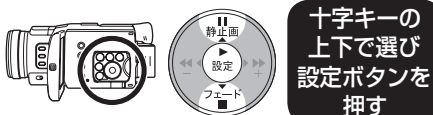
「プリント」→
「日付プリント」→「入」

- プリンターが日付印刷に対応していないときは設定できません。

4 メニュー操作する（P34）

「プリント」→「シングルプリント」

5 用紙のサイズを選ぶ

十字キーの上下で選び設定ボタンを押す

「ヒョウジュン設定」：　プリンターに設定されているサイズ
「L」　：L 版サイズ
「2L」　：2L 版サイズ
「ハガキ」：はがきサイズ
「A4」　：A4 サイズ

- プリンターが対応していないサイズには設定できません。

6 プリントする枚数を選ぶ

十字キーの左右で選ぶ

- 最大で 9 枚まで設定できます。

7 プリントする

設定ボタンを押す

- プリント中は以下の操作をしないでください。正しくプリントされません。
  - ・USB 接続ケーブルを抜く
  - ・カードを取り出す
  - ・モードダイヤルを回す

■ プリントを途中でやめるには

停止ボタンを押す

より詳しく P108 ～ 109

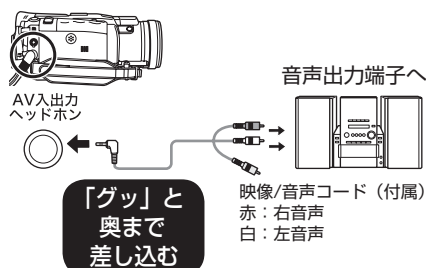
撮ったあとに別の音声を入れる（アフレコ）

テープに撮った映像にあとから BGM やナレーションを入れることができます。

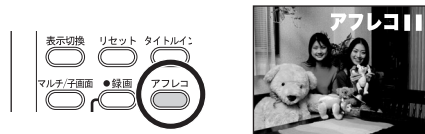
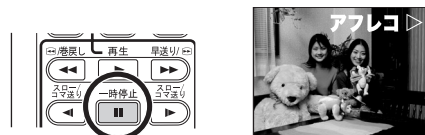
準備： テープ再生モードにしておく（「AV 入出力設定」メニューの「AV タンシ」を「AV 入出力」に設定して、入力する機器を接続しておく）

■ マイク端子を使ったアフレコ（マイク入力）の場合

「AV 入出力設定」→「アフレコ入力」→「マイク」

■ 外部機器（オーディオ機器など）を使ったアフレコ（外部入力）の場合

「AV 入出力設定」→「アフレコ入力」→「ライン」

1 音声を入れる場面を探し、静止画再生にする

2 アフレコの準備状態にする

3 録音を始める

マイクに向かって音声を入れる。または、接続している機器を再生する。

4 録音を終わる

■ アフレコ録音する前に

- 撮影時のオリジナルの音声も残したい場合は、「キロク設定」メニューの「音声キロク」を「12bit」にして撮影してください。（「16bit」設定時は、アフレコ録音後、撮影時の音声は消えます）
- 「キロク設定」メニューの「キロクモード」を「SP」にして撮影してください。（「LP」モードで撮影した部分にはアフレコできません）

■ アフレコした音声を聞くには

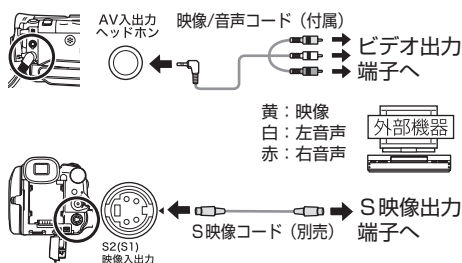
「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」の設定によって、アフレコ音声と元の音声を切り換えることができます。

ステレオ 1：元の音声を再生します。
ステレオ 2：アフレコ音声を再生します。
ミックス　：元の音声とアフレコ音声を同時に再生します。

外部機器（ビデオ機器やテレビ）の内容を記録する

S-VHS（VHS）カセットの内容をDVカセットやカードに記録したり、テレビ番組を録画することができます。

準備：テープ再生モードにしておく

1 外部機器と接続する

「グッ」と奥まで差し込む

2 メニュー操作する（P34）

「AV入出力設定」→
「AVタンシ」→「AV入出力」

3 電源を入れ、再生する（外部機器）

4 録画する（本機）

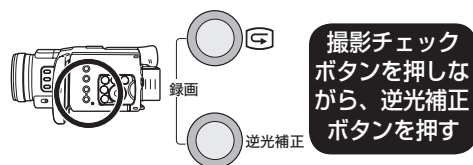
テープに録画

撮影チェックボタンを押しながら、逆光補正ボタンを押す

または

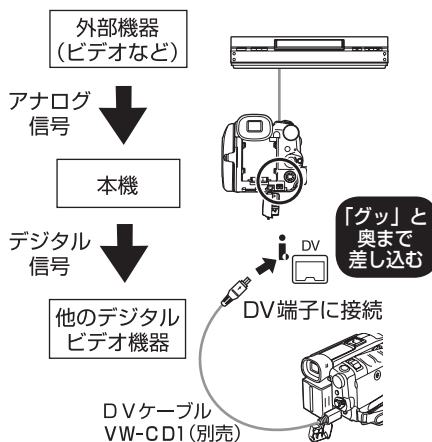
録画ボタンを押しながら、再生ボタンを押す

- 停止ボタンを押して、記録を終わる。

または

カードに記録

5 再生を終わる（外部機器）

■ AD（アナログ / デジタル）変換について

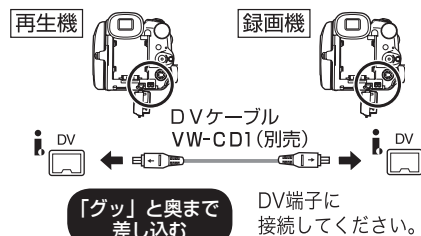
「AV 入出力設定」メニューの「AD ヘンカン出力」を「入」に設定すると、外部機器からアナログ入力した映像を、DV 端子をとおして接続されている他のデジタルビデオ機器にデジタル出力することができます。

● AD（アナログ / デジタル）変換時に外部機器で一時停止または早送り / 巻戻し再生をすると、映像が乱れたり、映らなくなることがあります。
● 通常は「AD ヘンカン出力」を「切」にしておいてください。「入」に設定していると、映像が乱れることがあります。

デジタルビデオ機器とつないで使う（デジタルダビング）

DV 端子（IEEE1394 端子）を持ったデジタルビデオ機器と DV ケーブル /VW-CD1（別売）でつなぐと、デジタル信号による高画質なダビングができます。

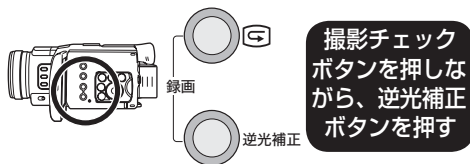
準備：テープ再生モードにしておく
（再生機・録画機どちらも）

1 接続する

DV端子に
接続してください。

2 再生する（再生機）

3 録画する（録画機）

または

録画ボタンを
押しながら、
再生ボタンを押す

4 録画を終わる（録画機）

5 再生を終わる（再生機）

パソコンにつないで WEB カメラとして使う

USB 接続ケーブル（付属）を使って本機とパソコンをつなぐと、インターネット回線をとおして、テレビ電話のようなコミュニケーションが楽しめます。

接続、インストールなどの説明は、パソコン接続編取扱説明書（別冊）をお読みください。

- **WEB カメラは Windows XP SP1 以降をお使いの場合のみ使えます。**

準備： テープ撮影モードまたはテープ再生モードにしておく

パソコンに映像を映す

1 メニュー操作する（P34）

「カメラキノウ」（テープ撮影モード）または「再生キノウ」（テープ再生モード）→「USB キノウ」→「WEB カメラ」

Windows Messenger の画面に本機の映像が映ります。

- Windows Messenger 5.0 以降以外の環境でのご使用については動作保障いたしません。
- テープ再生モードで使うとテープの再生映像を相手に送ることができます。
- WEB カメラとして使用している場合、テープやカードに記録することや、タイトルを表示させることはできません。

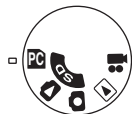
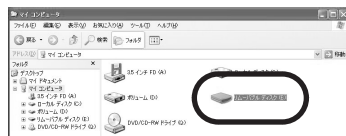
■ WEB カメラ機能を解除する

Windows Messenger を終了して、USB 接続ケーブルを抜く

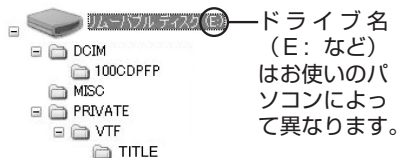
カードのファイルをパソコンにコピーする

本機とパソコンを USB 接続ケーブルでつなぐと、カードに記録されているファイルをパソコンにコピーや移動して保存できます。

接続、インストールなどの説明は、パソコン接続編取扱説明書（別冊）をお読みください。

- **Windows 98 SE をお使いの場合は USB ドライバーをパソコンにインストールしてから接続してください。**

PC 接続モードにして接続する

パソコンの「マイコンピュータ」に「リムーバブルディスク」として表示されます。

1 コピーまたは移動したいファイルの入ったフォルダーを開く

ドライブ名（E：など）はお使いのパソコンによって異なります。

静止画ファイルは「100CDPFP」に保存されています。（P111）

2 コピー（移動）先（パソコンのハードディスクなど）にファイルをドラッグ＆ドロップする

ドラッグ＆ドロップでパソコンにコピー

パソコンを使って 静止画を編集する

CD-ROM（付属）内のビューワーソフト SD Viewer 3.1J for DV を使って、本機のテープ映像やカード画像をパソコンで扱うことができます。

接続、インストールなどの説明は、パソコン接続編取扱説明書（別冊）をお読みください。

SD Viewer 3.1J for DV

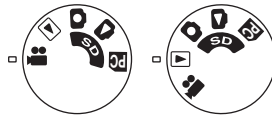
PC 接続モードにして接続する

カードの画像が一覧（サムネイル）表示されるので、内容が一目で確認できます。画像の整理や検索、DPOF 設定などに便利です。

パソコンを使って 動画を編集する

CD-ROM（付属）内の Windows 用 DV 動画編集ソフト MotionDV STUDIO 5.1J LE for DV を使って、テープ映像の編集を行うことができます。

接続、インストールなどの説明は、パソコン接続編取扱説明書（別冊）をお読みください。

MotionDV STUDIO 5.1J LE for DV

テープ撮影モードまたはテープ再生モードにして接続する

- USB 接続ケーブルで接続するときは、接続前に以下のメニュー操作をしてください。(P34)
  （お使いのパソコンが USB2.0 High-Speed に対応していることが必要です）

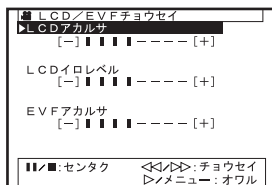
「カメラキノウ」（テープ撮影モード）
または「再生キノウ」（テープ再生モード）
→「USB キノウ」→「モーションＤＶ」

特殊なメニュー操作

液晶モニター / ファインダーを調整する

1 メニュー操作する（P34）

「LCD/EVF」→
「LCD/EVF チョウセイ」→「する」

2 調整する項目を選ぶ

LCD アカルサ：
液晶モニターの明るさ

LCD イロレベル：
液晶モニターの色の濃さ

EVF アカルサ：
ファインダーの明るさ

- ファインダーの明るさを調整するときは、「LCD/EVF」メニューの「EVF 入 / オート」を「入」にするか、液晶モニターを反転してファインダーを点灯させてください。

3 調整する

バー表示が増減します。

- 調整内容は、実際に録画される映像には影響しません。

年月日 / 時刻を合わせる

画面に表示される年月日 / 時刻が合っていないときは、合わせ直してください。

準備： テープ撮影モードまたは
カード記録モードにしておく

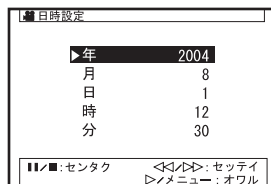
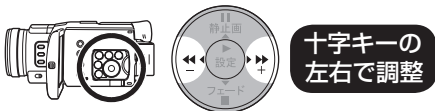
1 メニュー操作する（P34）

「ショキ設定」→
「日時設定」→「する」

2 合わせる項目（年 / 月 / 日 / 時 / 分）を選ぶ

日時設定

▶年	2004
月	8
日	1
時	12
分	30

:センタク　:セッテイ
▷／メニュー：オワル

3 数字を合わせる

- 「年」は 2000 → 2001 →…→ 2089 → 2000 と変わります。
「時」は 24 時間表示です。

■ 設定を終了するには

メニューボタンを押す

- 秒は 0 から始まります。

より詳しく

カセット（P22）

■ カセットを出し入れするときは

- カセットホルダーの動作中は、「PUSH」表示部以外は触らないでください。
- 使用途中のカセットを入れたときは、ブランクサーチ機能（P46）を使って、続けて撮影する部分を探してください。特に、一度使用したカセットに重ね撮りする場合、必ず続けて撮影する部分を探してから撮影してください。
- カセットカバーを最後まできちんと閉じてお使いください。カセットカバーが開いた状態で、本機の内部に外の光が入ると、「カセットカバーをとじてください」と表示され、正しく動作しないことがあります。
- カセットカバーを閉じるときは、コードなどを挟み込まないようにお気を付けください。

■ 使用できる当社のカセットについて（2004 年 6 月現在）

カセット品番	使用できる時間	
	SP	LP
AY-DVM30	30 分	45 分
AY-DVM60	60 分	90 分
AY-DVM80	80 分	120 分

SP（標準）：Standard（スタンダード） Play（プレイ）の意味です。
LP（長時間）：Long（ロング） Play（プレイ）の意味です。（P40）

■ カセットの誤消去防止つまみについて

- 撮影後は、誤って撮影内容を消さないために、誤消去防止つまみを［SAVE］側（開く）にしておくと、撮影ができなくなります。［REC］側に戻すと、撮影が可能になります。

カード（P23）

■ SD メモリーカードとマルチメディアカード

SDメモリーカード
- •RP-SDH01GJ1A (1 GB)
- •RP-SDH512N1A (512 MB)
- •RP-SDH256N1A (256 MB)
- •RP-SD128BL1A (128 MB)
- •RP-SD064BL1A (64 MB)
- •RP-SD032BL1A (32 MB)

マルチメディアカード
- •VW-MMC16 (16 MB)
- •VW-MMC8 (8 MB)

- SD メモリーカードのラベルに記載されているメモリー容量は、著作権の保護・管理のための容量と、ビデオカメラやパソコンなどで通常のメモリーとして利用可能な容量の合計です。

通常のメモリーとして利用可能な容量
（当社製 SD メモリーカードの場合）

8 MB	約 6,800,000 バイト
16 MB	約 14,900,000 バイト
32 MB	約 31,100,000 バイト
64 MB	約 63,500,000 バイト
128 MB	約 128,300,000 バイト
256 MB	約 255,700,000 バイト
512 MB	約 515,100,000 バイト
1 GB	約 990,500,000 バイト

■ カードについて

- カード裏の接続端子部分に触れないでください。
- カードを他機やパソコンでフォーマットしないでください。使用できなくなる場合があります。
- 電気ノイズや静電気、本機やカードの故障などによりカードのデータが壊れたり、消失することがありますので、大切なデータはUSB接続ケーブル、PCカードアダプターやUSBリーダーライターなどを使って、パソコンなどにも保存してください。（P110～111）

■ SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDメモリーカード本体には書き込み禁止スイッチが付いています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなります。戻すと可能になります。

テープへの撮影（P26）

■ 画面上のテープ残量表示について

- テープ残量を分単位で表示します。（2分で点滅表示）
- 15秒以下の撮影では残量表示が出ないか、または正確に出ないことがあります。
- 実際のテープ残量より2～3分少ない表示が出ることがあります。

■ プログレッシブ機能について

- テープ撮影モードでは、以下の場合プログレッシブ機能は使えません。
  - デジタル機能設定時
  - デジタルズーム（12倍以上）使用時
  - シャッター速度が1/750以上のとき
  - ゲイン値が6dB以上のとき
  - フラッシュを「切」にしていて、明るさが不十分なとき
  - カラーナイトビュー使用時
  - AE設定の「（ポートレート）」設定時

撮影チェック（P27）

- 撮影したときと同じ記録モード（SPまたはLP)で行ってください。モードが異なっていると、チェック画面が乱れる場合があります。

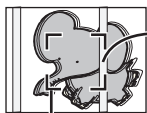
カードへの記録（P28～29）

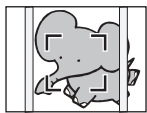
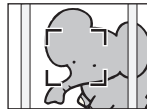
- カードにデータを記録している間は、モードダイヤルを操作しないでください。
- カード動作中ランプ点灯中は、カードを抜き差ししないでください。
- マルチメディアカードを使用すると記録に時間がかかることがあります。（カード動作中ランプが点灯し続けますが故障ではありません）
- 他機で記録、作成したデータの本機での再生、本機で記録、作成したデータの他機での再生は、画像が悪くなったり、再生できない場合があります。
- あらかじめ静止画ボタンを押して、画面を確認してから、フォトショットボタンを押すことをおすすめします。
- カード画像の画質を「ノーマル」や「エコノミー」に設定して撮影すると、シーンによってはモザイク状になることがあります。
- 画像サイズを「640×480」以外に設定するとメガピクセル記録になります。
- カード記録モードでは、以下の機能は使えません。
  - ワイド / プロシネマ
  - カラーナイトビュー
  - デジタル機能 / 効果
  - デジタルズーム
- 画像サイズを「640×480」以外に設定すると、以下の機能は使えません。
  - 連写カードショット
  - タイトルイン
- 音声は記録できません。
- DV入力あるいはテープに記録されたワイド映像をカードに記録することはできません。

■ 静止画をきれいに撮影するには

- 4 ～ 12 倍またはそれ以上の高倍率ズーム時は、手持ちによる撮影で微妙なぶれを抑えるのは難しくなりますので、ズーム倍率を低くして被写体に近づいて撮ることをおすすめします。
- 静止画を記録する際は、ぶれのないように両手でしっかり持ち、わきをしめて構えてください。
- 三脚・リモコンを使うと、手ぶれのない安定した映像を記録することができます。

■ フォーカス合焦枠について

- フォーカス合焦枠内で被写体の前後にコントラストの高いものがあると、被写体にピントが合わない（合焦しない）場合があります。そのときは、コントラストの高いものをフォーカス合焦枠から外してください。

フォーカス合焦枠から外すとピントが合います。

または

■ シャッターチャンスマークについて

- マニュアルフォーカス時は、シャッターチャンスマークは出ません。
- 自動でピントが合いにくいときは、マニュアルで合わせてください。
- シャッターチャンスマークが出なくてもカード記録は可能です。ただし、ピントが合わずに記録される場合があります。
- 以下のような場合はシャッターチャンスマークが表示されない、または表示されにくくなります。
  - ズーム倍率が大きい
  - 手ぶれが大きい
  - 被写体が動いている
  - 逆光のとき
  - 遠近が共存している場面
  - 低照度で暗い場面
  - 明るい部分が入っている場面
  - 横線しかない場面
  - コントラストが少ない場面

ズーム（P29、68）

- 本機を手に持って拡大して撮影するときは、手ぶれ補正機能を使うことをおすすめします。（P36）
- 被写体を大きくしているときは、約 1.2 m 以上でピントが合います。
- ズーム速度が速いと、ピントが合わないことがあります。
- ズーム倍率 1 倍では、レンズから約 4 cm まで近づいて撮ることができます。（マクロ機能）

■ 可変速ズーム機能について

- ズームレバーを最後まで押し込むと、撮影の一時停止中は最速約 0.6 秒（撮影中は約 1.5 秒）で 1 ～ 12 倍までズームできます。
- マルチマニュアルリングを回す速さやズームレバーを動かす幅によって、ズーム速度が変わります。
- フリースタイルリモコンでは、ズーム速度は 2 段階に変化します。
- ワイヤレスリモコンでは可変速ズームはできません。

テープの再生（P30）

- 動きのある場面では、早送り / 巻戻し再生中に画面がモザイク状になります。
- 早送り / 巻戻し再生の前後に、画面が一瞬青くなったり、映像が乱れることがあります。

■ リピート再生について

- 再生中に再生ボタンを 5 秒以上押し続けると、自動巻戻し再生（リピート再生）になり、「R ▷」表示が出ます。（解除するには、電源を「切」にします）
- テープの終端まで再生すると、自動的に始端まで巻き戻し、もう一度再生します。

■ 音声の設定について

- 聞きたい音声が出ないときは、「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」の設定（P48）を確認してください。
- 「12bit」で撮影、アフレコした場合、「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」を「ミックス」にすると、「音声キリカエ」の設定に関係なく、再生する音声はステレオになります。

カードの再生（P31）

- カードのデータを再生中は、モードダイヤルを操作しないでください。
- カード動作中ランプ点灯中は、カードを抜き差ししないでください。
- カードにデータが記録されていない場合は白い画面になります。
- 形式の異なるデータや壊れたデータを再生したときは、画面全体が青くなり、「再生できません」というメッセージが出ることがあります。
- 本機以外で記録したファイルを再生すると、日時表示が撮影日時と異なることがあります。
- 他の機器で記録された画像を再生すると、記録したときの画像サイズと本機で表示される画像サイズが異なる場合があります。（P114）
- タイトルを入れて再生できます。（P83）

■ スライドショーについて

- 画像サイズによっては、再生時間が長くなる場合があります。
- スライドショー再生中はタイトルイン（P83）できません。

■ 静止画の互換性について

- 本機は電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格DCF（Design(デザイン) rule(ルール) for(フォー) Camera(カメラ) File(ファイル) system(システム)）に準拠しています。
- 本機で再生できるファイル形式はJPEG です。（JPEG 形式でも再生できないものもあります）
- 規格外のファイルを再生すると、フォルダー / ファイル名が表示されない場合があります。
- 他機で記録、作成したデータの本機での再生、本機で記録、作成したデータの他機での再生は、画像が悪くなったり、再生できない場合があります。

ワイヤレスリモコン（P32）

- リモコンの操作範囲は室内での使用時の値です。屋外やリモコンセンサー部に強い光が当たっているときは、この範囲内であっても操作できない場合があります。
- 近距離（約 1 m 以内）で操作するときは、リモコンセンサー横（液晶モニター側）からもリモコン操作ができます。
- メニュー画面操作時は、方向ボタンのかわりに、停止［■］/ 一時停止［❚❚］/ 巻戻し［◀◀］/ 早送り［▶▶］ボタン、設定ボタンのかわりに再生［▶］ボタンを使うこともできます。

■ コイン電池について

- ワイヤレスリモコンを本機のリモコンセンサーの近くで操作しても動作しない場合は、コイン電池（CR2025）が消耗しています。新しい電池と交換してください。（電池の寿命は使用頻度にもよりますが、約 1 年です）
- コイン電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。

フリースタイルリモコン（P33）

- リモコン / マイク（プラグインパワー）端子の奥まできちんと差し込まれていないと、正しく操作できない場合があります。
- 使う前にもう一度、プラグが奥まで差し込まれていることを確認してください。
- 使用しないときは、クリップをグリップベルトに挟んでおくと便利です。

テレビでの再生（P56）

- S 映像コード接続時は必ず映像 / 音声コードも一緒に接続してください。
- AC アダプターを使うと、バッテリーの消耗を気にせず使えます。
- テープ再生モード時、「AV 入出力設定」メニューの「AV タンシ」を「AV 入出力」に設定していると、テープ再生時以外テレビ画面には何も映りません。
- シネマモードの映像をワイドテレビで再生する場合、映像効果を入れていると、テレビが誤作動する（表示サイズが変わる）ことがあります。

シャッター速度（P69）

- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明は避けてください。色合いや画面の明るさが変わることがあります。
- マニュアルでシャッター速度を速くすると、感度が低くなることにより、自動でゲイン値が上がり、画面にノイズが増えることがあります。
- 明るく光っているものや反射の強いものは、縦方向に光の帯が出ているように撮れることがありますが、故障ではありません。
- 通常の再生では、画面の変わりかたがなめらかに見えないことがあります。
- テープ撮影モードでシャッター速度を 1/750 以上にすると、プログレッシブ機能は使えなくなります。
- カラーナイトビュー使用時、AE 設定時には調整できません。

■ カードスローシャッターについて

- カード記録モードでシャッター速度を 1/2、1/4、1/8、1/15 に設定すると、スローシャッターモードになります。
- 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作すると解除されます。
- スローシャッターモードになると、
  - 白バランスは固定されます。
  - フォーカスはマニュアルになります。
- フォーカス / ズームボタンを押すと、自動的にシャッター速度を一度 1/60 に戻してピントを合わせ、そのあと元のシャッター速度に戻ります。

ピントを合わせている間、「MF」が点滅します。

- 低照度で暗い、またはコントラストが少ないシーンでは、ピントが合わないことがあります。
- ピントを合わせている間は、電源スイッチ、モードダイヤル、フルオート / マニュアル切換えスイッチ以外は働きません。

絞り・ゲイン（P69）

● 絞り値が「OPEN」にならないと、ゲイン値は調整できません。
● ゲイン値を上げると、
 - 画面にノイズが増えます。
 - テープ撮影モード時は、プログレッシブ機能が使えなくなります。
● ズーム倍率によっては、表示されない絞り値（F 値）があります。
● カラーナイトビュー使用時、AE 設定時には調整できません。

ワイド / プロシネマ（P73）

● カードへの記録時には使えません。
● ワイド / プロシネマモードは、以下の機能と同時に使えません。
 - プログレッシブ機能
 - シネマモード
● プロシネマモードは、以下の機能と同時に使えません。
 - デジタル機能
 - カラーナイトビュー
●「プロシネマ」設定時は、自動的に「ドウガモード」は「フレーム」に、「バスエンハンサー」は「6dB」になります。
● 4:3 のテレビをお使いの場合は、ワイド / プロシネマモードを使わないことをおすすめします。（画面が縦伸びの映像になります）

クイックスタート（P74）

● テープ撮影モードで本機にテープもカードも入っていないとき、またはカード記録モードで本機にカードが入っていないときは、クイックスタートモードに設定できません。
● モードダイヤルを切り換えたりバッテリーを取り外すと、クイックスタートボタンが消灯し、クイックスタートモードは解除されますが、再度電源を入れてテープ撮影 / カード記録モードにすると、ボタンが点灯し再設定されます。
● 白バランスがオートモードの状態でクイックスタートすると、最後に撮影した場面と光源が違う場合、白バランスが自動で調整されるまでに時間がかかることがあります。（ただし、カラーナイトビュー使用時は、最後に撮影したときの白バランスが保持されます）
● 待機状態から電源を入れると、ズーム倍率は約 1 倍の位置になり、待機する前と比べて画像の大きさが変わります。
● クイックスタートの待機状態では、通常撮影時の約半分の電力を消費していますので、クイックスタートを使うと撮影できる時間が短くなります。

映像を静止させる（P74）

● なめらかカラーナイトビューボタンまたはモードダイヤルを操作すると、静止画は解除されます。
● 外部入力 /DV 入力時は、静止画ボタンは働きません。

フェード（P75）

● フォトショット中、静止画中、マルチで 9 画面を表示しているときは、映像のフェードはできません。

美肌モード（P75）

● 背景などに肌色に近い色をした箇所があると、その部分も同時になめらかになります。
● 明るさが不十分なときは、効果がわかりにくい場合があります。

テレマクロ機能（P75）

- ピントが合いにくいときは、マニュアルで調整してください。（P69）
- 撮影中は、テレマクロボタンを押しても切り換わりません。
- ズーム倍率を 12 倍未満にすると、自動的に解除されます。
- 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作すると解除されます。

フラッシュ（P76）

- フラッシュを「切」にしていても、周囲の明るさを感知し、フラッシュの発光が必要かどうかを自動判別します。（フラッシュを必要と判断したときは、「⚡̸」が黄色で点灯します）
- 「⚡」（「⚡ +」、「⚡ −」）、「⚡ A」（「⚡ A +」、「⚡ A −」）が点灯すると発光します。点滅中または無表示の場合は、フラッシュは発光しません。
- 「⚡」などが点灯時に、子画面にしたときやタイトル作成時はフラッシュが発光します。
- フラッシュの使用可能範囲（めやす）は、暗い部屋で約 1 m ～ 2.5 m です。2.5 m 以上では暗く映ったり、画面が赤っぽくなる場合があります。
  「フラッシュ」が「オート」のとき、シャッター速度や絞り / ゲインを調整すると、「⚡」などの表示が消え、フラッシュが発光しない場合があります。
- フラッシュを発光させると、1/750 以上のシャッター速度は、1/500 に固定されます。
- 暗いところではピントが合わない場合がありますので、マニュアルでピント（フォーカス）を合わせてください。（P69）
- 白っぽい背景の前でフラッシュを発光させると、被写体が暗く映る場合があります。
- コンバージョンレンズを付けていると、フラッシュの光をさえぎるため影が現れ、暗く（ケラレ）なる場合があります。
- フィルターキット /VW-LF43W（別売）の ND フィルターを取り付けた状態で使用しないでください。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では、「フラッシュ」を「切」に設定しておいてください。
- フラッシュがポップアップした状態で持ち運ばないでください。
- オールウェザーパック /VW-SPGS400（別売）、またはスノー&レインジャケット /VW-SJGS400（別売）を使用される場合は、フラッシュを閉じた状態で「切」に設定しておいてください。
- フラッシュ発光部を手などでふさがないでください。
- 以下の場合、フラッシュは発光しません。
  - テープ撮影中
  - デモモード中
  - マルチモード画面取り込み中
  - 連写カードショット
  - カラーナイトビュー使用時
  - オールウェザーパック接続中
  - カラーバーの表示中

■ ビデオフラッシュ /VW-FLHDJ3（別売）を使うと

- 2.5 m 以上でも、暗い場所でのフォトショットや静止画撮影ができます。使用可能範囲（めやす）は約 1 m ～ 4 m です。
- フラッシュが発光する状態になると、「⚡」が本機の画面に点灯します。
- 内蔵フラッシュと同時に使用できません。
- フラッシュの明るさは調整できません。
- シャッター速度、絞り / ゲイン、白バランスは固定になります。
- 屋外や逆光などの明るいところでフラッシュを使用すると、映像が白とび（色とび）する場合がありますので、この場合フラッシュを使用せずに、マニュアルで絞りを調整するか、逆光補正機能をお使いください。
- ビデオフラッシュの説明書もよくお読みください。

より詳しく（つづき）

逆光補正（P77）

- 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作すると解除されます。
- 絞り / ゲイン設定時には働きません。

なめらかカラーナイトビュー（P77）

- カード記録モードでは使えません。
- 画像サイズを「640 × 480」以外に設定していると、静止画を記録できません。
- 以下の機能は使えません。
  - AE 設定
  - デジタル機能
  - フラッシュ
  - フレーム動画
  - プログレッシブ機能
- 美肌モード、逆光補正、白バランスの設定は変更できません。
- シャッター速度、絞り / ゲインは自動で調整されます。
- 明るい場所で設定すると、しばらくの間画面が白くなることがあります。
- カラーナイトビューは、CCD の信号蓄積時間を最大で通常の約 16 倍にすることにより、通常では見えない暗い場面もカラーで明るく映し出すことができる機能です。このため、通常では見えない微小な輝点が見えることがありますが、異常ではありません。

マルチモード撮影（P78）

- 「タイメンモード」を「ミラー」に設定しているときは、画面の右上から画像が表示されます。（記録は通常と同じ左上からです）
- マルチ画面は画質が少し悪くなります。
- マニュアルマルチモード時にマルチ / 子画面ボタンを 1 秒以上押すと、最後に取り込んだ画面が消去されます。さらに押し続けると、連続して消去されます。（一度消去した画像は再表示できません）

子画面機能（P79）

- 子画面は電源を切ると消去されます。
- タイトル（P83）付きで子画面にすることはできません。
- 撮影した画像にある子画面の消去、移動はできません。

ワイプ / ミックス（撮影）（P79）

- 「ワイプ」、「ミックス」メモリー時に以下の操作をすると、メモリー画像が消えて、ワイプ、ミックスはできなくなります。
  - デジタル機能 / 効果などを別の項目に設定し直す
  - 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作する
  - カセットを出し入れする

AE 設定（P80）

- カラーナイトビューを使うと、AE 設定は「切」になります。
- AE 設定時にシャッター速度、絞り / ゲインは調整できません。

＜スポーツモード＞

- 撮ったものをスロー再生や静止画再生したときに、ぶれの少ない映像になります。
- 通常の再生では、画面の変わりかたがなめらかには見えません。
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明は避けてください。色合いや画面の明るさが変わることがあります。
- 明るく光っているものや反射の強いものは、縦方向に光の帯が出ることがあります。
- 明るさが足りない場合はスポーツモードが働きません。このときは、「 」が点滅します。
- 屋内で使うと画面がちらつくことがあります。

< ポートレートモード >
- 屋内で使うと画面がちらつくことがあります。このときは AE 設定を「切」にしてお使いください。

< ローライトモード >
- 極端に暗い場面ではきれいに撮れないことがあります。

< スポットライトモード >
- 撮りたいものが極端に明るい場合、映像が白っぽくなることがあります。また、周囲が極端に暗くなることがあります。

< サーフ&スノーモード >
- 撮りたいものが極端に明るい場合、映像が白っぽくなることがあります。

AE ロック（P80）

- AE ロック設定後、モードダイヤルを操作すると、設定値が変わる場合があります。再度設定し直してください。
- シャッター速度は、1/750 以上に設定した状態でフラッシュを発光させて撮影すると、1/500 に固定されます。
- カラーナイトビューは使えません。

白バランス（P81）

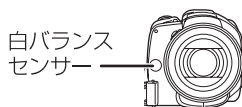
- レンズキャップを付けたまま電源を入れると、オートホワイトバランスが正しく合わないことがあります。必ず外してから電源を入れてください。
- 白バランスと絞り / ゲインの両方を設定するときは、白バランスを設定したあとに、絞り・ゲインを設定してください。
- 撮影条件が変わった場合は、正確に合わせるために毎回設定し直してください。
- 以下の場合、白バランスモードを変えることはできません。
  - ズームが約 12 倍以上のとき
  - カード記録モード時にシャッタースピードが 1/15 以下のとき
  - デジタル効果の「セピア」、「モノトーン」使用時
  - カラーナイトビュー使用時
  - 静止画時
  - メニュー表示中

■「▣」表示の点滅について

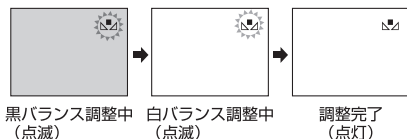
セットモードを選んだとき
- 以前にセットモードで設定した内容が保持されていることを示しています。（再度設定するまで、その内容を記憶しています）

セットモードで設定できないとき
- 暗いところなどでは、セットモードでの設定がうまくできないことがあります。このときは、オートモードで撮ってください。

セットモードで設定中のとき
- セットモードで設定中は、「▣」表示が点滅します。設定が完了したら、「▣」表示が点灯に変わります。

■ 白バランスセンサーについて

- 撮影時に白バランスセンサーの前を手などでふさがないでください。白バランスが正常に働きません。

■ 黒バランスについて

- 3CCD システムの機能の 1 つで、白バランスをセットモードで設定したとき自動的に黒の状態も合わせます。黒バランス調整時には、画面が一瞬黒くなります。

セルフタイマー（P81）

- 電源スイッチ、モードダイヤルまたは撮影開始 / 一時停止ボタンを操作すると、セルフタイマーは解除されます。(クイックスタートモード時以外)
- 連写カードショットを設定時は、最大記録枚数まで連続記録します。

連写カードショット（P82）

- ボタンから指を離しても、1 コマ多く撮れることがあります。
- フラッシュは発光しません。
- 画像サイズを「640 × 480」以外に設定していると使えません。
- セルフタイマー設定時は、最大記録枚数まで連続記録します。
- 連続撮影を「入」にすると、タイトルの表示は消えます。
- カードによっては連続記録の間隔が遅くなる場合がありますので、当社製 SD メモリーカードをお使いになることをおすすめします。
- 他機でフォーマットしたカードや、記録や消去を繰り返したカードでは、連写の間隔が遅くなることがあります。その場合は、大切なデータをパソコンなどに保存して、本機でフォーマットしてください。

タイトル作成（P82）

- ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカス（P69）でピントを合わせてから、タイトルを作成してください。
- タイトルにするものは、コントラストのはっきりしたものや光を反射しないものが適しています。
- 「1 つまえに戻る」を選ぶと、1 つ前の画面が表示されます。
- 「抜き具合」を調整しても、タイトルにしたいものの明度差が少ないと、きれいに抜けないことがあります。
- 細かいものをタイトルにすると、きれいに作成できないことがあります。
- 画像サイズを「640 × 480」以外に設定しているとタイトルは作れません。
- タイトルを作成すると、記録可能枚数が少なくなります。
- 記録可能枚数が残り少ない場合、タイトルが記録できないことがあります。
- 本機以外のビデオカメラまたはマルチメディアカード用タイトル作成ソフト VW-SWMT1（別売）などで作られたフルカラータイトル (JPEG) は、本機では再生またはタイトルインできません。
- 本機ではフルカラータイトルは作れません。

タイトルイン（P83）

- 「640 × 480」以外の画像サイズを持つタイトルを表示させせることはできません。
- 画像サイズを「640 × 480」以外に設定していると、タイトルを表示させることはできません。「640 × 480」に設定してください。
- 連写カードショットを設定すると、タイトルを表示させせることはできません。
- 再生モードでタイトルを表示していても、DV 端子からタイトルは出力されません。
- タイトルをマルチ画面で表示中は、記録や再生はできません。
- 外部入力、DV 入力中はタイトルインやタイトルのマルチ画面表示はできません。入力映像にタイトルを入れて記録する場合は、接続前にあらかじめお好みのタイトルを表示しておいてください。

頭出し（シーンサーチ）（P84）

- テープの始端では正しく働かないことがあります。
- インデックスとインデックスの間隔が 1 分以内の場合は、正しく働かないことがあります。

スロー再生（P85）

- 逆スロー再生時にタイムコード表示が一定にならない場合があります。
- 子画面静止画やマルチモードで撮影した映像をスロー再生すると、画面が縦揺れすることがあります。

静止画再生 / コマ送り再生（P85）

- 静止画再生中にスロー / コマ送りボタンを押し続けると、連続コマ送り再生になります。

可変速サーチ（P86）

- 画面がモザイク状になる場合があります。
- 音声は出ません。
- リピート再生中はできません。

再生ズーム（P86）

- 再生ズーム中でも、DV 端子からは元のテープ内容が出力されます。（P93）
- 拡大するほど画質が悪くなります。
- 電源スイッチまたはモードダイヤルを操作すると、再生ズームは解除されます。
- 再生ズーム中は、ワイヤレスリモコンで可変速サーチ速度、音量を変更できません。

再生映像効果（P87）

- 「デジタル設定」メニューの「コウカセンタク」で映像効果を選ぶことができます。
- 「デジタル設定」メニューの「エイゾウコウカ」を「切」にすると、効果を解除できます。
- 映像効果は DV 端子から出力される映像には入りません。（P93）

ワイプ / ミックス（再生）（P87）

- ワイプ / ミックス効果中にリモコンの「切 / 入」ボタンを押すと、効果を途中で止められます。再度押すと効果が続きます。
- 無記録部分（ブルーバック画面）からのワイプ / ミックスはできません。

ロック設定（P88）

- ロックされたファイルは、消去しようとしても「消去できません」と表示され、消去できません。
- ファイルをロックしていても、フォーマット（P54）した場合は消去されます。（データの書き込み、消去、フォーマットをできなくするには、SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしてください）

ファイル消去（P88）

- 記録時に「カード残量がありません」と表示されたときは、カード静止画再生モードにして、不要なファイルを消去してください。
- それでも消去するファイルがないときは、ファイルやタイトルで容量がいっぱいですので、新しいカードを入れてください。
- DCF 規格に準拠したファイルを削除するとそのファイルに関連するデータはすべて削除されます。

■ 他の機器でカードに記録された静止画のファイルを消去する場合

- 本機で再生できない静止画のファイル (JPEG 以外のファイル) でも消去される場合があります。

DPOF 設定（P89）

- 他機で DPOF 設定すると、本機では認識しないことがあります。DPOF 設定は本機で行ってください。
- DPOF 設定された画像の確認に時間がかかる場合があります。カード動作中ランプが消灯するまでお待ちください。

■ DPOF とは

- Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット）の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるように、カードのメモリー画像にプリント情報などを付加できるようにしたものです。

プリンターに直接つないでプリントする（PictBridge（ピクトブリッジ））（P90）

- 用紙サイズや印字品質などプリンターの設定を確認してください。
- 本機で再生できない画像はプリントできません。
- テープ撮影 / 再生モード時に本機とプリンターを接続すると、画面に［WEB 🎥］または［WEB ▶］表示が出ることがありますが、画像のプリントはできません。

アフレコ（P91）

- 無記録部分にアフレコはできません。
- アフレコ中に無記録部分があると、その部分を再生したときに、映像や音声が乱れます。
- ＤＶ端子からの音声をアフレコすることはできません。

■ 音声を聞きながらアフレコするには

- アフレコ一時停止時に「ステレオ 2」に設定すると、音声を確認できます。マイク入力時は、ヘッドホンを使うと、音声を聞きながらアフレコできます。（ヘッドホンを使う場合、「AV 入出力設定」メニューの「AV タンシ」を「AV 出力/ヘッドホン」に設定してください）外部入力時は、スピーカーで音声を聞きながらアフレコできます。

■ カウンターメモリー機能を使ってアフレコの編集をするには

- 「ヒョウジ設定」メニューの「カウンタモード」を「カウンタメモリ」（P42）に設定し、アフレコを終わりたいところでカウンターをリセットしておいてから、開始位置まで巻き戻してアフレコを始めると、リセットした位置で自動的にテープが停止します。

■ マイク接続には以下の接続コード（別売）を使用します

- 大型ステレオプラグのヘッドホン端子の場合：ミニ録音コード S/RP-CA6A
- ピンプラグ- 2 の出力端子の場合：大型・ミニラインコード S/RP-CA59A
- ミニステレオプラグのヘッドホン端子の場合：ミニ・ミニ録音コード S/RP-CA2A

外部機器からの記録（P92）

- 録画中はコードを抜き差ししないでください。正常に録画できないことがあります。
- お使いのテレビやビデオ機器の説明書もよくお読みください。
- 「キロク設定」メニューの「音声キロク」で、記録する音声モード（「12bit」または「16bit」）を設定してください。
- 主音声、副音声の入った映像（2 カ国語の映像など）をダビングしたときは、再生時に「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」で聞きたい音声を選んでください。（P48）
- 著作権保護の信号（コピーガード）が入っている映像を録画すると、テープへの録画時は「コピーガードがありただしく録画できません」とメッセージが出て、再生時に映像がモザイクになります。
- 本機は S1/S2 映像信号に対応していますが、ワイド映像を本機で再生すると、液晶モニターやファインダーの映像は縦のびになります。
- 録画中に外部機器側で早送り再生やスロー再生などを行うと、再生時に映像がモザイクになることがあります。
- テレビなどの外部機器から映像を記録する場合、テレビの電波が弱い場面や画面にノイズが入っているときにその映像を記録すると、映像が乱れたり再生できないことがあります。
- S 映像コード（別売）と映像 / 音声コード（付属）を両方接続している場合、S 映像が優先して入力されます。
- AV 入出力端子、S2(S1) 映像入出力端子のどちらか一方に映像信号を入力している場合、残りの端子から同じ映像信号を出力することはできません。
- アナログ入力映像をテープに録画している間は、フォトショットはできません。
- 外部入力からカードに記録される静止画のサイズは、「640 × 480」になります。（メガピクセル静止画記録ではありません）
- カードに静止画を記録する場合、音声は記録できません。
- モニター出力端子のないテレビからは録画できません。

デジタルダビング（P93）

- ダビング中に DV ケーブルを抜き差ししないでください。正常に動作しないことがあります。
- 主音声、副音声の入った映像（2 カ国語の映像など）をダビングしたときは、再生時に「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」で聞きたい音声を選んでください。（P48）
- DV 端子または IEEE1394 端子を持った機器でも、デジタルダビングできない場合があります。詳しくは接続される機器の説明書をお読みください。
- 録画機側のメニューの設定に関係なく、再生テープの「音声キロク」モードと同じモードでダビングされます。
- 録画機側のモニター映像（液晶モニターやファインダー、テレビに映した映像）の画面下部がゆがんだり、上下に揺れることがありますが、異常ではありません。実際に記録される映像には影響ありません。
- 再生機側または録画機側でタイトルを入れても、ダビングされるのは元のテープ内容です。
- 著作権保護の信号（コピーガード）が入っている映像を本機で録画すると、再生時に映像がモザイクになります。

WEB カメラとして使う（P94）

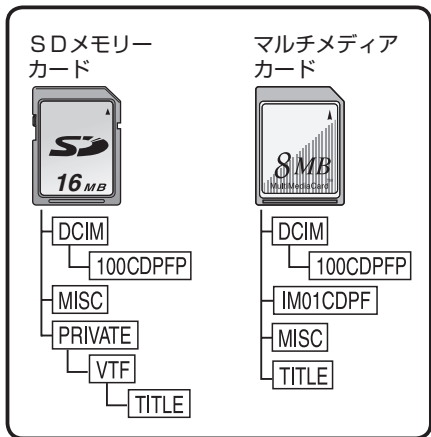
- DV 端子から入力される映像をパソコンに映すことはできません。

パソコンで使う（P94）

- パソコンと USB 接続していると、カードに記録することや、タイトルを表示させることはできません。

カード内のデータについて（P94）

- USB 接続すると、CD-ROM（付属）内のソフトウェアなどでカードのデータを編集できます。この場合、静止画は「100CDPFP」フォルダーに入れてください。また、メガピクセル画像をタイトルにすることはできません。
- 本機で記録した画像データなどは、パソコン上で削除せず、本機で削除するようにしてください。
- 本機は記録時にファイル名（IMGA 0001.JPG など）を自動的に記録します。
- 日付などの表示情報については、接続機器側ソフトウェアに表示機能がない場合、表示されません。また、ソフトウェアによっては日付、時間が正しく表示されないことがあります。
- パソコン上で本機未対応のデータを記録した場合、本機ではそのデータを認識することはできません。
- カードのデータは、PC カードアダプター /BN-SDAAP3（別売）や USB リーダーライター /BN-SDCAP3（別売）などでもパソコンに取り込むことができます。**詳しくはカタログ、ホームページなどでご確認ください。使用方法については、パソコンや各アダプターの説明書をお読みください。**

■ カードのフォルダー構造

「100CDPFP」

- 静止画がJPEG形式で記録されています。（IMGA0001.JPG など）JPEG画像対応のレタッチソフトなどで開くことができます。

「MISC」

- 静止画に設定したDPOFデータのファイルが入っています。

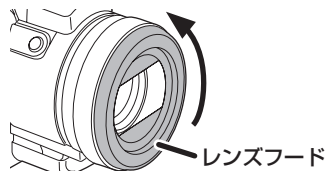
「TITLE」

- 作成したタイトル（USR00001.TTL など）のファイルが入っています。

レンズフード

- フィルターキット /VW-LF43W（別売）の ND フィルターや MC プロテクターは、レンズフードの前部に取り付けてください。また、それ以外のものは取り付けないでください。
- テレコンバージョンレンズ /VW-LT4314N（別売）やワイドコンバージョンレンズ /VW-LW4307M（別売）は、レンズフードを外してから取り付けてください。
- ND フィルターとテレコンバージョンレンズなどを 2 枚重ねて取り付けた場合、ズームを W 側にすると、四隅が暗くなる場合があります。（ケラレ）

■ 付けかた・外しかた

- 反時計方向に回して外す。

- 付けるときは、レンズフードの凸部をはめ込んでから、時計方向に回す。

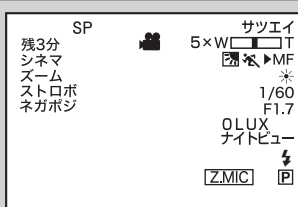
より詳しく

画面の表示

基本表示

(バッテリー表示)	バッテリー残量表示
0:00.00 M 0:00.00 0h00m00s00f	カウンタ カウンタメモリ タイムコード
12：30：45 2004.　8. 1	時刻、年月日

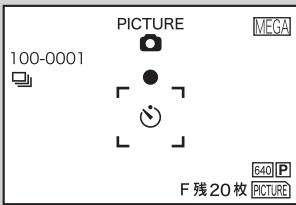
撮影表示

残 3 分	テープ残量表示
SP LP	標準モード 長時間モード
サツエイ	撮影中
テイシ	撮影の一時停止中
チェック	撮影の確認中
INDEX	インデックス表示
ワイド	ワイドモード
プロシネマ	プロシネマモード
シネマ	シネマモード
ズーム	デジタルズーム
フルオート	フルオートモード
MNL	マニュアルモード
MF	マニュアルフォーカス
MZ	マニュアルズーム
2 ×	ズーム倍率表示
(逆光補正表示)	逆光補正
(手ぶれ補正表示)	手ぶれ補正
1/60	シャッター速度
F1.7	絞り値
6dB	ゲイン値
AEロック	AE ロック
ビハダ	美肌モード

テレマクロ	テレマクロ機能
フレーム	フレーム動画
なめらか ナイトビュー / 0LUX ナイトビュー	なめらかカラーナイトビュー / 0 Lux カラーナイトビュー
(フラッシュ表示)、(+、 –) A（A+、A –）	フラッシュ
(赤目軽減表示)	赤目軽減
ゼブラ	ゼブラパターン
P-ADJ	画質調整
Z.MIC	ズームマイク
(マイク表示)	フリースタイルリモコンのマイク使用時
(外部マイク表示)	ホットシュー対応外部マイク
ローカット	ホットシュー対応外部マイク（ローカット）
マルチ / コガメン / ワイプ / ミックス / ストロボ / キセキ / モザイク / ミラー / ストレッチ / スリム	デジタル機能
ネガポジ / セピア / モノトーン / アート	デジタル効果
(各モード表示)	スポーツモード ポートレートモード ローライトモード スポットライトモード サーフ&スノーモード
(各モード表示)	屋内（白熱電球）モード 屋外モード 蛍光灯モード セットモード

再生表示

S 1	シーンサーチ番号
●	録画中
▷	再生中
▮▮	静止画再生中
▷▷	早送り / 早送り再生中
◁◁	巻戻し / 巻戻し再生中
▮▷/◁▮	スロー / 逆スロー再生中
▮▮▷/◁▮▮	正 / 逆方向コマ送り中
▷▷▏/▕◁◁	正 / 逆方向頭出し中
2 × ▷▷	可変速サーチ中
R ▷	リピート再生
WEB 🎥 WEB ▶	WEB カメラモード
アフレコ ▷	アフレコ中
アフレコ ▮▮	アフレコ一時停止中
ブランク	ブランクサーチ中
マイク	マイク入力（アフレコ時）
ライン	外部入力（アフレコ時）
12bit、16bit	音声記録モード
ズーム 2 ×	再生ズーム
音量	音量表示

〜〜

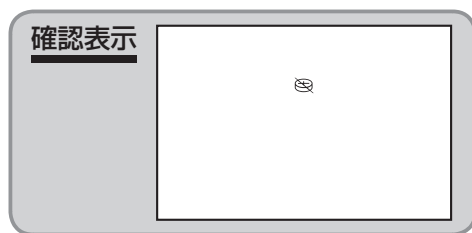
カード表示

P	プログレッシブ
○（白）、●（緑）	シャッターチャンスマーク
連写アイコン	連写カードショット
セルフタイマーアイコン	セルフタイマー
MEGA	MEGA OIS
PICTURE（青） PICTURE（赤） PICTURE（赤） PICTURE（緑）	フォトショットモード フォトショット中 認識できないカードを使用 アクセス中 （記録操作不可）
F、N、E	静止画の画質
残 20 枚	静止画の残り記録可能枚数（残り 0 枚で赤色点滅となります）
スライド ▷	スライドショー実行中
スライド ▮▮	スライドショー一時停止中
PICTURE	静止画
TITLE	タイトル画像
PRINT	PictBridge 対応プリンター接続時
100-0001	フォルダー / ファイル名表示
No.00	データ番号
00 枚	DPOF 設定枚数
○（白）	DPOF 設定済み（1 枚以上に設定）
鍵アイコン	ロック設定済み

より詳しく

カード表示
（つづき）

640 1280 1600 2288	静止画の画像サイズ 640 × 480 1280 × 960 1600 × 1200 2288 × 1728
QXGA UXGA SXGA XGA SVGA 640	2048 以上のとき 1600 以上 2048 未満のとき 1280 以上 1600 未満のとき 1024 以上 1280 未満のとき 800 以上 1024 未満のとき 640 以上 800 未満のとき （640 未満のときは、サイズは表示されません）
本機で記録していない画像は、水平方向画素数によって上記のようなサイズ表示になります。また、水平方向画素数が 2288、1600、1280、640 の場合は、垂直方向画素数に関係なく 2288、1600、1280、640 が表示されます。	

〜〜

確認表示

（誤消去防止アイコン）	誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れたとき（P97）
（内蔵電池アイコン）	内蔵日付用電池が消耗したとき（P21）

（バッテリーアイコン）	バッテリー容量がなくなりました。十分に充電したバッテリーと交換してください。（P18）
カセットなし	カセットが入っていないとき
カードなし	カードが入っていないとき
リモコン	リモコンの設定が合っていないとき（P33）
テープおわり	撮影中にテープが終端になったとき
ヘッドよごれ	ヘッドが汚れているとき（P61）

文章表示

バッテリーを
取りかえてください

「💧 つゆつき・この表示が消えるまでおまちください」 「💧 つゆつき・カセットを取りだしてください」	つゆつきが起こっています。カセットを取り出してしばらくお待ちください。カセットホルダーが開くまでしばらく時間がかかりますが、故障ではありません。（P62 ～ 63）
「バッテリーを取りかえてください」	バッテリー容量がなくなりました。十分に充電したバッテリーと交換してください。（P18）
「カセットを入れてください」	カセットが入っていません。（P22）
「カセットを取りかえてください」	テープに撮影中にテープの終端になりました。
「このカセットでは撮影できません」	誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れて、撮影操作をしています。（P97）
「このカセットでは録画できません」	誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れて、アフレコや録画（デジタルダビング）操作をしています。（P97）
「リモコンのセッテイをカクニンしてください」	リモコンの設定が合っていません。電源を入れて、最初のリモコン操作時のみ表示されます。（P33）
「再生できません」	再生不能のテープかカードです。またはヘッドが汚れています。（P61）
「このカセットは使えません」	未対応のカセットです。
「LP 記録部のため録音できません」	LP モードで記録したテープにアフレコ操作をしています。（P91）
「コピーガードがありただしく録画できません」	著作権保護の信号（コピーガード）が入っている映像を録画しています。（P110）
「ビデオカメラでフォーマットしてください」	他機でフォーマットしたカードに静止画を記録しようとしています。または未対応のカードあるいは本機で認識できないカードです。フォーマットしてください。（P54）

文章表示
（つづき）

カードを
　入れてください

「カードを入れてください」	カードが入っていません。（P23）
「セイシガ記録はできません」	以下のときにフォトショットボタンを押した場合 ● デジタル機能を「マルチ」にしてテープに撮影中 ● タイトルを表示してテープに撮影中
「カード残量がありません」	カードの容量がありません。画像ファイルなどを消去するか、新しいカードを入れてください。
「セイシガデータがありません」	カードに静止画が記録されていません。データが記録されているのにこの表示が出る場合は、カードの状態が不安定になっていることが考えられます。一度電源を入れ直してください。
「タイトルがありません」	タイトル画像が記録されていません。（P82）
「タイトルは表示できません」	連写カードショット設定時にリモコンのタイトルインボタンを押しています。
「ワイド画像は記録できません」	S1 信号（16：9）の映像をフォトショットしています。（P60）
「消去できません」	ロック設定されているファイルに消去操作をしています。（P88）
「カードがロックされています」	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。（P98）
「クリーニングテープをかけてください」	ヘッドが汚れています。クリーニングテープをかけてください。（P61）
「ガゾウサイズを 640 にヘンコウしてください」	カード設定の「ガゾウサイズ」を 640 × 480 以外にしていると、静止画を記録できない機能です。（P39、52）

「RESETボタンをおしてください」	本機が自動的に異常を検出しました。カセットを取り出してから、RESET ボタンを押して本機を再起動させてください。(P124)
「USB はつかえません モードをかえてください」	カード記録モードで USB 接続ケーブルをつないでいます。
「USB ケーブルセツゾク中のためソウサはできません」	USB 接続ケーブルをつないだ状態で、テープ / カードに記録しようとしているか、リモコンのタイトルインボタンを押しています。
「モードきりかえ時は USB ケーブルをぬいてください」	USB 接続ケーブルをつないだ状態で、PC 接続モードから他のモードに切り換えています。
「プリンタをカクニンしてください」 「インクがありません」 「ヨウシがありません」	接続しているプリンターを確認してください。
「フォーマットできません」	故障したカードをフォーマットしようとしています。
「コピーガードがありただしく再生できません」	コピーガードがかかった映像を再生しようとしています。
「パソコンが USB2.0 にタイオウしていません」	USB2.0 に対応していないパソコンに接続しています。(P95)
「DV ケーブルセツゾク中のため USB はつかえません」	DV 接続ケーブルを接続中に、USB 接続ケーブルを接続しています。
「AE ロックをカイジョしてください」	フルオート / マニュアル切換えスイッチを AE ロックにしているときに、なめらかカラーナイトビューボタンを押しています。
「ワイド・プロシネマモードのため記録できません」	テープ撮影モードでワイド / プロシネマ設定時に、フォトショットボタンを押しています。

電源 / 本体関係

こんなときは？	ご確認ください
電源が入らない	●バッテリーは十分に充電されていますか？ → 十分に充電されたバッテリーをお使いください。（P18 ～ 19） ●バッテリーの保護回路が動作している可能性があります。バッテリーを AC アダプターに 5 ～ 10 秒取り付けてみてください。（P18） それでも使用できない場合は、バッテリーの故障です。
電源が勝手に切れる	●本機を約 5 分間記録操作しないと、テープ保護とバッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる場合があります。再び撮るときは、電源スイッチを「切」にしてから、再度「入」にしてください。（P26）
電源が入ってもすぐに切れる	●バッテリーが消耗していませんか？ → バッテリー残量表示が点滅していたり、「バッテリーを取りかえてください」のメッセージが出ている場合は、バッテリーが消耗しています。バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを付けてください。（P18） ●つゆつきになっていませんか？ → 寒いところから暖かいところにビデオカメラを持ち込んだときなどは、内部につゆつきが発生することがあります。この場合は自動的に電源が切れ、カセット取り出し以外の操作はできなくなります。つゆつき表示が消えるまでお待ちください。（P62 ～ 63）
バッテリーの消耗が早い	●十分に充電されていますか？ → AC アダプターで充電してください。（P18） ●低い温度のところで使っていませんか？ → バッテリーは、周囲の温度の影響を受けます。低い温度のところでは、使用できる時間が短くなります。 ●バッテリーが寿命になっていませんか？ → バッテリーには寿命があります。寿命は使いかたによって変わりますが、十分に充電しても使用できる時間が短いときは、バッテリーの寿命です。
電源が入っているのに何も操作できない 正常に動作しない	●DPOF 設定内容の確認中ではないですか？ → 設定内容の確認は時間がかかる場合があります。「カード動作中ランプ」が消灯するまでお待ちください。 ●カセットを取り出してから、RESET ボタンを押してください。（P124）それでも直らない場合は、電源を外して 1 分程度たってから再度電源を入れ直してください。（「カード動作中ランプ」が点灯中に上記の操作を行うと、カードのデータが破壊されることがあります）

こんなときは？	ご確認ください
カセットの取り出しができない	●電源スイッチは「入」になっていますか？（P20） → バッテリーやACアダプターは正しく接続されていますか？（P19） ●放電したバッテリーを使用していませんか？ → バッテリーを充電してから取り出してください。 ●カセットカバーを一度完全に閉じてから、再度最後まで開いてください。（P22）
カセットの取り出し操作以外何も操作できない	●つゆつきになっていませんか？ → つゆつき表示が消えるまでお待ちください。（P62 ～ 63）
ワイヤレスリモコンが働かない	●リモコンのコイン電池が消耗していませんか？ → 新しいコイン電池と交換してください。（P32） ●リモコンの設定は合っていますか？ → リモコンと本機の「リモコン」設定が合っていないと、操作しても動作しません。（P33）

撮影関係

こんなときは？	ご確認ください
電源、カセットを正しく入れているのに撮影できない	●カセットの誤消去防止つまみが開いていませんか？ → 誤消去防止つまみが開いている（[SAVE]側になっている）と撮影できません。（P97） ●カセットがテープ終端（テープの一番最後）になっていませんか？ → 新しいカセットに交換してください。 ●テープ撮影モードにしていますか？ → テープ再生モードになっているときは撮影できません。（P20） ●つゆつきになっていませんか？ → つゆつき時は、カセット取り出し以外の操作はできなくなります。つゆつき表示が消えるまでお待ちください。（P62 ～ 63）
撮影の途中で、「このカセットは使えません」や「カセットカバーをとじてください」と表示され、撮影できない	●カセットカバーが開いていませんか？ → カセットカバーが開いていると、本機が正しく動作しないことがあります。カセットカバーを閉じてお使いください。（P22）
画面が急に変わった	●デモが始まったのではないですか？ → テープ撮影モードで、カセットもカードも入れずに「デモモード」を「入」に設定すると、デモが始まります。通常は「切」にしてお使いください。（P47）

こんなときは？	ご確認ください
映像が止まったままになっている	●静止画ボタンを押しませんでしたか？ → 静止画ボタンを押すと、撮っている映像が静止画になります。もう一度静止画ボタンを押すと元に戻ります。（P74） ●マルチ / 子画面ボタンを押しませんでしたか？ → 押すと、マルチ画面または子画面表示になります。マルチ画面表示または子画面表示時にもう一度ポンと押すと、元に戻ります。（P78 ～ 79）
カセットが入らない	●つゆつきになっていませんか？ → つゆつき表示が消えるまでお待ちください。（P62 ～ 63）
自動でピントが合わない	●マニュアルフォーカスになっていませんか？ → オートフォーカスにすると自動でピントが合います。 ●オートフォーカスでピントが合いにくい場面を撮影していませんか？ → オートフォーカスでは、ピントの合いにくい場面があります。（P127）この場合はマニュアルフォーカスで手動でピントを合わすことができます。（P69） ●カラーナイトビュー機能を設定していませんか？ → カラーナイトビュー機能を働かせていると、フォーカスはマニュアルになります。
撮影映像が白黒やコマ送りなどになっている	●デジタル機能 / 効果を使って撮影していませんか？ → 設定を確認してください。（P78）

表示関係

こんなときは？	ご確認ください
画面中央に赤または黄色の文字で文章表示が出る	●内容を確認し、対応してください。（P115 ～ 117）
タイムコード表示がおかしくなる	●逆スロー再生をすると、タイムコード表示のカウントが一定にならないことがありますが、故障ではありません。
テープ残量表示が消える	●コマ送り、マルチモード画面表示（ストロボ）などをすると、一時的にテープ残量表示が消える場合があります。通常の撮影や再生を続けると元に戻ります。
テープ残量表示が実際のテープ残量と合わない	●約 15 秒以下の連続撮影では、残量表示が正確に出ません。 ●実際のテープ残量より約 2 ～ 3 分少ない表示が出る場合があります。
機能表示（モード表示、残量表示、カウンター表示など）が出ない	●「ヒョウジ設定」メニューの「ヒョウジモード」が「切」になっていると、液晶モニターやファインダーのテープ走行状態、警告、日付表示など以外は消えます。

再生関係（音声）

こんなときは？	ご確認ください
本機のスピーカーから再生音声が出ない	●音量調整が小さくなりすぎていませんか？ → 再生時にズームレバーを押して音量表示を出し、音量を調整することができます。（P84）
音声が重なって聞こえる	●「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」を「ミックス」に設定していませんか？ →「音声キロク」モードを「12bit」にして撮影したテープにアフレコ編集すると、撮影時の音声とあとから録音した音声を同時に重ねて聞くことができます。それぞれを別々に聞く場合は「ステレオ 1」か「ステレオ 2」にしてください。（P40、48） ●「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」を「ステレオ」に設定して、主音声、副音声の入った映像を再生していませんか？ → 主音声を聞くときは「L」、副音声を聞くときは「R」に設定してください。（P48）
アフレコができない	●カセットの誤消去防止つまみが開いていませんか？ → 誤消去防止つまみが開いている（[SAVE] 側になっている）とアフレコできません。 ●LP モードで撮影した部分にアフレコしようとしていませんか？ → LP モードでは、テープ上のトラック幅がヘッド幅より狭いため、アフレコはできません。（P91）
アフレコすると元の音声が消えてしまった	●「16bit」モードで撮影した部分にアフレコすると、元の音声が消えてしまいます。元の音声も残したい場合は、撮影時に「12bit」モードで撮影してください。（P40）
テレビ、本機のスピーカーとも再生音が出ない	●アフレコしていないのに「ステレオ 2」にしていませんか？ → アフレコしていない場合は、「ステレオ 1」に切り換えてください。（P48） ●可変速サーチになっていませんか？ → 可変速サーチ中は音声は出ません。再生ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。（P86）
ヘッドホンの右音声に「ブー」という音が聞こえる	●メニューの「AV タンシ」が「AV 出力」になっていませんか？ → ヘッドホンを使うときは「AV 出力 / ヘッドホン」にしてください。

再生関係（映像）

こんなときは？	ご確認ください
早送り再生、巻戻し再生をすると、モザイク状のノイズが出る	● デジタル特有の現象です。異常ではありません。
早送り再生、巻戻し再生をすると、横線が出る	● シーンによっては横線が出る場合がありますが、異常ではありません。
テレビと正しく接続しているのに再生映像が出ない	● テレビの入力切換がビデオ入力になっていますか？ → テレビの説明書をよくお読みになり、接続したビデオ入力端子を選んでください。
再生映像がきれいに映らない	● 本機のヘッドが汚れていませんか？ → ヘッドが汚れていると、再生画像がきれいに映りません。デジタルビデオ用ヘッドクリーナー（別売）を使ってヘッドをクリーニングしてください。（P61） ● 映像 / 音声コードの端子部が汚れていると、画面にノイズが入ることがあります。柔らかい布で汚れをふき取ってから、AV 入出力端子に接続してください。 ● 著作権保護の信号（コピーガード）が入っている映像を録画していませんか？ → このようなカセットを本機で再生すると、映像がモザイクになります。

カード関係

こんなときは？	ご確認ください
静止画がきれいに記録されない	● 「ノーマル」や「エコノミー」にして、細かいものを記録していませんか？ → 「ノーマル」や「エコノミー」で細かいものを記録すると、画像がモザイク状になることがあります。「ファイン」にして記録してください。（P39）
カードに記録されたファイルが消去できない	● ファイルがロックされていませんか？ → ロック設定をしていると消去できません。（P88） ● SD メモリーカードの場合、書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると消去できません。（P98）

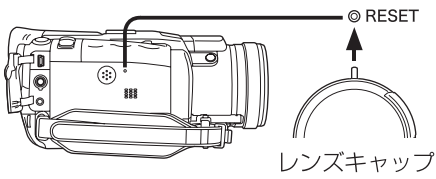
こんなときは？	ご確認ください
カードに記録していないのに「残 0 枚」と表示され、記録できない	● タイトルなどのデータが多く記録されていませんか？
カードの画像がおかしい	● データが壊れている可能性があります。データは静電気や電磁波で壊れることがあります。大切なデータは、カセットやパソコンなどにも記録するようにしてください。
カードをフォーマットしても使えるようにならない	● 本機またはカードの故障と思われます。お買い上げの販売店にご相談ください。
カード再生中に「再生できません」と表示される	● 形式の異なるデータや壊れたデータを再生しています。

その他

こんなときは？	ご確認ください
表示が消える 画面が動かなくなる 操作できなくなる	● 電源を切ってください。電源が切れないときは、RESET ボタン（P124）を押すか、バッテリー、AC アダプターを外して付け直してください。そのあと電源を入れ直してください。それでも正常に動作しない場合は、接続している電源を外し、お買い上げの販売店またはお近くの「修理ご相談窓口」（P142 ～ 143）にお問い合わせください。
USB 接続してもパソコンが認識しない	● USB ドライバーはインストールされていますか？ → 詳しくは、パソコン接続編取扱説明書（別冊）をお読みください。
USB 接続ケーブルを外したらパソコンにエラーメッセージが出る	● USB 接続ケーブルを安全に外すために、タスクトレイの アイコンをダブルクリックしてから、画面の指示に従ってください。
編集、デジタルビデオ機器からのダビング、「MotionDV STUDIO 5.1J LE for DV」の使用時に誤動作する	● 同じテープ上に SP と LP（記録モード）、12bit と 16bit（音声記録モード）、ノーマルとワイド、記録部分と無記録部分などモードが混在して記録されていると、モードが切り換わるところで誤動作することがあります。編集などをする場合、モードが混在しないように記録してください。

自己診断表示機能

本機は異常を知らせる自己診断表示機能があります。
液晶モニターまたはファインダーに表示が出ますので、異常と思われる場合は、下記を参考に対応してください。

■ 本機につゆつきが発生したとき

表示	対応
つゆつき・この表示が消えるまでおまちください つゆつき・カセットを取りだしてください	つゆつきが起こっています。カセットを取り出してつゆつき表示が消えるまでお待ちください。（P62 ～ 63）

■ 本機のヘッドが汚れたとき

表示	対応
クリーニングテープをかけてください	● デジタルビデオ用ヘッドクリーナー /AY-DVMCL（別売）または VFK1449S（別売･サービスルート扱い）でヘッドをクリーニングしてください。（P61）

■ 本機が異常動作を検出したとき

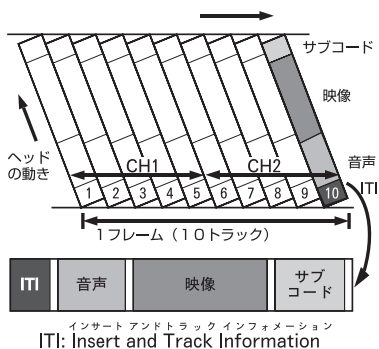
表示	対応
「RESET ボタンをおしてください」	● データ保護のためにカセットとカードを取り出してから、レンズキャップの突起部で RESET ボタンを押してください。本機が再起動します。 ● RESET ボタンを押さなかったときは、約 1 分後に自動的に電源が切れます。

● **RESET ボタンを押しても、何度も繰り返し表示されるときは修理が必要です。接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。お客様での修理はご遠慮ください。**

用語解説

デジタルビデオ

映像や音声をデジタル信号に変換し、テープに記録します。デジタル信号で記録すると画質や音質の劣化の少ない記録･再生が可能になります。

ITI: Insert and Track Information（インサート アンド トラック インフォメーション）

特長

- 高解像度、高 S/N 比
- 色のにじみが少ない（広帯域）、安定した画面
- ダビング劣化が少ない
- PCM（ピーシーエム）音声
- LP モードでも画質が劣化しない
- タイムコード編集

S-VHS（VHS）カセットとの互換性

デジタル信号を記録しているため、アナログ信号を記録している S-VHS ビデオや VHS ビデオとは互換性がありません。

出力信号

AV 入出力端子からの信号は、従来の信号と同じ信号なので、テレビやビデオで再生画を見ることができます。

入力信号

AV 入出力端子にアナログ信号（従来のテレビやビデオの信号）を入力することができます。また入力されたアナログ信号は本機でデジタル信号で録画したり、デジタル信号に変換して DV 端子から出力することができます。アナログ信号を記録したものを再生し、それを他の機器に取り込んだ場合、映像の左右に黒い帯が出る場合があります。

サブコード

デジタルビデオの記録方式は、テープ上にサブコードという領域を確保し、使用することができます。
本機では、このサブコード領域に、

- タイムコード
- 撮影時の年月日 / 時刻
- インデックス信号

などを記録しています。

タイムコード

撮影（録画）したテープ上に記録される時間データのことで、時、分、秒、フレーム（1秒は約 30 フレーム）で表されます。タイムコードは撮影と同時に記録されているので、撮影した映像のテープ上での絶対位置を知ることができます。

- 新しい（何も記録されていない）カセットを入れると、タイムコードはゼロから始まります。
- 途中まで記録されているカセットを入れると、そこから続けてタイムコードが記録されます。（カセット挿入時はゼロの表示が出ることがありますが、撮影を始めると続きの値から表示します）

ただし、テープの途中に無記録部分があると、タイムコードは再びゼロから記録され始めますので、テープをあとで編集する場合に誤動作する原因となります。
本機で撮影するときは、記録部分が途切れないように、ブランクサーチをすることをおすすめします。

- タイムコードはリセットできません。
- 通常再生時以外では、タイムコードが表示されない（または不正確になる）ことがあります。

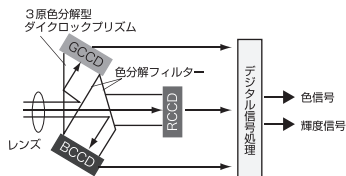
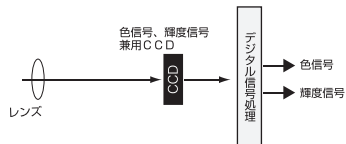
カウンター表示

撮影や再生の経過時間を表示するためのものです。
カウンター表示は、自由にリセット（カウンター表示を 0:00.00 に戻す）することができます。撮影や再生を始めた位置でリセットしておけば、その時点からの経過時間を表示することができます。しかしタイムコードのように、映像のテープ上での絶対位置を知ることはできません。

用語解説（つづき）

3CCD システム

レンズがとらえた映像を高精度に信号化するのがビデオカメラの目ともいえるCCD。本機では光の３原色、R（赤）、G（緑）、B（青）のそれぞれに、専用のCCD（固体撮像素子）を搭載していますので、より鮮やかな映像記録が可能になります。1CCDシステム（単板式）のビデオカメラは、１つのCCDから色信号と輝度信号を取り出しています。一方、本機ではR（赤）、G（緑）、B（青）それぞれ専用のCCDで信号を処理していますので、単板式のものに比べると解像度や色再現性が向上し、優れた高画質を実現しています。

● 3CCD システム

● 1CCD システム

クリスタルエンジン

RGBそれぞれの信号を美しく描き出すことで、「高画質DV動画記録」、「4.0メガピクセル静止画記録」を実現。RGB各色に次の３つの処理を独立して行います。

● 新３次元ノイズリダクション

低照度時のノイズを抑え、暗い所でも明るく、より美しく再現します。

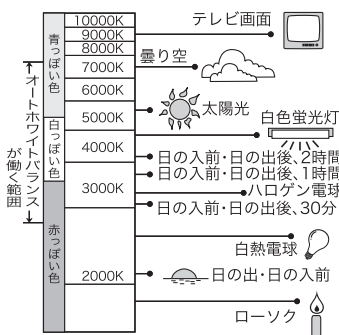
● 画素補間処理技術 AXIS

CCDの画素のすき間を補間することで、ハイコントラストで解像感のあるくっきりした映像を実現します。

● デジタル信号処理

ディテールや色を放送画質なみに忠実に再現し、白はより白く、黒はより黒く、髪の毛などの細かいものをリアルに再現します。

オートホワイトバランス

本機は数種類の光源の下での白色情報をあらかじめ記憶しています。撮影時の光源がどのようなものか、白バランスセンサーとレンズからの情報によって判断し、記憶している白バランスの中から最も近いものを選びます。この機能のことをオートホワイトバランスといいます。
しかし、数種類の光源での白色情報しか記憶していないので、それ以外の光源の下での撮影では、白バランスが正常に働きません。

オートホワイトバランスが働く範囲は、図のとおりです。範囲外での撮影では、映像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、図の範囲内にあっても、光源が複数の場合は、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合、手動で白バランスを調整してください。

白バランス（ホワイトバランス）

ビデオカメラで撮影すると、光源の影響を受け青っぽく撮れたり、赤っぽく撮れたりすることがあります。このような現象が起こらないように、白バランスという調整をします。
白バランスとは、様々な光源の下での白い色を決めることです。太陽の光の下での白い色とはどれなのか、蛍光灯の光の下での白い色とはどれなのかを認識させることによって、その他の色のバランスを調整します。
白色はすべての色（光）の基本になるので、基準となる白色を認識することができれば、自然な色合いで撮ることが可能になります。

オートフォーカス

レンズを自動的に前後に移動させ、ピントを合わせます。

以下のような特性があります。

- 被写体の縦の線がもっともはっきり見えるように調整する
- よりコントラストの強いものに焦点を合わそうとする
- 画面の中央部にしか焦点が合わない

このような特性のため、次のようなシーンではオートフォーカスは正しく働きません。
マニュアルフォーカスで撮影してください。

● 遠くと近くのものを同時に撮る

画面の中央に焦点が合うため、近くのものを撮ると、背景にピントが合いにくくなります。遠くの山を背景に人物を撮る場合、両方に焦点を合わせることはできません。

● 汚れたガラスの向こうのものを撮る

汚れたガラスにピントが合ってしまうので、ガラスの向こう側のものに焦点が合いにくくなります。また、車の往来が激しい道路の向こう側を撮る場合も、横切った車にピントが合ってしまうことがあります。

● キラキラと光るものが周りにある

キラキラ光るものに焦点が合ってしまうので、撮りたいものにピントが合いにくくなります。海辺、夜景、花火、特殊なライトが輝いているところなどではピントがぼけることがあります。

● 暗い場所を撮る

レンズに入ってくる光の情報が少なくなるため、ピントが合いにくくなります。

● 動きの速いものを撮る

機械的にレンズを動かしているため、速い動きには追いつけなくなります。
例えば、激しく動き回る子どもを撮るときは、ピントがぼけることがあります。

● コントラストの少ないものを撮る

コントラストの強いものや縦の線に焦点が合いやすいので、白い壁などコントラストや縦の線がないものには、焦点が合いにくくなります。

メガピクセル

100 万画素のことです。メガピクセルで記録した画像は、通常の撮影で撮った映像よりもきれいにプリントできます。画質を保持するために、カードの画像データを使ってプリントしてください。(本機に映像コードなどを接続し、出力した映像信号を使ってプリントしても、メガピクセルのきれいな画質は得られません)

JPEG

JPEG とは、Joint(ジョイント) Photographic(フォトグラフィック) Experts(エキスパーツ) Group(グループ) の略で、静止画圧縮のフォーマットの名称です。

プログレッシブ機能

本機のフレーム静止画機能は、ずれのない高画質な静止画を撮影するために、絞りをシャッター動作させ、フィールドメモリーを2 個搭載し、制御しています。

実際には、

① フォトショットボタンを押す(または静止画ボタンを押す)
② 瞬間に絞りを閉じ、次の映像がレンズから入ってこないようにする
③ 同じ画像データを 2 つのフィールドメモリーに記憶する

といった動作をします。

この結果、2 つのフィールドにそれぞれ同じ映像を記録し、フレーム映像にするので、フィールド画像に比べると約 1.5 倍の解像度になり、しかもずれがありません。

4ECM ステレオマイクロホン

音を収音する ECM 素子(エレクトリック・コンデンサ・マイクロホン)を天面に4つ配置することにより、広がりのあるすぐれたステレオ感と正面方向の音声を確実に集音する指向性とを両立させています。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です）

⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
🚫	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 危険

バッテリーパックは、本機専用の AC アダプターで充電する

指定以外の充電器で充電すると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

AC アダプターは、本機専用のバッテリーパック以外の充電には使わない

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

⚠ 危険

指定以外のバッテリーパックを使わない

バッテリーパックの端子部（⊕・⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

バッテリーパックを分解、加工（はんだ付けなど）、加圧、加熱、火中投入などをしない

バッテリーパックを炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない

液もれ・発熱・発火・破裂の原因になります。

- ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。
- 不要（寿命）になったバッテリーについては、135 ページをご参照ください。
- 万一、液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
  液が身体や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。
  液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

⚠ 警告

雷が鳴り出したら、本機の金属部や AC アダプターなどの電源プラグに触れない

接触禁止

落雷すると、感電の原因になります。

⚠警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V ～ 240 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。

- 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

コイン電池やメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

⚠警告

乗り物を運転しながら使わない

事故の誘発につながります。

● 歩行中でも周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

分解、改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

● 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

異常があったときは、電源プラグを抜く

・内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
・落下などで外装ケースが破損したとき
・煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。

● バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
● 販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

● 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

電源プラグのほこり等は定期的に取る

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

● 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠注意

カセット挿入口に指をはさまれないように注意する

けがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼす原因になることがあります。

- 病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

- カセットやカードは、保護のため取り出しておいてください。

本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災の原因になることがあります。

⚠注意

コイン電池は誤った使いかたをしない
・⊕と⊖は逆に入れない
・加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない
・ネックレスなどの金属物といっしょにしない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温（約60℃以上）になります。本機やカセット、バッテリー、ACアダプターなどを絶対に放置しないでください。
外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

フラッシュ発光中に、近くで発光部を直接見ない

強い光により、目を痛める原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。
たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。

フラッシュの発光部分を直接手で触らない

接触禁止

やけどの原因になることがあります。

● 発光直後は、しばらく触らないでください。

使用上のお願い

ビデオカメラについて

- 使用中は本体が温かくなりますが、異常ではありません。

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ（携帯電話、電子レンジ、テレビやゲーム機など）からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で映像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、映像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、映像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプターを一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影映像や音声が悪くなることがあります。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないようにする
また海水などでぬらさないようにする

- 砂やほこりは、本機やテープの故障につながります。（カセット、カードの出し入れ時はお気を付けください）
- 万一海水がかかったときは、よく絞った布でふき、そのあと、乾いた布でふいてください。

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

- 強い衝撃が加わると、外装ケースがこわれ、故障する恐れがあります。

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを外しておく、または電源プラグをコンセントから抜いておきます。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- 本機は、柔らかい乾いた布でほこりや指紋をふいてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を水でうすめ、その液にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

監視用など、業務用として使わない

- 長時間使うと、内部に熱がこもり故障する恐れがあります。
- 本機は業務用ではありません。

フラッシュについて

- フラッシュの内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になりますので、分解しないでください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなるまたは低くなるほど影響が大きくなります。温度の低いところでは、満充電表示にならない場合や使用開始後5分くらいでバッテリー警告表示が出る場合があります。また、高温になると保護機能が働き、使用できない場合もあります。

使用後は、必ずバッテリーを外す

- 付けたままにしておくと、本機の電源が「切」であっても、絶えず微少電流が流れています。そのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなる恐れがあります。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- 撮影したい時間の3～4倍のバッテリーを準備してください。スキー場などの寒冷地では、撮影できる時間がより短くなります。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるように、ACアダプターも忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグも必要です。(P64)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本体やACアダプターに付けると、本体やACアダプターをいためます。

使用後は、必ずカセットを取り出し、バッテリーを外す、または電源プラグをコンセントから抜く

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。(推奨温度:15℃～25℃、推奨湿度:40%～60%です)
- 極端に低温、高温になるところで保管すると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 高温･多湿、油煙の多いところでは、端子がさびたりして故障の原因になります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、ビデオカメラで充電容量を使いきってから再保管することをおすすめします。
- バッテリーの端子部に付いたほこりなどは取ってください。

不要(寿命になったなど)バッテリーは火中などに投入しない

- 加熱したり火中などに投入すると、破裂する恐れがあります。
- 充電直後でもバッテリーの使用時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命です。新しいものをお買い求めください。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください

使用済み充電式電池(バッテリー)の届け先
最寄りのリサイクル協力店へ。
詳細は、社団法人電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。

- ホームページ: http://www.JBRC.com

使用済み充電式電池の取り扱いについて

- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

充電式
リチウムイオン
電池使用

ACアダプターについて

- 熱くなっているバッテリーは、通常より充電時間が長くかかります。
- バッテリーの温度が非常に高い、または非常に低い場合、[CHARGE] ランプが点滅し続け、充電できないことがあります。バッテリーの温度が適温になったあと、自動的に充電が始まりますので、しばらくお待ちください。それでも [CHARGE] ランプが点滅し続ける場合は、バッテリーまたはACアダプターが故障している可能性がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ラジオ（特にAM受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は1m以上離してください。
- 使用中、ACアダプターの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしていると、ACアダプター単体で約0.1 Wの電力を消費しています）
- ACアダプター、バッテリーの端子部を汚さないでください。

機器を電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）へ容易に手が届くようにしてください。

カセットについて

カセットは絶対に高温の場所に置かない

- テープがいたんで、再生時にモザイク状のノイズが出ることがあります。

使用後は、必ずテープを始端まで巻き戻し、取り出して保管する

- カセットを本機に入れたままにしたり、テープを途中で止めた状態で半年以上（保管状態により異なります）置いておくとテープがたるみ、いたみます。
- 半年に一度、テープを巻き直ししてください。テープを1年以上巻いたままにしておくと、温度や湿度による膨張、収縮などでゆがみが起きることがあります。またテープどうしがはり付いてしまうことがあります。
- ほこりや直射日光（紫外線）、湿気などでテープをいためます。このようなテープを使用すると、本機やヘッドをいためる恐れがあります。
- 使用後は、必ずテープを始端まで巻き戻してから、ほこりなどから守るため、カセットをケースに入れ、立てて保管してください。

カセットに強い磁気を近付けない

- 磁石を使った器具（磁気ネックレスやおもちゃなど）は、思ったより磁気が強く、大切な撮影内容を消したり、ノイズを増やす原因となります。

カードについて

カードの出し入れは必ず電源スイッチが「切」の状態で行う

カード動作中ランプが点灯中（カードにアクセス中）は、カード挿入部を開けてカードを抜いたり、電源を切らない、また振動や衝撃を与えない

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない、また折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊される恐れがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失する恐れがあります。

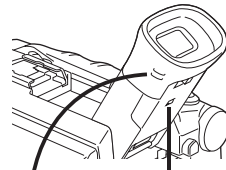
使用後は、必ずカードを取り出して保管する

- 使用後や保管時、持ち運びのときは、収納ケースなどに入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また、手などで触れないでください。

miniSD™ カード（別売）について

- miniSD™ カードは、必ず専用の miniSD™ アダプターを装着してご使用ください。miniSD™ カードのみを入れると、本機やカードが故障する場合があります。
- miniSD™ アダプターのみを本機に入れないでください。また、miniSD™ アダプターを本機に入れた状態で miniSD™ カードのみを抜き差ししないでください。正常に動作しない場合があります。

液晶モニター / ファインダーについて

- 液晶面が汚れたときは、柔らかい、乾いた布でふいてください。
- 温度差が激しいところでは、液晶モニターにつゆが付くことがあります。柔らかい、乾いた布でふいてください。
- 寒冷地などで本体が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると、通常の明るさに戻ります。
- ファインダーの中のごみは、ファインダーを外してから取り除いてください。ごみが取りにくいときは、水で少し湿らせた綿棒などで取り除き、そのあと乾いた綿棒などでふいてください。

- **液晶モニター / ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニター / ファインダーの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。**液晶モニター / ファインダーの画素については 99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けや常時点灯するものがあります。また、これらの点はテープやカードの映像には記録されませんので、ご安心ください。

定期点検のお願い

美しい映像をご覧いただくために、使用環境（温度、湿度、ほこり）などによって異なりますが、およそ使用 1000 時間をめやすに清掃、ヘッドなどの摩耗部品を交換されることをおすすめします。

さくいん（アイウエオ順）

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

英・数字順

その他

■ デジタルビデオカメラ

電源	DC 7.9/7.2 V
消費電力	録画時 4.8 W（ファインダー使用時） 6.0 W（液晶使用時 明るさ：標準）

信号方式	NTSC 日米標準信号方式
録画方式	Mini DV 方式（民生用デジタル VCR SD 仕様）
使用テープ	6.35 ミリ幅デジタルビデオテープ
録画時間	最大 80 分（SP）120 分（LP）（DVM80 使用時）
テープ速度	SP 時：18.812 mm/ 秒　LP 時：12.555 mm/ 秒
映像記録方式	デジタルコンポーネント記録
音声記録方式	PCM デジタル記録：16 bit（48 kHz/2ch）　12 bit（32 kHz/4ch）
撮像素子	CCD 固体撮像素子（総画素 107 万 × 3、 有効画素数　静止画 約 99 万 × 3、動画 約 70 万 × 3）
レンズ	自動絞り 12 倍電動ズーム F1.6（f = 3.3 ～ 39.6 mm / 35 mm 換算:テープ 44.5 ～ 534 mm、カード 37.6 ～ 451 mm） テレマクロ付き（フルレンジ AF）
早送り・巻き戻し	約 2 分 20 秒（DVM60 使用時）
フィルター径	43 mm
ズーム	光学 12 倍・デジタル 30 倍・スーパーデジタル 120 倍
モニター	3.5 インチ液晶モニター（約 20 万画素）
ファインダー	電子カラービューファインダー
マイク	ステレオマイクロホン（ズーム機能付き）
スピーカー	20 mm 丸型 1 個
白バランス調整	自動追尾ホワイトバランス方式
標準被写体照度	1400 ルクス
最低照度	12 ルクス（なめらかカラーナイトビュー時　2 ルクス）
映像出力	1 Vp-p 75 Ω
S 映像出力	Y 出力：1 Vp-p 75 Ω　　C 出力：0.286 Vp-p 75 Ω
音声出力	316 mV　インピーダンス 600 Ω
ヘッドホン出力	77 mV 32 Ω負荷時（AV ミニジャック兼用）
映像入力	1 Vp-p 75 Ω
S 映像入力	Y 入力：1 Vp-p 75 Ω　　C 入力：0.286 Vp-p 75 Ω
音声入力	316 mV　インピーダンス 10 k Ω以上
マイク入力	マイク感度 –50 dB（0 dB = 1 V/Pa 1 kHz）（ステレオミニジャック）

USB	カードリーダーライター機能（著作権保護対応無し） USB 2.0 準拠（ハイスピード）、USB 端子 TYPE miniB PictBridge 対応
デジタルインターフェース	DV 入出力端子（IEEE1394、4pin）
フラッシュ	GN 6.0
外形寸法	幅 81 mm × 高さ 80 mm × 奥行き 178 mm
本体質量	約 700 g（バッテリー、テープ、レンズキャップ含まず）
使用時質量	約 800 g（付属のバッテリー、テープ：AY-DVM60、レンズキャップ使用時）
推奨使用温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	10 %～ 80 %
バッテリー持続時間	66 ページを参照してください。

メモリー機能

記憶メディア	SD メモリーカード ：8 MB、16 MB、32 MB、64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB マルチメディアカード ：4 MB、8 MB、16 MB
静止画記録方式	JPEG（DCF/Exif2.2 準拠）、DPOF 対応
記録画素数	2288 × 1728 / 1600 × 1200 / 1280 × 960 画素（MEGA）、640 × 480 画素（VGA）

WEB カメラ

圧縮方式	Motion JPEG 準拠
画像サイズ	320 × 240（QVGA）
フレームレート	約 6 fps

■ AC アダプター

電源	AC 100 — 240 V 50/60 Hz
入力容量	24 VA（AC 100 V 時）/ 32 VA（AC 240 V 時）
DC 出力	7.9 V 1.4 A（ビデオカメラ）
充電出力	8.4 V 0.65 A（充電）

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！

●使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間 （「本体」にはソフトウェアの内容は含みません）

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このデジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
製　品　名	デジタルビデオカメラ
品　　番	NV-GS400K
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）

0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック
お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30
(closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

ナショナル／パナソニック 修理ご相談窓口

北海道地区

- **札幌** 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251
- **旭川** 旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151
- **帯広** 帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477
- **函館** 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎(0138)48-6631

東北地区

- **青森** 青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712
- **秋田** 秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600
- **岩手** 盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120
- **宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
- **山形** 山形市流通センター3丁目12-2 ☎(023)641-8100
- **福島** 福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

首都圏地区

- **栃木** 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555
- **群馬** 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109
- **茨城** つくば市花畑2丁目8-1 ☎(029)864-8756
- **埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960
- **千葉** 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034
- **東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
- **山梨** 甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5171
- **神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
- **新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171

中部地区

- **石川** 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683
- **富山** 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705
- **福井** 福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606
- **長野** 松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)86-9209
- **静岡** 静岡市西島765 ☎(054)287-9000
- **名古屋** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
- **岡崎** 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
- **岐阜** 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
- **高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
- **三重** 久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近畿地区

- **滋賀** 守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021
- **京都** 京都市伏見区竹田中川原町71-4 ☎(075)672-9636
- **大阪** 大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225
- **奈良** 大和郡山市筒井町800番地 ☎(0743)59-2770
- **和歌山** 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
- **兵庫** 神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

中国地区

- **鳥取** 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695
- **米子** 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129
- **松江** 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128
- **出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133
- **浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629
- **岡山** 岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162
- **広島** 広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
- **山口** 山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050

四国地区

- **香川** 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477
- **徳島** 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125
- **高知** 南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142
- **愛媛** 松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144

九州地区

- **福岡** 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036
- **佐賀** 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151
- **長崎** 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658
- **大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815
- **宮崎** 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213
- **熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
- **天草** 本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
- **鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
- **大島** 名瀬市長浜町10-1 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

- **沖縄** 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0104

Panasonic

デジタルビデオカメラ　NV-GS400K　取扱説明書

この取扱説明書の印刷には、植物性
大豆油インキを使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

愛情点検　**長年ご使用のデジタルビデオカメラの点検を！**

こんな症状はありませんか	・電源コードやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水などの液体や異物が入った ・映像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　月　日	品　番	NV-GS400K
販　売　店　名	☎（　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　）		

松下電器産業株式会社

ネットワーク事業グループ

〒 571-8505　大阪府門真市松生町 1 番 4 号

システム事業グループ

〒 571-8503　大阪府門真市松葉町 2 番 15 号

F0604Ha0 (　10000 Ⓐ)